

UFO出現特集

SINCE 1961

GAP JAPAN NEWSLETTER



UFO

UFO/超能力/宇宙哲学
コンタクティー

contactee

UFO、デザートセンター上空を飛ぶ

私はアダムスキー型円盤を至近距離で見た
UFOを頻繁に見る私のカルマ
生命と物質と超能力

異星人はなぜ地球へ来るのか

SUMMER
1994

125



〈巻頭言〉 UFOと想念波動	1
UFO、デザートセンター上空を飛ぶ	久保田八郎 2
私はアダムスキー型円盤を至近距離で見た	大野 義和 8
UFOを頻繁に見る私のカルマ(1)	溜池みゆき 12
不思議な予知透視	米川 宣雄 18
突然出現した不思議な人間	千葉 敏江 19
〈写真〉オレゴン州のUFO	20
GAP短信	21
科学—SCIENCE—	22
生命と物質と超能力	伊藤 睦史 24
英語上達のための助言(完)	久保田八郎 31
異星人はなぜ地球へ来るのか	G・アダムスキー 32
おめでとう!	42
大盛況! 第1回・横浜支部大会	43
〈予告〉第5回・秋田支部大会	44
〈予告〉第2回・伊豆支部大会	45
本誌/バックナンバー掲載記事目録	46
〈予告〉1994年度日本GAP海外研修旅行	47
〈投稿欄〉ユーコン広場	48
〈広告〉新アダムスキー全集	50
編集後記	51
日本GAP全国月例セミナー案内	52



金星人からジョージ・アダムスキーに伝えられた金星のシンボルマーク。2個の図形の内、左側は宇宙の女性原理(陽)、右側は男性原理(陰)を意味する。円は宇宙をあらわしている。

GAPについて

GAPは「知らせる運動」という意味の世界的なグループ活動で、世界中の人々がUFOの真相について「知る」機会を与えられるべきであるという見地に基づいて1959年にジョージ・アダムスキーによって創始されました。彼の願いは「最大多数の人が現代の真実を発見して、来たるべき時代に眼を転じること、人間はすべて“コスミック・パワー”の子であり、そのパワーの諸法則が宇宙に遍満している事実を確信をもって知ること」にありました。この諸法則は他の世界(惑星)から来る友好的な訪問者からもたらされた“生命の科学”の研究と理解を通じて体得できます。

日本GAPの目的はUFOとスペース・ブラザーズ問題に関心ある人々に伝えることにあり、奉仕活動を通じて真実の解明と宇宙の法則の実践を呼びかけることにあります。その中心思想は次のとおりです。

1. この太陽系の他の惑星群には偉大な発達をとげた人類が居住しているが、米ソ等の大国政府はこの真相を隠している。
2. 他の世界から来る人々はこの世界の政治家や科学者とひそかにコンタクト(接触)しており、危機にひんした地球に対して救援の手をさしのべている。官民を問わずスペース・ブラザーズとコンタクトしている人々が少数存在すると思われるが、通常その真相は洩らされていない。
3. ジョージ・アダムスキーがもたらした哲学は、人類の精神の向上と地球の輝かしい未来を築くために不可欠のものである。

本誌は他の団体・個人と対立するものではなく、政治・宗教と関係のない非営利刊行物です。本誌が読者に対して多少とも役立てば幸いです。

〈表紙写真〉

1977年7月26日、午前10時30分頃、ウルグアイのマルドナドでセルヒーオ・オタメンディ氏の運転する車のエンジンの力が急に落ちて、ついに車は停止した。その時前方をUFOが飛ぶのを見たオタメンディ氏はカメラをつかんで車外に飛び出してこの写真を撮影した。物体は銀色のドームのある円盤型。

UFOをよく目撃する人に精神的に純粋な人が多い。これは数十年にわたる編者の研究調査の体験から言えることである。つまりなんとかして自分の精神や魂の向上を図ろうという、いわゆる求道精神の強い人に多いのだ。

この理由は、高度な想念波をもつ人にはスペースビープルも同調しやすいのではないかと考えられるのである。想念波というのは物理学で検証されていないから、そんなことは仮設にすぎないという人もあるだろうが、一九五七年頃からアメリカで人間の想念波の

(巻頭言)

UFOと 想念波動



実在を確かめるためのテレパシーに関する研究が盛んに行なわれるようになった事実を考えてみれば、すでに科学的に実証されたとみる方が適切ではあるまいか。その証拠にアメリカでは一九五八年に原子力潜水艦ノーティラス号を使い、壮大なテレパシー実験を実施して、驚くべき成果をあげているからである。アメリカの科学界の進歩的態度は瞠目にあたいする。

その年、米国防務省の委託によってメリーランド州フレンドシップ市のウェスティングハウス社、その他の著名な

大企業がテレパシー研究の実験を開始した。これは電波利用の無線通信が傍受されるおそれがあるところから、これにかわる画期的な通信方法としてラウンド・コーポレーション社が大統領に上申書を提出したのが発端である。

五八年にはアメリカ内陸部にいる人間が、二〇〇キロ離れた深海中に潜水しているノーティラス号の艦内の人間にテレパシーによる図形を送信するという当時としては物凄い実験を決行した。この指導には米空軍研究所生物部長のB・ボワーズ大佐があたり、同年七月二五日から一六日間、続行されたのである。

方法は次のとおりだ。ノースカロライナ州ダラム市のデューク大学生史密斯がフレンドシップ市の実験室にこもって、機械の中から自動的無作為にゼナーカードが一分おきに五枚出てくるのを見つめて、その図形を思念し、二〇〇キロ離れた潜水艦に送信する。出てきたカードの五種類の図形を史密斯が次々と紙に描いて、それを封筒に入れ、ボワーズ大佐に渡す。大佐はそれを金庫に入れて厳重に保管する。これを毎日二回くり返す。

一方、潜水艦の中では受信者としてジョーンズ海軍中尉が秘密裏に乗り組んでいて、一六日間、指定された送信時間に図形を受信して解答を紙に描き、それをアンダーソン艦長に渡す。艦長はそれを金庫に保管する。乗組員の誰

もこんな実験が行なわれていることを知らない。

こうして、一六日間の実験が終了し、潜水艦が帰港してから、ジョーンズ中尉は解答の入った封筒を持ってフレンドシップ市に直行する。そしてボワーズ大佐に渡す。大佐は史密斯の送信図形と中尉の受信図形を照合して採点する。その結果、なんと七〇パーセント的中したことが確認されたのである。

(詳細はカンジンスキー著、西本昭次訳『生物学的無線通信』。新水社刊を参照) 著者のカンジンスキーは旧ソ連の科学者だが、やはりテレパシーの研究に専念した人で、動物との実験などもやって、人間の想念波の存在を確認している。彼がロケット開発の父と謳われたツイオルコフスキーと会見したとき、この偉大な科学者が語った次の言葉を感動をもって記している。

「やがて宇宙飛行の時代がくるなら、人間のテレパシー能力は、なくてはならないものとなり、人類の全般的な進歩に役立つでしょう。私とあなたとは精神的兄弟——つまり思想的同志——と呼ぶことができます。私の宇宙ロケット理論は大宇宙の偉大な秘密を解きあかすはずであるし、あなたの理論は生きている小宇宙の秘めかくされた秘密を解きあかし——脳の思考物質の本質の偉大な謎を解きあかすことができます」(同書一六一頁)

というわけで、人間ばかりか植物ま

でも意識を持ち、想念らしきものを放射しているという事実はニューヨークの研究者バックスターその他の科学者が実証している。しかし科学界で正当の理論として認められるまでには、長年月を要するのだ(この詳細はピーター・トムキンズ/クリストファー・バード著、新井昭廣訳、『植物の神秘生活』(工作社刊)を参照)。

アダムスキーによると、別な惑星の人々はテレパシーが凄く発達しており、地球人の想念を確実に見通しているという。したがって人間の精神的発達との度合いも一目瞭然である。我々が未知の国へ行くとき、低次元な野蛮な人間よりも精神の高度に発達した人に接触したがるのと同様に、異星人も地球人の想念波を検知して(そのような機械があるという)高次元な人と接触したがるだろう。UFOをよく見る人に純粋な人が多いというのも、こちらへんに理由が存在していると思われる。

UFOと倫理道德的な問題とを結びつけるのは非科学的にみえるかもしれないが、実は科学の最たるものであって、今のところ学校の教科書に出てこないだけだ。

二月一〇日、編者はカリフォルニア州デザートセンターで夜通しテレパシーでUFOに送信して大きな成果を得た。これも想念波によるのだろう。二一世紀は想念波の研究が科学界の主流を占めるようになるだろう。(久)

UFO、デザートセンター上空を飛ぶ

★久保田八郎（日本GAP会長）

本年二月一〇日、日本GAP久保田会長は助手二名と共にデザートセンターのアダムスキーによるコンタクト地点で徹夜のUFO観測網をして成果をあげた。以下はその貴重な報告。

テレパシーで呼びかける

日本GAP本部は毎年一〜二月にカリフォルニア州デザートセンターへ調査行を実施している。ここは一九五二年一月二〇日、ジョージ・アダムスキーが、着陸した円盤から出てきた異星人とコンタクトした場所として名高く、今世紀におけるUFO問題の記念碑的な土地である。

私達は一九八八年よりここで組織的な調査を行なって、各種写真資料と照合した結果、真実のコンコクトの場所であったことを実証しており、その詳細については本誌に再三報告している。

今回は調査というよりも、むしろ夜間にテレパシーで呼びかける観測を実施しようという計画し、私に本部役員二名

が同行した。田中淳（三三）と加藤純一（二三）である。例年はもっと多数で行くのだが、今回は夜間に車の中で休息する必要があるために人数は三名だけに限定された。

ロサンジェルズ大地震の誤報

一月一七日にロサンジェルズで大地震が発生したという報道が世界の耳目を揺るがしたため、市内の幹線道路がずたずたに寸断されて、車の走行はままならぬのではないかと危惧していたが、九日に行つて見て拍子抜けした。市内は全く正常そのもので、私達が毎年利用するハリウッド・フリーウェイやサンベルナルディノ・フリーウェイなどの高速道路は全然無傷である。いったいどこに地震があつたんだいと首をかじげたくなるほど、都市のあらゆる面が正常に機能していた。

要するにあの地震はロス郊外の海岸に近いサンタモニカ地域だけの地震であつて、ロサンジェルズ大地震では

なくてサンタモニカ地震と呼ぶべきだと現地の日本人が言っていた。日本のマスコミの信じられないような大誤報に考えさせられた次第。

美しい南カリフォルニア

翌一〇日、私達の宿泊したハリウッドのホテルから遠からぬ「Hittite」というレンタカー屋で八人乗り大型ワゴンのDodgeを借りる。五・二リッターの強力なエンジンだ。一行のマネージャーは田中になつていたので、同君が一切の交渉をする。その英語は立派に通用した。彼は教育関係企業の経営者でもあるので、ひそかに英語の勉強をやっていたのだろう。

大体に彼が英語で交渉等をする場合はほとんど助け舟を出さないことにしている。私がかわつてしゃべったのは本人が英語に慣れる機会を失うことになるからだ。彼も加藤も外国ではものおじすることなく堂々と振る舞うから、私には有力な助さん格さんとな

つて頼もしいことこの上ない。いったいにアメリカ人は、アメリカへ来る外国人が英語を話すのを当然だと思つているから、英語が出来なければ全く相手にされない。

一〇日、午前一〇時五〇分、三人でホテルを出発。薄曇りの天候下、ハリウッド・フリーウェイを疾走。運転はすべて田中が担当。やがて片側四車線のサンベルナルディノ・フリーウェイを時速七〇マイルで南下する。車の大群が洪水のごとく流れるなかを一路デザートセンターを目指す。

一二時前にリゾート地として名高いパームスプリングズのデニーズで昼食。米人ウェイトレスはみな明るくて親切で印象がよい。日本が不景気とはいえ、まだ日本人はおカネの固まりみたいに見られているから、チップをはずむと大喜びする。

店を出てから、見慣れた南カリフォルニアの雄大な美しい風景が展開するなかを快走。何度も紹介したが、カリフォルニア州では道路にゴミを捨てる



▲左より加藤純一、久保田八郎、田中淳。
□サンジェルズにて。

と一〇〇〇ドル(一〇万円強)の罰金を取るという高札があちこちにあり、屋外に洗濯物を干すことも法律で禁止されているので、あらゆる場所が非常に清潔で奇麗で、日本の比ではない。

直線の多いモダンな民家の白壁や棕櫚の木に陽光が反射して、濃い陰影と強いコントラストをなしている。米人達の生活の実態は分からねぬが、この風光は東洋のそれとは完全に異質である。もつとも、アメリカの現状は外観だけでは分からない。アメリカに留学してそのまま多年住みついて事業をやっている私の息子に言わせれば、アメリカはどのようにもならぬほど行きづまっているという。複雑な裏面があるのは、

当方、百も承知しているが、それでもこの国に惹かれるのはアダムスキーの大地であるからだ。

岩山の上空に丸い物体

三時頃にデザートセンターのコンタクト地点に到着。まだ明るいので私は三五ミリカメラで立体写真を撮りまくった。ここで立体写真を撮る意願が果たせて安堵した。

四時前頃、コンタクト地点の裏側の高い岩山を撮影中、フィルムが切れたので入れ替えようと振り向いたとき、そばにいた加藤がアッと叫んだ。遠い岩山の上空の青空に円形の銀白色の物

体が瞬間的に出現したのを見たという。彼は特殊なカルマを持つ人間らしく、都内でも頻繁にUFOを目撃したり写真にも撮ったりするから、それと何かの関連があるのかもしれない。

四時四〇分に日没となり、暗くなり始めた。五時半に食事をすませると、やがて星々が輝く。空気が澄みきっているの、その煌きは壮麗この上ない。こんな美観を呈する夜空を見たのは初めてだ。各星座が絢爛たる衣装を競いあっているかのようで特に大熊座が凄いい。創造主の御手による壮大な宇宙ドラマに圧倒されて大感動した。

真つ赤なUFOの強烈な輝き

六時五分、南方の空、すなわちコンタクト地点からパーカー街道側を見た方向の上空に、東から西へオレンジ色に輝く光体がゆっくり移動するのを発見。すわUFOか!と双眼鏡で見ると、光体が二個接近して飛んでおり、後尾に赤い光が点滅しているので、飛行機だと結論づけた。

ところが、それが右の西の方向へ移動して行った直後に、今度はその方向から逆に東の方へ飛ぶ光体が見えた。それがオリオン座の下のあたりを通り過ぎるとき、一瞬ものすごく真つ赤な色に輝いて、また弱くなった。

「これはUFOだ!」と三人でいっせいに歓声をあげる。輝度の変化は何か

のサインだったのではないかと思われるが、よく分からない。私はしきりにテレパシーで感謝の想念を送り続けた。野外は風が強くて、かなり冷える。私は多年にわたる夜間観測で使用した冬山用防寒服を着用していたが、オーバースポーンを持参しなかつたので下半身が冷えた。温度計で計ってみると意外にも摂氏二〇度ある。温度計が故障しているのか、実際にそんなものなのかは不明だ。

ここは不思議な場所

一時すぎ頃、暗黒の車内で眠れぬまま目を閉じて瞑想を続けていると、突然、火花が打ち上げられる光景を透視した。左から右にかけて斜めに黄色や赤い火花がすさまじい勢いで打ち上げられる。これが何を意味するのか分からない。いったいにこのデザートセンター砂漠地帯は不思議な所で、夜間、頭の中で人の声のような音響が聞こえてきたり、その他奇妙な現象が発生する。加藤もやはり頭の中に人間の声らしいものが響いたという。

一二時頃に野外へ出て観測を続ける。ときには星の大群を眺めながら大宇宙に溶け込むような感覚が生じて、全身が限りなく透明になる。瞑想という宗教的だと批判する人があるが、これは真意を誤解しているにすぎない。

明け方のUFO

その後、たびたび車内で休憩しては外で観測を続けながらUFOらしい飛行体を何度か目撃する。明け方五時七分、北極星の上あたりを西から東へ飛翔するオレンジ色の光体を加藤と二人で見る。双眼鏡で見た加藤によると、全体的に点滅する光体で、飛行機ではないという。UFOによつてはまるで呼吸をするかのように機体全体が光の強弱をくり返すのもあるから、やはりUFOなのだろうか。

これ以外にも点滅する飛行機は夜間ずいぶん見ているのだが、それは機体の一部が点滅するので、飛行機であることはすぐに分かる。数十年にわたる観測体験によつて、双眼鏡さえあれば飛行機、UFO、人工衛星の判別ができる私だが、それにしても夜通し砂漠地帯の上空をこうまで間断なく飛行機を飛ばすアメリカの底力をかいま見る思いがした。

聖地デザートセンター

六時五分にあらゆる星が消えて空は明るくなり、デザートセンター砂漠に黎明が訪れた。日の出が美しい。

再度写真撮影後、七時一五分にパーカー街道を出発、いつも立ち寄るガソリンスタンドで燃料を補給して発進

する。

インディオの町を通過してパロマー山麓の美しい高原地帯を通り、サンディエゴを通り抜けてメキシコのティファナへ入ったのは四時頃だった。ここはメキシコの土俗的な田舎町で、国境を一步越えればあらゆるものが一変する様子が面白い。

一泊三〇〇円の古いホテルに宿泊して翌日北上、ロサンジェルスへ午後一時すぎに着いたので、ハリウッドのユニバーサル・スタジオへ見学に行った。日本人の観光客だらけで、よくもカネと暇があるものだと思心する。不況だといってもまだ日本人には余裕があるのだから。

こうして二月一四日、一同無事に帰国した。六日間の旅だったが全く愉快な日々を過ごした。

田中・加藤の両君は実によく健闘してくれた。献身的な奉仕の美しさをこれほどに実感したことはない。

アダムスキーが一九五二年一月二〇日、デザートセンターで異星人とコンタクトした詳細については、新アダムスキー全集第一巻『第二惑星からの地球訪問者』（中央アート出版社）を読みたい。また私達が頻繁にこのコンタクト地点を調査してきた実情については、本誌に過去数度記事を掲載している。

特に一九八八年一月二〇日、第一

次の日本GAP調査団が現地を訪れた

とき、コンタクト地点から数キロ離れた東寄りの岩の丘に不思議な曲線が約三メートルにわたつて刻み付けられているのを発見して、円盤の回転タツチダウンによる摩擦の結果であると断定した詳細は本誌一〇四号に『デザートセンターで円盤着陸痕跡発見!』と題する記事で詳報してあるし、翌年の八

九年一月二日には何かに導かれるようにして正確なコンタクト地点を発見した状況が『デザートセンター円盤着陸事件』と題して本誌一〇五号に掲載されている。また一九九二年の一月二七日にここを訪れた第五次調査団は、白昼巨大な母船が出現するのを目撃した。この劇的な光景は本誌一一七号に『巨大宇宙船、デザートセンター上空に出現!』と題して詳述してある。この記事は英文版ユーコン誌第九号にも英文で掲載されて海外で評判になった。

こうして私達が毎年のようにデザートセンターへ調査に来るのは、来るたびに何かが発生すること、ここが私達にとつて一種の聖地であり（という宗教的響きが、宗教とは全く無関係）、この大地の高貴な波動に触れたいからである。何度訪れても素晴らしいデザートセンターのコンタクト地点こそ私達の魂の故郷といえるだろう。

デザートセンターから続く道

この歴史的な土地がまったく風化して世界から忘れ去られようとしているのではない。ここを最大のポイントとして雄大な計画のもとに全世界にアダムスキー問題を基調としたアピールをしつつあるのが、ほかならぬ日本GAPなのである。だから私達はこの場所を重視しているのだ。

というのは、遠からず太陽系内の各惑星群に大文明が存在することを米政府が公表する兆しが見えてきたからである。詳細は差し控えるが、来世紀の初頭に驚異的な発表がなされて、世界人類の価値観や知識を根底から覆すような一大潮流が渦巻くだろう。そのために混乱が発生するかもしれないが、それは一時的なもので、やがて人々は井蛙の管見から目覚めて、雄大な宇宙志向の精神をいざようになるだろう。その時期は意外に早く到来すると思われる。そして来世紀こそが真の意味での宇宙時代となるだろう。

私達の努力はけつしてむだにはならない。極東の日本GAPこそ驚くべき先駆をなすグループであったと後世が認めるだろう。ただし我々は名利を求めているのではない。あくまでも自己の宇宙的な成長と魂の拡大を求めているにすぎない。そしてこの世界から遙かなる惑星への転生の旅を希求して道を歩むのだ。その道はデザートセンターから続いている。今後何度もこの地を訪れたい。

●メキシコに出現した奇妙な雲

2月10日のデザートセンターにおける観測の翌日(11日)、3名でカリフォルニア州を南下して国境を通過、メキシコへ入国したものの、手続きの不備でいったんアメリカ側へ引き返す途中、検問所の手前約200mの所まで来たとき、右手のメキシコ人部落の上空に逆U字形の奇妙な白い雲のようなものが浮かんでいるのを加藤純一が発見、撮影した。これを見たたん、本人は再度入国は容易にできると直感したという。そしてそのとおりに簡単にメキシコへ再入国できた。写真右下の日付は2月12日となっているが、これは本人が誤ってセットした数字で、11日が正しい。この写真を秋山寅人氏が鑑定した結果、これは典型的なUFOによるサイン雲で、逆U字にくっついて真下に円盤が存在しているけれども、わざと機体を見せないようにしているのだという。



● デザートセンターの立体写真

写真A=1952年11月20日、アダムスキーが異星人とコンタクトした場所で、異星人の靴の裏の模様をジョージ・H・ウィリアムソンが石膏にとっているところを同行目撃者数名が見ている光景。

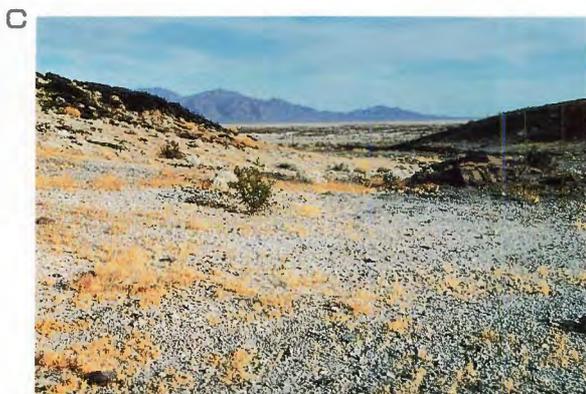
写真B=590m離れたパーカー街道から見たコンタクト地点

写真C=Aと同じ位置を今年2月10日に久保田八郎が撮影したもの。両側の丘と遠くの山脈の輪郭が一致している。



〈立体写真の見方〉

BとCの写真を目から約30cm離して見る。そのとき目は写真を見つめようとしないで、遠くを見るようにすると、左右の写真が互いに中央へ接近してピタリと重なる。すると画面が実景さながらに浮き上がって見える。うまく見えない人は、左右2点の写真の中心部に長さ30cm、幅10cmの厚紙を直角に立てて、上端を鼻につけて、左右の目で遠くを見るようにするとよい。あるいは遠くを見つめている目の前の約30cmの空間に上から写真を下へおろすと、左右の写真が重なって一致するので、そのときに浮き上がって見える。



写真A=金星のスカウトシップ（円盤）が機体の一部を接地させた斜面に立つアダムスキー。これはコンタクトの直後に撮影された。

写真B=同じ場所を今年2月10日に久保田八郎が撮影したもの。地形や背後の岩山の輪郭が完全に一致している。久保田がこの写真を撮影した直後に、右側の高い峰の右上方に白銀色の丸い円形の物体が瞬間的に出現したのを加藤が目撃した。

写真C=デザートセンターの中心地域にあるガソリンスタンド（右側後方）。右手前に少し見える黒い車の前部が3名の使用したワゴン。立体写真の見方は右頁の説明を参照。



私はアダムスキー型円盤を至近距離で見た!

★大野義和

約一〇年前、都内杉並区の高井戸上空で出現したアダムスキー型円盤を目撃した人がいた。奥さんも見ており、アパートの他の住人たちも見て大騒ぎになった。

この素晴らしい報告は当初、UF0研究家の荒井欣一氏から編者にもたらされたものである。荒井氏はわが国UF0研究界の先駆者の一人として日本空飛ぶ円盤研究会を主宰し、多年活動を続けたが病を得て長く休会中。自宅ビル内にUF0専門博物館「UF0ライブラリー」を開設している。

昨年六月下旬、数日間これを特別公開する旨の紹介記事が新聞に掲載され



▲大野義和氏

て、これを読んだ目撃者・大野氏がここを訪問、荒井氏に目撃体験を語ったために、荒井氏を通じてこの情報が日本GAPにはいつてきた。荒井氏は本来アダムスキー型円盤の存在を否定する立場を堅持してきたが、絶対にウソをついているとは思えない大野氏の誠実な話を聞いて、アダムスキー型円盤の存在を認めないわけにゆかなくなると編者に語っている。

また、これを読んだ目撃者・大野氏がここを訪問、荒井氏に目撃体験を語ったために、荒井氏を通じてこの情報が日本GAPにはいつてきた。荒井氏は本来アダムスキー型円盤の存在を否定する立場を堅持してきたが、絶対にウソをついているとは思えない大野氏の誠実な話を聞いて、アダムスキー型円盤の存在を認めないわけにゆかなくなると編者に語っている。

円盤だと大声で叫ぶ!

正確な年月日はよく覚えていませんが、今から一〇年ぐらい前のことで、八月の夕方でした。当時私は現在とは違う前のアパートに住んでいました。それは高井戸にあったアパートで、今でも高井戸に住んでいます。夏のことですから、大島へ家族で旅行に行くという事になったのです。

そのときは車で熱海まで行って、それから船で大島へ行く手筈になってい

ました。それでアパートの前でたまたま車の中を整理していたときに、なにげなく上空を見上げたら、なんとアダムスキー型の円盤がすぐ近くに大きく浮かんでいるのです! 見えていた時間は一分弱です。

あとで女房に聞いたら、女房も見たというのです。彼女は三機見たと言っていました。私はでかい声で「あつ、円盤だ!」と叫んだんです。

その駐車場の両面にはアパートがありましたので、ベランダにいた人たちもいつせいに見上げて目撃していました。

私はアダムスキー型円盤が存在することは昔から知っていました。興味があつたんです。しかし見たのは初めてです。それから、びつくりしちゃって、それでかい声を出したわけです。

そのとき女房は部屋にいたんですが、私の声がかいもんです。すぐに窓際へ行つて見たというわけです。三機見えたと言っていました。私には一機しか見えませんでした。これは私が低い所にいたからでしょう。家内は二階から見えました。

底部に三個の球形着陸装置が

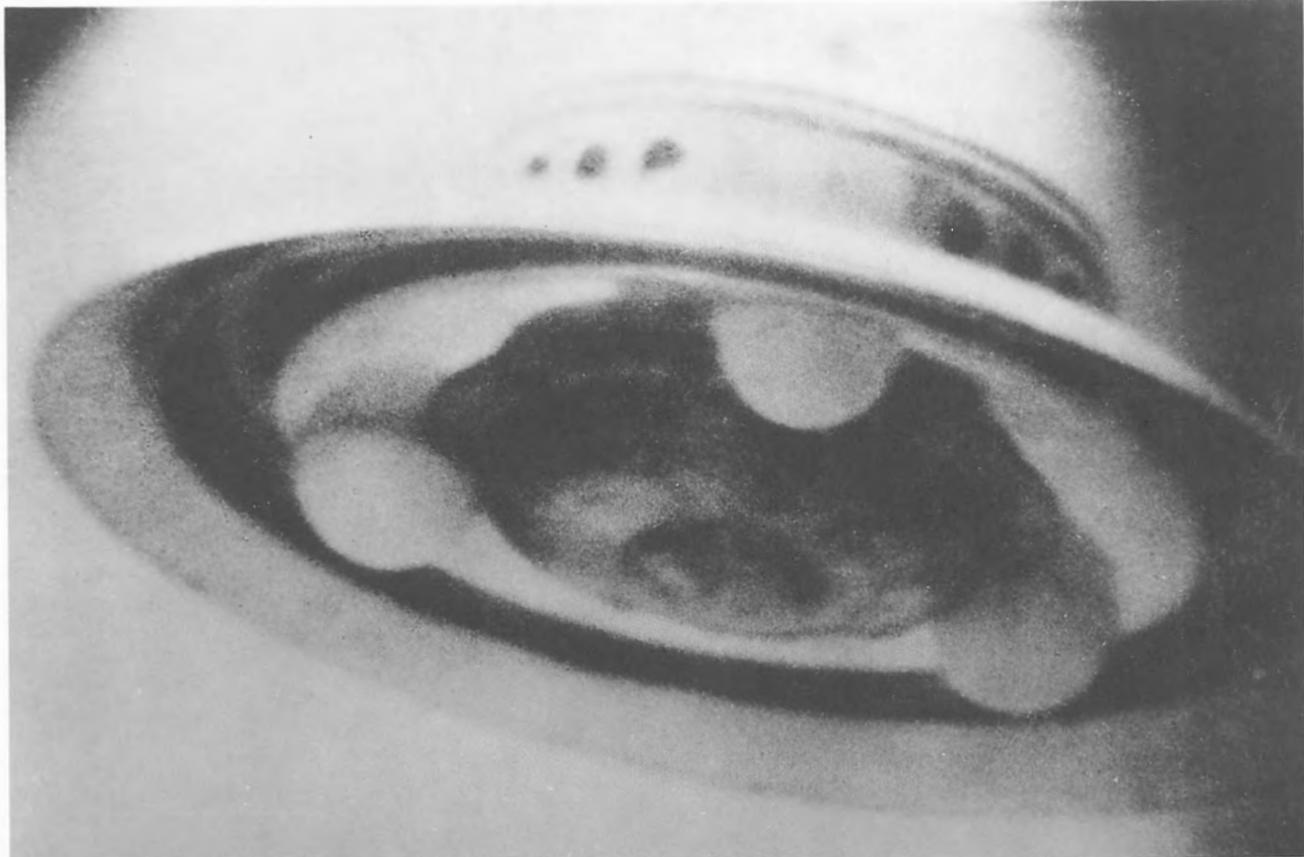
円盤は斜め下から見えたんです。機体の底の所に円形の車輪みたいな物が一つは薄暗く見えました。あとの二つは完全にはつきりと見えませんでした。丸い物が三つあつたことは確かです。

ちょうど雨上がりの夕方のことで、空がよく晴れて、円盤全体が非常に鮮明に見えました。そのとき写真を撮ればよかつたのですが、あいにくカメラが手元になくて、二階の私の部屋に戻つてカメラを取つて来ようという考えもなかつたもの。それから、円盤がゆつくりと北へ移動するのを追いかけて、ズーッと見つづけていました。

近くにお風呂屋さんがあるんですが、その上空あたりへ円盤が行つたときにパツと消えたというか、なくなつちやつたんです。

円盤の高度はかなり低くて、見えた大きさはこれぐらいです(と言いながら両手を約五〇センチぐらいの間隔で広げてみせる)。高度は一〇〇メートルから二〇〇メートルのあいだぐらいでしょう。藪み(かき)たいな所があつて、その上の上空にいましたね。

雨上がりの夕方ですから、円盤の輪郭がくつきりと浮かび上がって、ずいぶん奇麗(きれい)でした。丸い窓が三つほど並んでいました。その窓は薄明るく見えました。窓の中に灯火がついていた



▲1952年12月13日午前9:10頃、米カリフォルニア州パロマー山腹のパロマーガーデンズで、ジョージ・アダムスキーが6インチ反射望遠鏡に手札版カメラを装着して撮影した金星の円盤。

のではなくて、白っぽい明るい感じてしたね。

アダムスキー型円盤である ことを確認

女房が三機見たというのは、私にはよくわかりませんが、私は一機見ただけですが。あるいは他に二機が遠くの方にいたのかもしれない。

私が見たときにはアダムスキー型だなということがすぐわかりました。斜め下から見えましたね。したがって輪郭は楕円形でしたね。

私はそれまでにアダムスキーの名前は知っていましたが、アダムスキー型円盤がどのような物かも知っていません。関心があったのです。しかし当時UFO研究団体があったとは知りませんでしたし、写真も撮っていませんから、どうせ人に話したところでバカにされるだけだからと思って黙っていたんですよ。

ところが、たまたま荒井さんのUFO博物館のことが新聞に出たもので、一日の日曜日に子供と一緒に見に行きました。すると、そこにアダムスキー撮影の円盤写真の大きなのがあったものですから、自分もちょうどこんな物を見たと言って荒井さんに話したというわけです。

(ここで新アダムスキー全集第一巻に掲載されている斜め下から見上げた形の円盤写真(上段の写真)を見て、ち

ようどこれと同じような状態で見えた(と大野氏は言う)

その頃に住んでいたアパートは古いアパートでしたが、河合荘といって四所帯の建物で、今もあります。そこから現在のアパートへ引っ越してきてから一三年になりますので、円盤を目撃したのは今から一〇年ほど前ですね。今は高井戸の駅のそばのアパートに住んでいます。

目撃した当時のアパートは高井戸の甲州街道沿いにありましたが、円盤は高井戸の駅上空から甲州街道に向けてずーっとゆっくり飛んだことになりました。音は全然しませんでした。

荒井氏も真実であることを認める

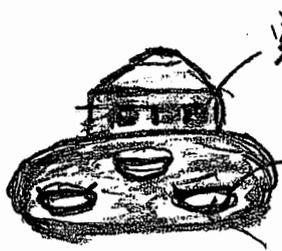
円盤はグレーっぽい金色でした。夕暮れ時ですから、夕日を浴びてそんな色に輝いたのかもしれませんが。円盤は回転しないで、ほんとうにゆっくりスーッと滑るように移動していました。

たぶん私が見たのは、最接近していた機体で、あと二機いたというのはかなり離れていたのかもしれませんが。女房が三機見たというのは、二階から見ているから見晴らしがよいもので、遠方の他の二機まで見えたのかもしれないね。

しかしこんな物を見たということは、なかなか人には言えないものです。写真でも撮って証拠があれば、新聞社

●大野義和氏によるスケッチ

○住所 高井戸東2丁目。
 ○8月夏の雨上りの夕方より3時
 5分頃 北から南方向から
 PM
 ○10時頃 7:30 ~ 8:00



窓が明かり
 見る。 9/10年から13年前
 黒色
 車輪白色

○杉並区高井戸駅方向から
 国道20号線沿
 2D-10-2に
 中ぐり道



土場

かUFO研究団体に見せて話せるのですが、自分の肉眼で見ただけですから「それは違うよ」言われればそれまですからね。

それで荒井さんにもそのことを話したら「そんなにはつきり見たというのは珍しい例だ」と言っていました。

何かしら予感があつた

この頃テレビでよくやっているヘンなUFO事件はあまり信じません。私は自分の目で見たから信じているんです。アダムスキー型円盤は絶対に存在するということを私は一〇〇パーセント確信をもって断言できます！（大野氏は大きな声で叫ぶように語る）。

目撃したあとは驚きのあまり足がすくんで家まで動けないような状態でした。円盤はほんとうにスローに移動して、北から南に動いていましたよ。時間は夕方七時半から八時までの間でした。ちょうど薄暗くなつた頃です。

大体にその日は「今日は円盤が見れるかもしれない」という予感のようなものがあつたんです。その日は大島へ行くというので、何と言つていかよくわからないんですが、何かUFO的な物が出るんじゃないかな、という半信半疑な気持ちが出て、こういうときにUFOが出るんじゃないかなと思つてはいました。そうでないと上空を見ませんからね。

円盤を見たときは、全く何とも言えませんでしたね。生まれて初めてですからね。

大島は遊びで行く予定でした。私の女房の弟の友達が、大島にいます。それで行くかという話になつたんです。竹島棧橋から船で行くと時間がかかるものですから、熱海から行くに近いんです。それでそこまで車で行くかとしていたわけです。

とにかく日本GAPのようなUFOの研究団体があつたとは全く知りませんでしたし、UFO関係の書物も本屋さんあたり置いてないものですから、早く知らせることが出来なかつたのが残念です。

大体、私が体験もしないことをウソをついて見たなんてことは言えませんよ。人にバカにされるような話をでつちあげてまで話すわけにはゆきませんからね。

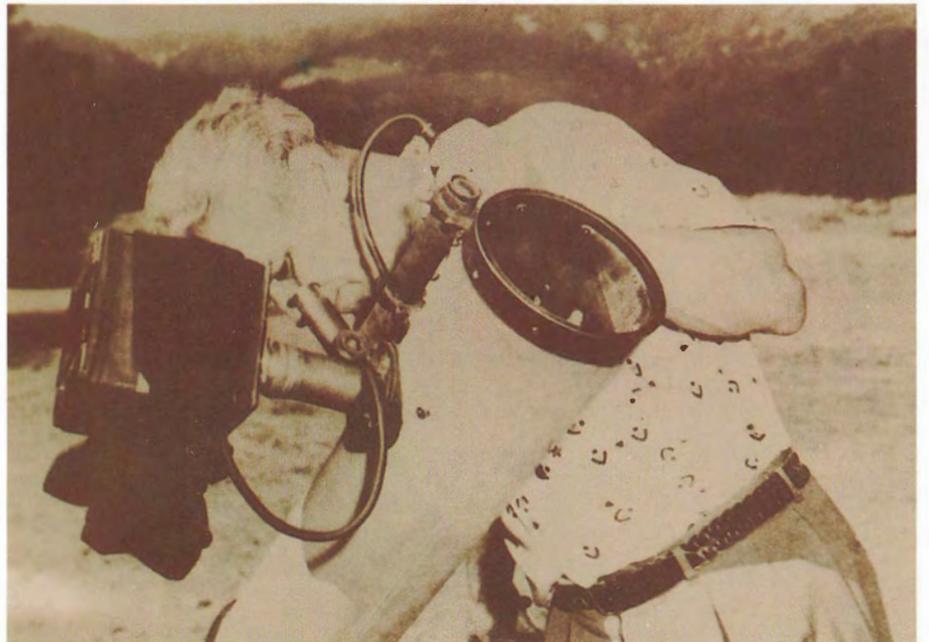
円盤の直径は実質的に一〇メートルか一五メートルはあつたでしょうね。とにかく凄いい体験でした。

編者注

大野氏は都内世田谷区の下北沢生まれ。現在四七歳。今は杉並区の建設関係会社に勤めている。千鶴子夫人とのあいだに一男一女がある。

がっちりとした体格で豪放な性格に見えるが、話しぶりは誠実そのもの。まっ正直に体験を伝えているという印

▼パロマー山腹で6インチ反射望遠鏡をのぞくジョージ・アダムスキー。



象を受けた。円盤の写真が撮れなかつたことを悔やんでいるけれども、これはむしる撮らないで話だけで伝える方がよかつたのかもしれない。アダムスキー型の円盤写真をかたづけしからニセモノ扱いするサイレンス・グループ

がいるからだ。こうした現状から見ると、高井戸におけるUFOの出現は大野氏の純粋さと関連したUFO側の何らかの配慮があつたのではないかと思われるし、大野氏自身のカルマとのかわりもあつたと考えられる。

不思議なほど連日のようにUFOを目撃する筆者は鹿児島県のGAP会員。特殊な環境に育ちながら純粋な生き方を求め、独身で職業婦人として自立している本人のカルマは宇宙的な要素に基づくものなのか。興味深い体験記。

他人の役に立ちたい

私は三五歳、まだ独身です。小学校の低学年の頃より家庭環境で苦しみ、「幸せになりたい」と願いつづけてきました。これまでにいろいろな体験を

してきました、それらを乗り越えながら少しずつ成長して行くことができました。

特に二三歳のときに兄を亡くし、それをきっかけに私は生命を与えられました。「なんとかして生まれ変わりたい!」と思い、毎日の感謝と精神哲学を勉強し、生活の中で体験し、それを生かして行くことができました。他人の役に立ちたいということをいつも目標にして今もお努力しています。現在は化粧品販売の代理店を経営しています。私のカルマだと思つて楽しんで

自分に自信をもつとUFOが出現する

結婚願望がありますので出会いは多いのですが、何度も失敗し、そのたびに自分を見つめて反省することばかりです。でも確実に成長しているようです。自分を飾ることなく、正直に素直にさらけ出し、成長しあえる相手と必ず出会いたいと思つています。

今までいろいろなことを体験し、失敗し、そのおかげで自分が成長でき、他人の気持ちも理解することができましたし、勇気と生きる希望を与えることができるようになりました。自分に対していつも自信を持つて、生き生きと見返りなしで生きています。必ずUFOと遭遇します。誰かの役に立とうとするエネルギーは非常に強いのではないかと思います。

しかし自分を責めすぎたりすると自信を失い、なかなか立ち上がりにくく、その場合はUFOをいくら呼んでも決して現れることはありません。まず自信を持つことが大切です。そしてそれを持ち続けるために努力し、みずから体験を積んでゆくことが必要だと思います。体験でしか学べないですからね。

不思議な現象を体験

私はまだ勉強不足なのですが、会員

の方からオーラの見方を教えて頂きましたので、少しオーラが見えるようになりました。寝るとき、潜在意識を変えるために祈りながら寝るのですが、最近ある日、左のまぶたの中に丸い光が二つ突然現れてびっくりしました。そして左の頭の中からヴォーン、ヴォーンという感じの音が急に聞こえてきたこともありました。ドゥカーンというとても大きな音が体の中から聞こえたこともあり、びっくりして目が覚めたことが数回あります。

また夢で見たことがそのまま現実で起こったり、後頭部に文字が突然出てきて分からないことがあったり、画像が現れて現実になったこともありましたが、最近そんなことが今のところありませんので、訓練して少しずつ能力を引き出してゆこうと思つています。

しっかりと足を大地につけて、仕事や生活の中で多くの人と出会い、多くを学び、自分をより以上に高め、自分を生かして多くの人に伝え続け、地球が平和で、他の惑星の方達と同じような意識を持ちながら生活できることを祈つて、これからも一生懸命に生きてゆこうと思つています。

UFOとの遭遇はとて多いいものですから、おもなものを紹介します。

不幸だった幼い頃の思い出

私は小学校二年ぐらの頃、自分の

UFOを頻繁に見る私のカルマ

溜池みゆき My UFO Sightings and Karma
by Miyuki Tameike

く生き生きと役立つ仕事をしておりません。

親切的なGAP会員の人達

昨年九月一六日、初めて待望のUFOと遭遇しました。日本GAPとの出会いは今年(九三年)の七月二三日です。私にとつてどちらも偶然ではなくて、出会うべくして出会ったのではないかと思つています。

日本GAPの会員の方達は皆さんとても親切で、私にユーコン誌のバック

ナンバーを何冊かと、秋山さんの『異星訪問奇談』(現在は絶版)、ヨガの本、超能力の本、その他いろいろな本を貸して下さいました。また別な方から数々のお手紙を頂き、東京本部月例セミナーの昨年のテープも貸して下さいました。UFOに関する情報、超能力に関することなど、少しずつなのですが、月例セミナー以降、勉強不足なので、本で確認することが多い現状です。でも一生懸命に学びながら少しずつ成果が上がるのは楽しいものです。

生命のことで思い悩んでいました。というの、父親の毎日の激怒、女への差別等で、苦しい地獄のような毎日、いつも涙を流し、いつも死にたいと思っていました。

なぜ私は生まれてきたんだろう？なぜ私は女なんだろう？ そんな自分と毎日戦っていました。

五年生のある日、先生がいらつしやなくて静かに自習をしていたとき、突然私はスックと立ち上がり、「私は今

▲筆者・瀧池みゆきさん



日から男になります！」と大きな声で宣言して座ったのです。

教室の皆さんはざわめいて、何が起こったのかと騒いでいます。私はやっと気が晴れてその瞬間から生まれ変わる

ったように元気になり、積極的に皆さんと話をしたり、外で男の人達と一緒に走って走りまわりました。

私が手にしている本は普通の本ではなくて、『空飛ぶ円盤』『超能力』等でした。中学校でも高校でも私の読む本は変わらず、「UFO」の本でした。テレビでUFOの特集があると必ず見てまねをして外に出て呼ぶこともありましたが、一度も見ることはありませんでした。

大変化して両親に感謝

二三歳のとき最愛の兄を亡くして大変なショックで泣いてばかりいました。ある日、兄の友人がお線香をあげに来て下さり、泣いている私に「みゆき、兄ちゃんの分まで幸せにならないといけないよ」と励まして下さいました。私はその言葉でハッと我に返って、「そうだ！ 私は兄の分まで幸せに生きないと兄が悲しむ」と思い、すぐ私自身を変化させようと決意しました。父を憎み、他人を憎み、罪を犯し、消極的で、心が暗く、短期で物事をすぐに悪い方に考えて、いつも死にたいと思っていた私が、

「このままでは絶対に幸せなんてやって来ない。明るく、優しく、積極的に、自信を持って生きてゆきたい。そんな私になりたい」と思いました。心の底からです。

ある宗教に入信されていたおばさんにすぐにこのような手紙を書きました。すると返事を頂いて、「一番大切なことは自分の父母に感謝することです」とありました。人間の本当の姿は完全で無限の可能性を与えられた創造主の子なのだと書いてあります。それらを素直に信じて毎日父と母に感謝し続けました。

自分を見つめて生まれ変わる

一週間ぐらいたったある日、背中から重い石のようなものが流れ落ちるのを感じて、他人への憎しみの気持ちが感謝の気持ちに変わり、心がとても暖かく、幸せな気持ちになりました。

それからというものはずっと自分の心の幸せを求め、真理の本、精神哲学の本等を時間あるごとにむさぼり読み、自分が犯した罪の償いとして他人に役立つ人間になり、もともと良い人間になって、今の自分がこの自分のためにどれだけ努力し、魂を成長させられるのか、今生の私自身にどれだけ力を発揮できるかを賭けようと強く決意し、自分のため、他の人のため、自分の出来る行為として他人に激励を続けてきました。そして一生懸命に生きてきたつもりです。

自分自身を見つめることは本当に大切な事だと思えます。生まれ変わろうと努力し続けて一二年たちました。そ

の間、いろいろな体験をしました。他人からの裏切り、やってもいないことをやっているかのごとく噂され、ののしられたこともありました。それは私にとって苦しく悲しいことでした。自分を見つめようと座禅に一年間通いましたが、半分ノイローゼ気味になっていたので、なかなか意識の中からそのことが消えず、人間恐怖症になっていました。

でもあきらめずに乗り越えようと思つて、毎日思念を続けていました。そうしたら仕事が大変忙しくなつてきて、また以前のように明るく元気になって他人の人に役立つ人間になろうと前向きに精一杯仕事をやるようになり、人間関係においても、悩みをかかえて苦しんでいる人に勇気と励ましを与えてくれるようになりました。

初めてUFOを目撃して驚く

昨年の三月、小学校の頃からの悩みだった父との和解がやっとできました。私は晴れて心の幸せを得ることができたのです。求め続けてよかった、信じ続けてよかったと思っています。

昨年の九月一六日、午後八時四〇分、初めてUFOを見ることが出来ました。友達と二人で夕方、二つ隣の町に食事に行き、その帰りに「UFOを見たい」と思つたとき、前方左の山の上に、赤と緑の色が交互に見えて回っている物

体が見えました。星よりも大きくハッキリと見えていました。車をとめて二人で息をのんで見ていました。

すると急にその物体がスーツと降りて、それとは逆に右の方に下から上にスーツと別な物体が現れたんです。初めての事でとてもびっくりしました。それからというものはよくUFOを見る

ことができるようになったのです。

今年（九三年）の二月には、朝、友達に「今日はあなたにUFOを見せてあげるからね！」と言ったら、本当にドライブの帰りの夜、一時頃、左の空に現れました。二機別々に――。

そしてまた二月二十五日、午後八時頃、また違う友達に「UFOを見せてあげたい」と心の中で思い、ゴルフ場の駐車場に車をとめて左上空を見ると、ジグザグに飛ぶUFOを友達に見せてあげることができたんです。その帰りにもまた一機出現しました。

ジグザグに飛ぶUFO

昨年六月頃、地元の町のために何か役立ちたいと思っていたら、数日後、私の方には村起こしの話がかかり、七月に話し合いをし、一二月の産業祭に自分達で考えて創りだした劇の練習をやり始めました。

仕事のほうが大変忙しいなか、劇の練習を毎日やり、私のエネルギーがとて高くなっているのを感じていま

た。毎晩夜遅く家路にむかって車を走らせながら、「UFOはいないかなあ」と思うと、ほとんど現れました。

今年の一月に白っぽくキラキラ光る物体が二機で仲よくジグザグに飛んでいるのを見て、何か心が浮き浮きして嬉しくなってきました。ジグザグ飛行がとても多くて、二〇機以上は見えています。

真つ赤な光体が出現

今年（九三年）の二月のパーマ屋さんからの帰りで自宅に友人が来るので、車のスピードをあげて何も考えずに家路に向かっていたら、自宅の三〇〇メートル手前、右上空六〇〇メートル先ぐらゐのところで、いつものジグザグ飛行物体が出現、午後六時一五分前でした。今までで一番早い時刻でした。車をとめて一〇分ほど見ていました。

心の中で「こちらの方へ来て下さい」と言いましたら、逆に反対方向へ動き出しました。「なーんだ」と自分の力のなさががっかりして、「もう早く家に帰らない」と思い、車を走らせようとしたら、前方四〇〇〜五〇〇メートルの山の上から突然、真つ赤な光体が見れて、こちらに向かってスーツと飛んて来ました。

この真つ赤な光体は最初は小さくて次第に大きくなってきて、数秒でこちらへ動いたことが分かりました。私は

もうびっくりして、まぶたを閉じたら、その瞬間、その光体は消えていました。「ああ、しまった」と思い、右や左の上空を見上げるけれど見当たらず、右後方を見ると、なんとキラキラ光る白い物体が二機で仲よく海の方へ飛んで行くのが見えました。

円盤の底部が見える

今年（九三年）三月中旬午後六時四五分頃、自宅から車で南方へ（鹿児島市内へ）向かう。

その日の昼、友人にUFOの話をしてたら、「ぜひ見たいので、今度こちらへ伺いたい」と言われましたので、車の中でその事ばかり考えて運転してしま

した。「今までは二人の人に見せてあげたけれども、もし見せられなかったらどうしよう」と心の中でそのことばかり考えていたら、自宅を出て一〇分後、右上空に白色光体のジグザグ飛行物体が出現。また一〇分後、前方五〇〇〜六〇〇メートル先の低い山の上を真つ赤な大きな物体がスーツと左方向へ動いているのです。

私の前にも車は何台も走っていて、私は心の中で「みんな気づいているのかなア」と思いながら、その光体を右に見ながら通り過ぎました。真つ赤な光体は二度目だったので、とても嬉しく思いました。

それから一五分後ぐらゐに、左上空にジグザグ飛行物体を確認し、そしてまた一五分後ぐらゐに、右上空に円盤の底部と白色のライトがいくつも見える物体がゆっくりと左の方へ飛行しているのを発見しました。これも以前、自宅のすぐ横で見たことがあったので、とても嬉しく感じました（久しぶりって感じ）。低空だったと思います。そして三〜四分後に、左の山の上にジグザグで動く飛行物体がいました。

自宅を出て五五分ぐらゐで目的地に到着。その後友人と会い、二人で食事をしながら今日のUFOの体験を子供のようにしゃやぎながら話しました。

その友人には以前一カ月前前にUFOを見せてあげられたのですが、「今日も見せてあげられたらいいなア」と心で思っていました。

食事をすませて友人宅へと車を走らせながら空を見上げるけれどダメです。あきらめて友人宅の玄関に立ったとき、ふと空を見上げると、ジグザグの飛行物体がいました。今日は短い時間内に六機もUFOに遭遇できたことが、とても嬉しくて、なんだか信じられないぐらゐで感激しました。

悩んだらUFOが出なくな

しかしそのとき以来、人間関係で悩み出して、UFOが見れなくなりました。私は自分自身を見つめま



▲溜池さんが昨年10月3日に撮影した奇妙な雲。
フォースフィールドで包まれたUFOと思われる。

した。UFOが見られるということ
鼻にかけてしまって天狗になっ
っているんじゃないだろうか？ ラジ
オ局のディレクター（男の人）にUF
Oのことを話したとき、信じてもらえ
なくて、バカにされたからだろうか？

もうUFOを見たいと思っても全く見
られないんです。
私自身の精神的なことにはきつと関係
があるんじゃないかと思いました。悩
んでいたのも、とっても疲れていまし
た。私のエネルギーが落ちていること

は自分ですぐ分かります。一日も早く
乗り越えて元気に明るく生き生きとし
た自分自身を取り戻せば、そのときは
必ずUFOに出会えるだろうと強く確
信して、悩みなながらも前向きにある問
題に全力投球していました。

初めてGAPのセミナーに 出席

今年の六月、宮崎の友人と会い、い
ろんな話をしていたら、その友人は春
頃から何かのきっかけでUFOの本や
アダムスキーの本などを読み出して
いて、私にそれらの事を教えてくれま
した。私は自分の体験から彼女の読んだ
本の内容は理解できました。そして彼
女が日本GAP鹿児島支部へぜひ一度
行ってみたいと言いつ出したのです。

私は最初はとまどっていました。が、
昨年九月よりUFOに出会っていたの
で、何か分かるかもしれないと思い始
めて、今年の七月二十五日（日）に別の
友人と三人で月例セミナーに伺いまし
た。その頃はまだ悩んでいましたので、
UFOが見れない状況でしたが、私は
自分の体験と精神的な事を生き生きと
自信をもって発言しました。元気が出
てきました。行ってよかったと思いま
した。

ユーコン誌に励まされる

その月例セミナーでオーラが見れる

方がいらつしゃって、私のオーラを見
て下さいました。オーラの見方も教え
て頂きました。

その方からその後お手紙を頂き、い
ろいろと私に援助と励ましの言葉を下
さいました。その手紙で私は少し自信
を取り戻せました。

また別な方からは私の家にとても沢
山の本を送って頂き、何も知らなかつ
た私は、ユーコン誌や秋山真人さんの
『異星訪問奇談』を読んでびっくりし
たり、納得したりの連続で、感激の連
続でした。

ユーコン誌の中に遠藤さんの文章が
あり、「自分自身を変えようとする人
を、スペース・ピープルは援助される」
と書いてあり、その言葉に「そのとお
りだ！」と思えました。自分自身のこ
れまでの体験ですぐ理解できました。
そして自信を与えられました。

「やはり精神的なこととUFOの遭遇
は関係があったんだ！」と思いました。
自分の感じていたことが書いてありま
したので、とても嬉しくなりました。
『異星訪問奇談』には非常に驚きまし
た。全てを信じました。

「私ももつと勉強しなきゃダメだな。
でも私だっけってきつといつかはスペー
ス・ピープルの方々に会えるかもしれ
ない。その日までもつともつと成長し
勉強し、努力しなければ——」と思
いました。

万物に感謝の想念を放って UFO がまた出現

本を読み始めてからしばらくして私も夜(夜中の一時〜二時頃)寝る前に空に向かって祈り始めました(想念を送るの意味)。途中、ずいぶん意識がはっきりとしてきて、悩んでいたことを心で解決することができました。

全ての人、事、物に感謝し、自分が出会う全ての人達に必ず愛と勇気を与えて、私自身を含めて幸せになりますという想念を放射しました。

祈り始めて二週間ぐらいたって、九月一日の午後八時頃、仕事を終えて、お客様の家を出ると、右上空に低い位置をUFOが赤、緑の色で回りながら、北の方向にゆっくり飛行していました。私はすぐに車をUターンさせ、進行方向へ先回りして、少し高い位置に車を止め、こちらに進んで来るはずのUFOを待っていました。

しかしどこにもいません。がっかりして次のお客様の家まで車を走らせていたら、一〇分後ぐらいにまた今度は左上空(やはり低い位置)を私の走っている方向と一緒に飛んでいるのに気がつききました。

「やっぱりUFOだ!」と心で嬉しく思い、感謝しました。「やっぱり私をいつも見守っていて下さるのだなア」と思いました。三月中旬以来、久しぶりのUFOとの遭遇で感激しました。

病人を助けると UFO が出現

九月一七日(金)午後八時三〇分頃、近くの家でヨガの練習をするために車で行き、もう一人の友人が少し遅れてその家に着きましたので、二人で家の中に入ったらずいぶんいい様子で真っ暗でした。

いつものヨガの部屋のドアをあけると本人が死んだようになって寝ていました。顔の色はこげ茶みたいに変な色で血色はありません。友人と二人で話しかけますが返事もありません。

五分ぐらいい後にご主人と子供さん達が買い物から帰って来られましたので、訳を聞いたら、昨日の夜、食事後、横になってから起き上がれなくなったらしく、救急病院につれて行ったら、血液の中にばい菌が入ったらしいということでした。

枕元で黙って聞いていた私は、「この人を助けてあげたい」と心の中で強く思いました。薬を飲ませるために何か消化のよい飲み物や食べ物を買ってこようと玄関をあけたとたん、先日見たUFOと同じ赤、緑が交互に見える物体が、前面上空(低い位置)にゆっくりと北の方向に飛んでいました。私はすぐに心の中で想念を送りました。

「いつも応援して下さい、有難うございます。私は彼女をどうしても助けたいです。私に力を下さい。エネルギー

ーを与えて下さい」すると急にスピードをゆるめて止まりだしました。

そのときもう一人の人が玄関から飛び出してきて、一緒にUFOを見て、それから車を出しました。逆方向に車を走らせて止まったとき、もうUFOはその辺にはいなくて、左上空を東の方向へゆっくりと飛んでいました。

買い物から帰って私は早速右手を病人の頭部にかざしました。すると、とたんにセキを始め、鼻息がスースーとし始めて、言葉がしゃべれるようになりました。

子供と私達二人で彼女の手足の指先をマッサージしてあげて、私は何十分も彼女の頭部、鼻の上、喉の上、胸のあたりに右手をあてていました。

病気が治ったわけではないけれど、彼女が少しは良い状態になったようでした。顔色もふだんのようになり、血色も出てきて、私達二人は一〇時頃その家を出ました。手当てはもう三年前からたまに人助けのためにやっていたし、二カ月前に自分の母を治したことがあったので、少しの自信があったのです。それからは「UFOを見たい」と思うと必ず現れて下さるようになり、毎日のように見るようになりました。

UFO出現を予感

九月二四日(金)午後八時過ぎ頃、

外出するつもりではなかったのに、なにか浮き浮きと落ち着かず、UFOが見られそうな気がして、近くのお客様の所に電話して、結局その家へ出て行くことに決め、車を走らせて目的地のすぐ手前で午後八時五分頃、右上空に赤と緑の点灯でゆっくりと北の方向に向かっていている物体を発見し、車を止めてずっとその姿を目で追っていました。

心の中で「いつも有難うございます。あなたはUFOですか? もしそうだったら飛び方を変えて下さい。丸く回って下さい」と言いました。

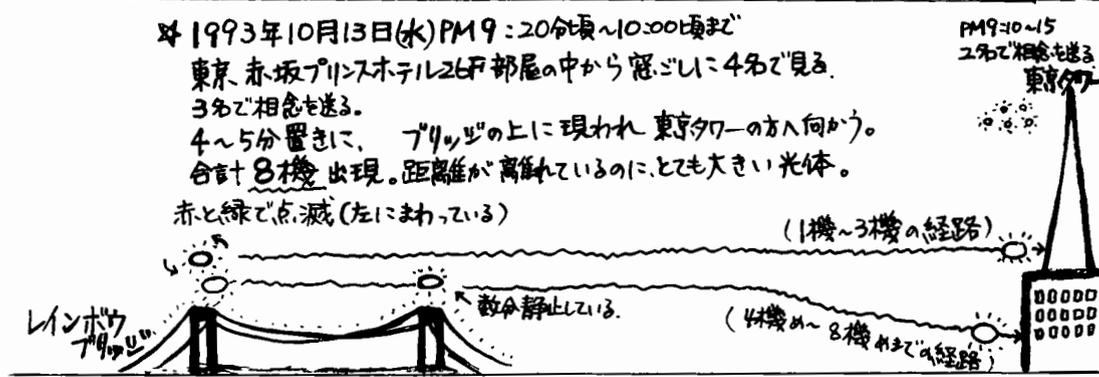
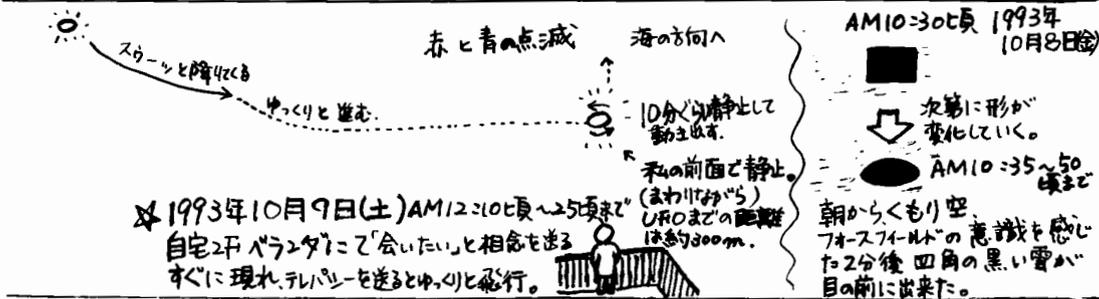
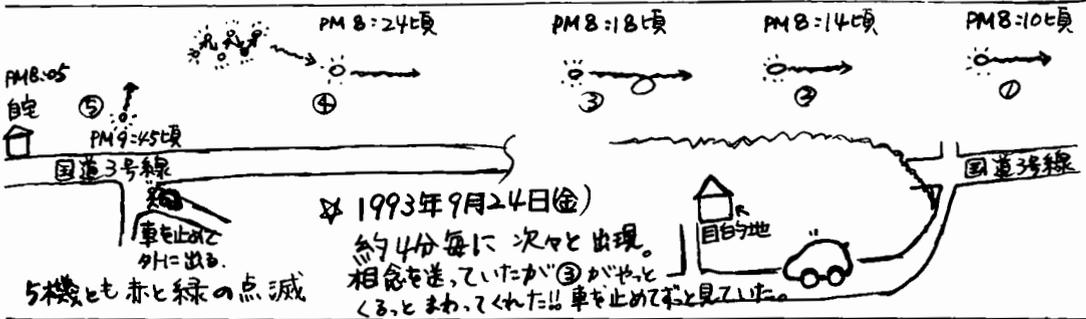
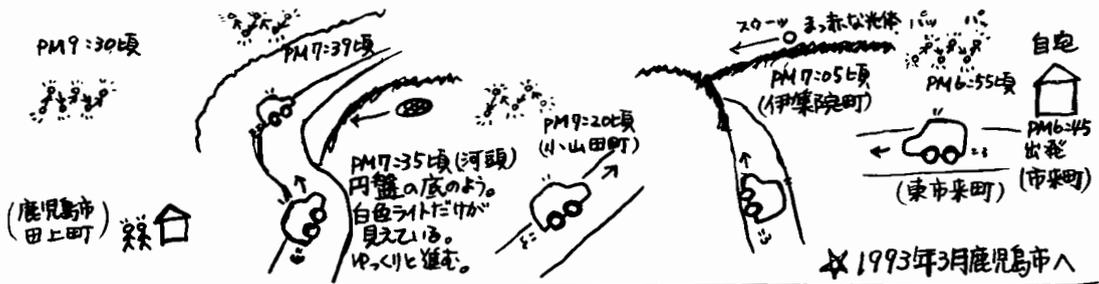
でもUFOらしき物は、そのままフラフラと北の方に向かっていきます。あきらめて車を出そうと思い、前を向いたら二機目がまた同じ方向にゆっくりとフラフラと飛んでいるのです。そこでさつきと同じ想念を送るけど、特別に大きな動きはせずに、ゆっくりと北の方向へ向かっています。

二機続けてだったから、やはりUFOに間違いないだろうと思いいたら、また三機目がおなじようにやってきて、私の近くにさしかかかったとき、くるっと一回転し、またゆっくりと同じ方向に向かいました。

私は三機目にはとくべつにお願ひしていなかったのに、しつかりと私に返事をして下さったものですから、もう嬉しくて感激していました。

(以下次号)

●溜池みゆきさんによるUFO目撃スケッチ



不思議な予知透視

●米川宣雄



▲米川宣雄氏

去る三月二三日、日本GAP本部役員
の加藤純一氏と越崎裕子さんが、めで
たく華燭の典を挙げたが(本号四三頁
に詳報)、実はこの結婚式の模様を事前
に透視していた人がいた。秋田支部に
属する米川宣雄氏である。以下はその
不思議な体験記。

ギターが語りかける！

昨年(一九九三年)九月二日(土)
午後一時過ぎ頃のことです。八月末に
引越したばかりで、家の中が雑然と
した状況でした。

家では私が一人で行いましたので、個
人の持物の整理を始めたのです。その
時二〇年来愛用してきたクラシック・
ギターがありました。もともと、この
一〇年来、ともに弾くことはありま
せんでしたが――。

新しい家は前よりも広くなり、「これ
からまたよろしくね」と家に向かつて
つぶやきながら、ケースを開いてギタ
ーを手にしたときです。

突然、ギターが私に声を出して語り
かけてきたのです！

「そろそろ練習した方がよいと思うよ」
「なんで？」

と私は思わず聞きました。

するとまもなく音声のかわりにビデオ
でも見ているような映像が私の頭
の中に飛び込んできたのです。

その光景は次のとおりです。

白っぽい上品なテーブルクロス。そ
の上ややや控え目な花。そして若い一
組の男女がいます。

多数の人々がお祝いの言葉を述べて
います。どうやら結婚祝賀パーティー
のようです。といってもホテルでの豪
華で派手な宴会ではありません。清楚
な感じで、心地よいバイブレーション
に満ちていました。

そしてこの私がなんとギターを手に
して歌おうとしているではありませんか。
人前でギターを弾くなど二〇年近
くも前にやっただけで、現在の私には
考えられないことです。

またギターが答える

こんなに力が入ったお祝いをする相

手とは誰だろうかと思いがら、少し
間をおいて、姪のK子ではないかと勝
手に考えました。

するとギターが「違うよ！ 男性の
方から呼ばれるんだよ！」と答えるの
で、また驚いて、若い二人の顔をズーム
アップして見るのですが、ズームに
すると顔の部分が白銀のように光って
よく見えないのです。ただ体型から二
人とも小柄な感じでした。

ここで映像は終わりました。

映像の主人公が判明

さて、ここからが大変です。私の身
近なところの男性とは誰なのか？ な
ぜ私が予知できたのか？

以前にも多少の予知体験はありまし
たが、映像を見たのは初めてでした。
また、なぜギターが語りかけてきたの
か？ この九月二日(土)に何か意
味があるのだろうか？ さまざまな疑
問が渦巻くのですが、かいてもく解りま
せん。

ところが二カ月と少したった一二月
の末頃、以前に秋田市で親しくしてい
た東京在住の加藤さんから電話があっ
て、結婚することになったというので
ありませんか！ これで、あの映像の
主人公が加藤純一さんであったのだと
確認できたのです。

しかしその後、年末年始と私は多忙
になり、二月に入っても加藤さんから

は東京でのパーティーに出席してくれ
との話が全然ないものだから、これ
は予知とは違っているのではないかと、
もしかしたら秋田でのパーティーだっ
たのではないかと思っていた二月末に、
日本GAP秋田支部代表の伊藤正治さ
んから、東京で三月二三日に加藤さん
の結婚式と披露宴があるので出席でき
ないかと問い合わせがありました。
「ああ、私は予知どおりに、やっぱり
東京へ行くことになっていったんだ！」
と確信した次第です。

透視はいつでも可能

今回の貴重な体験から、多くの事を
学びました。

●ギターも人間に向かって語りかける
のだ！ 形があるものはすべて意識を
持ち、想念を放っている。万物は一体
である。

●日中でも、目を開いていても、テレ
パシクな未来透視の映像を受信でき
るということ。またこの出来事の背後
に「ある偉大な力」が作用していたと
感じる。これこそ私達が学ぶところの
「大宇宙の英知」「宇宙の真理」ではな
いか！

一三日に東京の素晴らしい結婚式と
お祝いパーティーで新郎新婦にお目
にかかることを楽しみにしています。

(編注)筆者は一三日に出席して透視
が正しかったことを確認した)

本号一二二号に「不思議な体験連続の人生」と題する記事を書いた都内葛飾区の千葉福造氏からの報告によると、今度は夫人の敏江さん（四三歳）が不思議な体験をしたという。睡眠中の夢ではないし心霊的な幻覚でもない現実のこの出来事は何を意味するのか。千葉氏によれば、夫人は特にUF0に関心はないけれども、一〇年ぐらい前に自宅上空を灰皿ぐらいの三色に光るUF0を見たことがあるという。以下は敏江さんの手記とスケッチ。

朝寝坊しないように、いつもは道路側の雨戸を三〇センチぐらい開けて寝ますが、翌日は日曜日ということもあり、全部雨戸を閉めて真っ暗な状態で寝ました。

今年の二月一二日のことです。真っ暗なはずの部屋が明るいので目を覚まし、「雨戸を全部閉めて寝たはずなのに、いつもの習慣で少し開けていたのかな？」と思い、すぐ横の雨戸を（左側）を見ると、きちんと閉まっています。

と同時に「なんでこんなに明るいのかな？」と思つてふと見ると、廊下からの入口（右側）の所に身長一八〇センチぐらいの背の高い、目鼻立ちのはつきりした、とてもきれいな人（男性か女性か不明）が立っていました。

普通、光り輝くという金色を想像しますが、その人はステンレスのような銀色の、足もとまですっぽりかかるガウンのような衣装を身に着けて、銀色の光を放ち、直立状態で立っていました。

頭からもすっぽりと同様の銀色のものので覆い、顔だけ出していました（眉の形から唇の形まではつきりとしていました）。

そのステンレスのような洋服がとても明るくて、私の方に向けてスポットライトを当てているように光り輝いていました。

神様が立っている

初めは主人が立っているのかと思つたものですから、半分身を起こして、主人が眠っているのを確かめて、今度は隣の部屋に寝ている息子が寝ぼけてトイレに行くのの間違えて戸を開けたのかと思ひ、子供の名を二度呼んで確かめてみました（主人も子供も身長は一八〇センチ近くあります）。

その人物の顔があまりにもきれいで神秘的なので、恐怖感は今もなくなり、

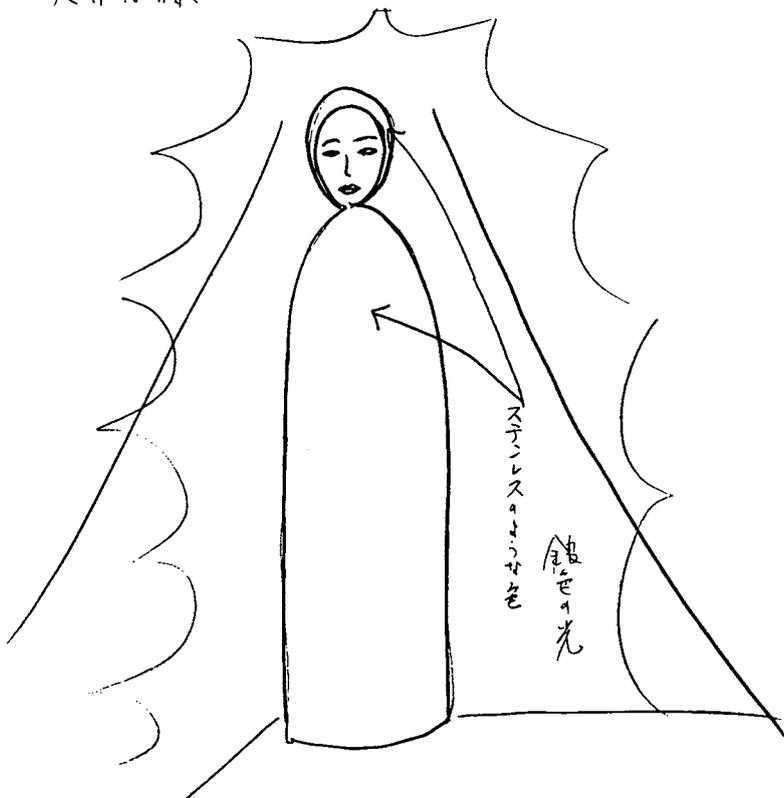
「ああ、神様が立っている」と直観的に思いました。

真っ暗なはずの部屋がその人の光によつて主人が寝ているのが確かめられるほどの明るさでした。恐怖感がないので、そのまま寝ましたが、まだ明る

いので再度目を開けますと、その人は同じ状態のまま立っていました。そしてまた私は自然と寝てしまいました。なぜこのような不思議な現象が発生したのか全くわかりません。恐怖心がないのでよけいに不可解です。

●目撃者・千葉敏江さんによる 不思議な人間のスケッチ

天井は暗く



突然出現した 不思議な人間

●千葉敏江

An Amazing Human Being
Suddenly Appearing in My Room
by Toshiie Chiba

●オレゴン州のUFO

1992年の、米オレゴン州ポートランド市で、10代の少年のグループが市の上空を奇妙な円盤型物体が飛ぶのを頻繁に目撃したと言い出した。そして35mmカメラで約70枚の撮影に成功した。中にヘリコプターと一緒に写っているものもある。この噂が流れるや、政府筋と思われる者から脅迫をされて、写真類の提出を命じられた上、事件の一切について極秘にせよと言い渡された。そこで彼らは写真の内5枚だけを、新聞に出たことのある有名なイギリスのUFO研究者トニー・ドッドに送った。結局この写真はドッドの手から公開されることになった。秋山眞人氏の鑑定によると本物のUFOであるという。



★「話のチャンネル」誌が久保田会長を取材

日本文芸社発行「話のチャンネル」誌(毎月二回発行)の本年二月五日号に、日本GAPの久保田八郎会長が大きく取り上げられて、GPAの活動状況が四頁にわたって詳細に掲載された。

この雑誌は若い人向きのやわらかい記事や写真特徴とするが、フリーライター、ヒロ・三田村氏が会長宅を訪問して取材した「UFOは我らの友人、地球の救世主」と題する誠意あふれる記事は、会長やアダムスキーの写真類と共に突出して異彩を放っている。

★「パルメイトニュース」誌も紹介記事を掲載

㈱パルメイト発行の情報誌「パルメイトニュース」(毎月二回発行)本年二月二五号に「UFOはオカルトじゃない! 宇宙平和を真剣に考える時代」と題して掲載された特集記事には、日本GAP提供の各種UFOの写真やユーコン誌に掲載された目撃事件等が多数紹介されて、日本GAPの存在を伝えている。

★英文版ユーコン誌第九号発行

英文版「UFO contactee」第九号が二月末に発行された。今度は日本語版ユーコン誌一一七号に掲載された「巨大宇宙船、デザートセンター上空に出現!」と題する長い記事を英訳し、カラー写真数点とともに載せられた。事前の広告では一二三号の「凄い超能力

者のUFO目撃と遠隔透視」と題する記事も英訳掲載と出ていたが、紙数の都合でこれは省略された。他にもアダムスキーの質疑応答と日本GAPの活動状況も掲載されている。これは世界中のUFO研究団体と個人研究者に送られた。

★第一回・横浜支部大会、大盛況

横浜支部の第一回大会はさる三月二〇日、横浜市の港の見える公園内の総合結婚式場「ポルトヒル横浜」で開催され、約七〇名の出席者を得て盛況であった。翌日は市内を観光し、ランドマークタワーその他を見学、異国情緒に満ちた国際都市の一日を満喫した。詳細は本号四二頁に出ている。

★第五回秋田支部大会

今年秋田支部大会がまたも盛大に大会を開催する。日時は四月三〇日の土曜日、会場は趣向をこらして仙北郡田沢湖畔のホテル「田沢湖ハイツ」で午後一時より五時まで。翌日は春の八幡平と田沢湖周辺を車で周遊。東北方面の会員多数の参加が期待される。

★第二回伊豆支部大会

花のゴールデンウィークには伊豆支部が五月三日(二連休の初日)、修善寺町の総合高級リゾートホテル「ラフォーレ修善寺・第一研修館」で大会を開催する。翌日は伊豆半島周遊の観光を実施。夜は松崎町の超一流温泉ホテル「松崎プリンスホテル」に宿泊。多数の参加が見込まれる。

以上二カ所の支部大会の詳細予告は、本号四四、四五頁に出ている。

★九四年度日本GAP総会

今年度の総会は一〇月九日、東京タワー前の機械振興会館地下二階ホールで盛大に開催予定。今回はアメリカGPA主宰者ダニエル・ロス氏が来日して講演を行なう。通訳は坂本真一氏。夜は同会館の六階の大ホールで大夕食会を開催。翌日はロス氏と共に都内観光を実施する。詳細予告は本誌一二六号に掲載の予定。昨年同様に大盛況が期待される。

★九四年度日本GAP海外研修旅行

既報のとおり今年度も八月二日より二二日までの一〇日間、日本GAP企画第一六回「アメリカ・メキシコ・コスタリカの旅」を実施する。費用は五九万五千円。今回はアメリカ・ロサンゼルス、デザートセンターを訪れたあと、メキシコ市、テオティワカンの大遺跡、パレンケの古代マヤの遺跡を見学。さらに中米最南端に近いコスタリカへ行く。二月末で正式申込者は五名あるので、この調子ならば二〇名程度に達すると思われる。詳細広告は四七頁に出ている。

なお、一般の不況のために今年度の旅行でもって日本GAPは当分の間、海外研修旅行を中止するので多数参加されたい。

★おめでとう

日本GAP東京本部役員の加藤純一

氏と同役員の越崎裕子さんは愛が実って、去る三月三日、東京銀座八丁目の資生堂パーラーでGPA方式による結婚式と立食形式の披露宴を盛大に挙行した。これは久保田会長の指導により本部役員団の協力によって行われたもので、約七〇名の参会者を得て、きわめて斬新優雅な欧米風の結婚式とパーティーが展開し、出席者の絶賛をあげた。一律会費制のために新郎新婦の負担皆無という経済的な式典である。多年にわたって多数のGAP会員同士の結婚式と披露パーティーを手がけてきた久保田会長は、こうした面でも高度なプロの腕を発揮して奉仕的に尽力する。詳細報告と写真は本号四三頁に掲載。

★日本GAPの郵便振替番号変更その他

多年、日本GAPの郵便振替番号は「東京四一三五九一二」となっていたが、今年五月より左記の新番号に変更される。

「〇〇一四〇一二一三五九一二」

これにともなって郵便振替の払込用紙の様式も大幅に変更されるので、日本GAPは所轄官庁の認可あり次第に入会継続会費用として新様式の払込用紙を製作配布する予定。ただし平成七年末までは古い振替番号でも通用する。また郵便料金の改定にともない通販グッズの送料も変更された。詳細については巻末の広告を参照されたい。

エイズの引き金はウィルスの突然変異
エイズは長い無症状の期間から一転して発病し、悪化することが多いが、この急激な症状の変化にエイズウイルス（HIV）の突然変異が深く関与していることを、東大医学研究所のグループが突き止めた。

同研究所感染症研究部の島田教授らは、エイズ患者の無症状期間と発病前後に血液を採取し、その中に含まれるHIV遺伝子のうち、ウィルス表面の蛋白質を作る部分を分析した。その結果、全ての患者で、免疫力の指標である「CD4リンパ球」が急激に低下する前に、突然変異したHIVが増加し、しかも変異の仕方に共通性が見られた。いずれも遺伝子の特定部分の左から一番目のアミノ酸が、塩基性アミノ酸に置き換わっていた。

(12・1誌)

氷点下三度で超電導を観察

フランス国立科学センターのミシェル・ロージュ博士らは、物質の電気抵抗がゼロになる超電導現象を、氷点下三度という寒冷地の気温並みの温度で観察することに成功した。これまでの記録よりも一〇〇度も高い記録である。

ロージュ博士らは、カルシウム、銅酸化物など四種類の物質が層状に重なった超電導物質は、銅酸化物層とカルシウム層の重なりが多いほど超電導温度が高くなる点に注目した。真空中で酸素と反応させながら、各金属の原子層を基盤の上に一層一層積み上げる方法で、通常は三層以下の銅酸化物・カルシウム層が、八層ずつまとまって現われる超電導体を製作した。電気抵抗は摂氏零度前後で急激に下がり始め、氷点下三度前後で完全

にゼロになった。超電導を裏付けるマイスナー効果も摂氏一七度付近で観察された。(12・17誌)

指令役の蛋白質を発見

細胞には自ら死ぬプログラムがあらかじめセットされている。このあらかじめプログラムされた死は「アポトーシス」と呼ばれ、生物の体内のいたる所で起きている。これまでその機構はほとんどわかっていなかった。大阪バイオサイエンス研究所の長田研部長らが、この細胞の自殺の引き金を引く蛋白質を世界で初めて発見した。この蛋白質は人にも存在するとされ、自己免疫疾患のメカニズム解明につながるという。

長田部長らはヒトやマウスの細胞の表面で自殺の指令を受け取るアンテナ役のFas抗原(蛋白質)の遺伝子を分離した。長田部長らが解き明かしたアポトーシスの仕組みは、

(1) 細胞がウィルスに感染するなどの異常を起こすと、細胞表面にFas抗原ができる

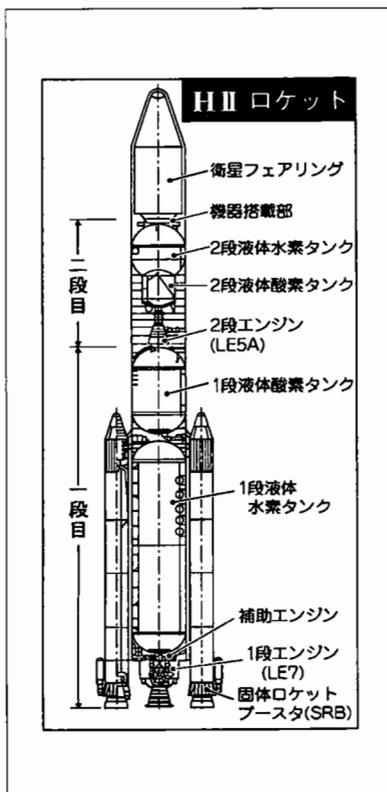
(2) ウィルスなどを殺すT細胞がその異常をキャッチする

(3) Fas抗原に結びつく自殺の引き金となる蛋白質を作る

というものの。自らが作り出すT細胞で自分の体を傷つける自己免疫疾患は、この細胞の自殺メカニズムの狂いが原因と考えられる。(12・18毎)

HII打上げ成功

日本の宇宙開発新時代を担う初の純国産大型ロケットHII1号機が二月四日に鹿児島県種子島宇宙センターから打上げられた。自主開発した主エンジンLE7



は正常に燃焼し、塔載していた軌道再突入実験機OREXと人工衛星VEPは予定通りの軌道に突入し、打上げは成功した。総開発費は約二七〇億円。日本の宇宙開発が世界レベルに到達したことが実証された。(2・4毎)

長野にクレーター

長野県上村の南アルプス前衛・御池山の山頂東側にある直径約九〇〇メートルの円形構造周辺の地層から、隕石落下の衝撃で岩石が溶けてできるガラス質の物質のインパクトに似た粒子が多数発見された。

長野県松川町教育委員会の坂本正夫さんが、地質研究で採取した土砂から見つけたもので、円形構造の地形が隕石の衝撃でできたクレーターだと確認できれば、国内初の発見となる。

坂本さんが一昨年秋から円形構造内外の土を採取したところ、隕石の衝突による光熱や衝撃波ででき、クレーターの証拠となる「インパクトイト」に酷似した粒子が見つかった。その数は、採取した土一CC当たり、最高で五〇〇個に及ん

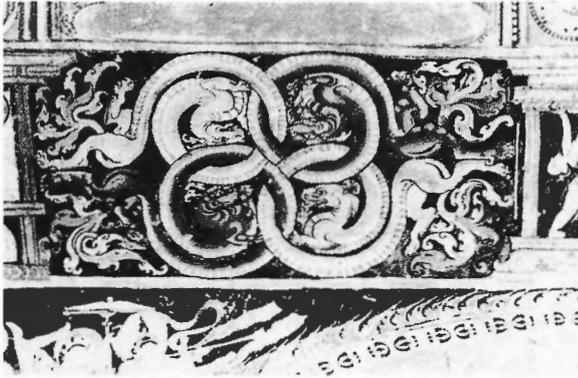
でいるという。(1・7誌)

細菌がPCBを分解

毒性が強く処理の難しい化学物質、ポリ塩化ビフェニール(PCB)を幅広く分解する細菌が、長岡技術科学大学の矢野教授、福田教授らの日米共同研究グループによって発見された。土壌や海洋などの環境汚染源となっているPCBの実用処理に道を開くものである。

発見された細菌RH1は、水中や土壌中で繁殖する好気性の細菌で、大きさは約一〇〇分の一ミリメートルで、ピフェニールを食べて生育する性質がある。これまでのPCBを分解する細菌は数種類から十数種類のPCBにしか有効ではなかったが、RH1は数十種類ものPCBを分解できる。

この発見は、科学技術庁の新技术事業団が、平成三年から長岡技術科学大学と米国ミシガン州立大学との共同で続けてきた「微生物進化プロジェクト」の成果である。福田教授は「今後はRH1の遺伝子組み換えなどで高濃度のPCBを分解したい」と話している。(1・7誌)



チベットに大規模石窟遺跡群

チベット高原の西部で中国チベット自治区と四川大学の調査隊が、大規模な石窟遺跡群を発見した。石窟にはチベット仏教の曼荼羅をはじめ、菩薩や飛天、動物など、西方の影響を色濃く受けた仏教壁画が色鮮やかに残っている。石窟は大きかりな盗掘跡もなく、保存状態も良いという。

チベット自治区文物管理委員会と四川大学の研究者ら七人が発見したもので、九二年夏、チベット高原西部を調査した際に、ツァンダ県の砂漠地帯で偶然発見した。インド・カシミール地方との国境まで約一〇〇キロメートルの標高四五〇〇メートルの地点。高さ七〇―八〇メートルの山頂には城窟や王宮、寺院の遺跡

があり、東西の山腹斜面に幅数キロメートルにわたって大小の石窟群がハチの巣状に並ぶ。大きな石窟は幅七メートル、奥行八メートル、天井の高さ六メートル。壁や天井には、しつこいが塗られ、青や赤、緑を基調とした密教の曼荼羅や仏殿、歴史故事、王侯貴族の生活ぶりなどを題材にした壁画、青地に金色で書いたチベット文字の経文などが、今も鮮やかに残っているという。遺跡の年代については出土品の鑑などから、一一世紀と推測されている。(1・14朝)

湖や沼、ダムなどに夏に発生するアオコや赤潮を防ぐために、兄弟分の糸状藻類に水中のリンや窒素を吸収させる新しい水質浄化システムを建設省土木研究所が開発した。ホテイアオイやアシ類といった植物を使う従来の方法に比べて一〇倍も浄化能力が高いという。

浮遊性藻類という微生物の異常増殖が、アオコや淡水赤潮の原因になっている。循環の悪い湖沼やダムなどで夏に発生する。水道水をかび臭くしたり、腐って沿岸に異臭を漂わせたりするほか、魚を窒息死させたりする。土木研究所は、この悪玉藻類の兄弟分に当たるアミミドロといった糸状藻類に目をつけた。高等植物よりはるかに高い増殖能力があるが、人間に害を及ぼさない。糸状藻類が付く土台を備えた処理施設を用意し、他の微生物をあらかじめフィルターなどで除いてから施設に流し込んだ。霞ヶ浦や印幡沼の流入河川などで実験した結果、体積は数日で倍になり、従来の植物よりも約一〇倍浄化効率が高かった。育った藻は手ですくうだけではがれ、回収も簡単だった。

た。(1・24朝)
遺伝子解析「系図」に新説

絶滅した生物の遺伝子(DNA)を測る分子古生物学の最新手法を駆使して、名古屋大学理学部の小沢智生助教授らのグループが、世界で初めて四三〇〇年前のマンモスの遺伝子の解析に成功した。分析の結果、学会の通説を覆し、マンモスは遺伝子的にはアフリカ象に近いことがわかった。

解析に使った標本はロシア科学アカデミーの動物学研究所などから提供されたマンモスの筋肉や皮膚、毛など五種類である。シベリアの永久凍土地帯から発見された四三〇〇年前の毛根つきの毛だった。小沢教授らは長さ数ミリに切断した毛の内部から、細胞を構成するミトコンドリア内にあるチトクロームb遺伝子を抽出し、全部で一〇三七個ある塩基対のうち約四分の一の三〇七個の配列を解読した。この結果を、アジア象やアフリカ象のチトクロームb遺伝子の配列と比較したところ、アフリカ象とは一〇個違い、アジア象とは一個違っていた。アフリカ象とアジア象の違いは一三個と、マンモスよりも多かった。(1・31朝)

未知の古代都市発見

メキシコ東部の海岸地方で西暦一〇〇年から六〇〇年にかけて栄えた未知の古代都市の遺跡が発見された。アメリカのミシシッピ川上流まで広がる水上交易の中心地だった可能性もある。

発見したアメリカ人考古学者のジェフリー・ウィルカース博士は、遺跡が栄えたユカタン半島一帯のマヤ文明初期と一致するが、文明の種類は異なるという。メキシコ湾岸のペラクルスから北西約一

〇〇キロメートルの位置にあり、近くの村名からエルピタル遺跡と命名された。一〇〇平方キロメートルの広大な地域に土や石でできた一〇〇以上の構造物や周辺集落の跡が残っている。高さ三〇メートルに及ぶピラミッド、貯水池の他、川沿いの船着き場につながる二キロメートルの道路もあり、人口二〇〇〇人以上の大都市とわかった。住民はピラミッドをただの丘と思っていた。(2・4朝)

恐竜の卵を数万個発見

中国文明をはぐくんだ黄河流域の河南省から昨年、恐竜の卵の化石が大量に見された。一億年前の卵と見られ、埋蔵量は世界最大の数万個と推定されている。なぜこれだけ多くの化石が集中したのかは全くの謎である。

今回の大量発見は、一昨年暮れに西峡県丹水鎮の農民が、山の斜面での農作業中に掘り当てたのが手掛かりになった。

化石は青みがかった濃い灰色で、白亜紀地層の赤褐色の砂岩層にあった。一つの巣に一〇数個から三〇数個産みつけられていた。河南省文物研究所スタッフはこれまでの発掘収拾データから

- (1) 分布域が八〇平方キロメートルと広い
- (2) 埋蔵密度が高い
- (3) 量が多く、直径四センチメートルから五〇センチメートルクラスまで種類や形が豊か

(4) 保存状態が極めてよい
と話している。恐竜の卵は世界各地で見られているが、これだけの種類と量は例がない。(2・19朝)

とととと 生命物質 超生物

伊藤睦史



▶パナマ運河のそばの筆者

筆者は山形県出身、古くからの日本GAP会員であるが、現在は青年海外協力隊の一員として中米パナマに雄飛、技術系の仕事で活躍中。物理学を専攻した立場から物質と精神の関連を考察した有益な論文を遠方から寄稿した。

はじめに

生命の不思議さについては今までさまざまな書物やドキュメンタリーなどで紹介され、論議されてきました。しかし未だにその多くは謎のままです。大学や研究所のたくさんの研究者の方々がこの問題に取り組まれて多くの業績をあげていながら、解決されていない問題に素人の私が挑もうというのは、向こう見ずな事だとは思いますが、学生時代から考えていた事をあえて述べさせて頂きたいと思えます。これから述べることは、あくまでも私見にすぎませんが、皆さんの何かのお役に立てば幸いです。

生命の最大の謎

まず中学か高校の頃に勉強した「生物」の事を少し思い出してみよう。ここではニワトリが先かタマゴが先かという哲学的な問題は無視して、生物はタマゴから始まると考えることにします。

始めに、一個の遺伝子をもった卵子

と、同じく一個の遺伝子をもった精子があります。これらはそれぞれ一つの細胞ですが、融合して一つになる、つまり授精すると細胞分裂を始めます。1個、2個、4個、8個、16個……という具合に細胞は増殖してゆきます。そのうちに「細胞の分化」という過程に入り、ある細胞は手を形成し、またある細胞は足を形成してゆき、ついには一つの完全な個体(生物のこと)になってゆきます。教科書にはここまでしか書いてありません。しかし、ここには私が思うに生命の最大の謎があると思うのです。

なぜ「手」が出来るのか

教科書では、この「細胞の分化」とは無関係な感じで遺伝子の記述がありました。そこには「一つの細胞の中にある遺伝子(DNA)は、生物を構成するすべての情報を持っている」とあります。

これはたとえば手の細胞を観察したときに、その細胞の中にあるのは「手」に関する情報を持ったDNAだけがあるのではなく、生物の体に関するすべての情報を持ったDNAがあるということですが、表現が適切かどうか分かりませんが、一組の完全な情報を持ったDNAの中で、「手」に関する部分だけが活性化されている状態にすぎません。これから扱う問題は、すべての情報の

中でどのようにして「手」に関する部分だけが活性化されてしまうのかという事です。

特に「細胞の分化」という現象は、それまで区別することもできなかった細胞が、それぞれ特別の役割を持つ部分へと分かれてゆく現象をいうわけですが、何が個々の細胞に正常な形態になつてゆくように指令を出すのでしょうか? 適切な遺伝情報だけを活性化させるのは、どのようなメカニズムなのでしょう? これは本当に不思議な現象です。というのは、もしこの指令がなければ、この細胞群はただの肉の塊になつてしまふに違いないからです。

名前は忘れましたが、数年前の「科学朝日」にこの問題に関する最新情報として、なんらかの酵素が「細胞の分化」に関係していることが判明したと載っていました。しかし、これも、それではなぜ、そのときを見計らって、その酵素が作られてくるのが問題となります。知りたいのはそこなのです。

双子が出来る理由

一つの細胞が生物の体に関するすべての情報を持っていると言うことを述べましたが、その証拠を少しあげてみたいと思います。一つは双子、特に「一卵性双生児」についてです。

この双子は、細胞分裂を始めて初期

の段階になんらかの原因で細胞群が二つに分かれてしまったために、本来一つの生物になるはずだったものが、二体の生物に分かれてしまったのです。

たとえば、細胞が二つに分裂したときにこの現象が起きたとします。もしこの時点で体の左右どちらを担当するかについて、すでにそれぞれの細胞が決まっていたとしたら、片方は体の右側だけ、もう一方は体の左側だけしか形成されなくなってしまうはずですが、しかし、そうはならず、それぞれが完全な生物に成長していった結果、完全な二つの個体、つまり双子の誕生となるわけです。これは、細胞分裂の初期の段階では、たしかに個々の細胞は完全な一組の情報を持っていることを示しています。

実用化されているクローン

もう一つは『クローン』についてです。これは、よくSF等で使われる題材なので、架空の事と誤っている方がいるかもしれませんが、この技術はすでに実用化されています。

一言でこの『クローン』を説明するならば、たとえば「自分のコピーを作る」と言えるかもしれませんが、現在の技術は変わっているかもしれませんが、どのようにするかを私の知っている範囲で説明してみます。

まず卵子に紫外線で処置をして卵子

のDNAを殺してしまいます。その後で、自分の希望する個体の細胞を取ってきてDNAを取り出し、処理のしてある卵子に移植してやります。すると、卵子は受精したときのように細胞分裂を始めるのです。このとき卵子が持っているDNAは、移植されたDNAだけですから、遺伝的には、このDNAを持つていた個体とまったく同じ生物が誕生することになります。この事は前に述べたように、「一つの細胞の中にある遺伝子は、生物を構成するすべての情報を持っている」ことを、実際に直接的に示しています。現在、この技術は優秀な家畜や植物を得るために使用されています。

細胞の分化

さて、なぜ細胞の分化が起こるのでしょうか？

この問題について考え始めた頃、私は大学で物理を勉強していましたので、この方面からアプローチしてみることになりました。理由は、「生物だって物質でできているのだから、物理の法則に従っているにちがいない」と考えたからです。

物質がそれまでと違った運動を始めるときには、必ず何かの力が作用しなければなりません。

力には大きく分けて二つの種類があります。一つは、他の物と接触して加

わる「近接力」、もう一つは離れた所から作用する「遠隔力」(磁力などが代表)です。受精卵は、羊水などほかのものに触れてはいませんが、部分的に異なった遺伝子が活性化するように操作するには近接力では不適當に思えます。そこで私は、この現象の影響しているのは「遠隔力」だと考えました。遠隔力は、物質がなんらかの「場」の中にあるときに作用する力です。つまり、何か種類は分かりませんが、「場」が発生しているのではないかと考えたわけです。

「場」とは何か

「場」というのは何か、少し説明しましょう。

私たちはいつも地球の重力に引っ張られ、地面にへばりついていますが、もし月の軌道に行くことができたら、その力ははるかに小さくなってしまいます。いる場所によって、「力の大きさ」と「力の方向」が違ってきます。そこで、その場所に行った場合、どの方向にどれくらい力が働くのかを知ることが必要になってきます。この「場」(または「力場」。英語で「フォース・フィールド」と言います)は、それを知るために、その場所で発生する力の可能性を表現する方法として使われている考え方です。一つだけ「場」を説明するために数式を出させて頂きます。

F // 力、G // 重力定数、M // 地球の質量、m // 物体の質量、R // 距離とすると、

$$\vec{F} = G \times \frac{M \times m}{R^2} \times \frac{\vec{R}}{|\vec{R}|}$$

この数式の中で、「m」を取ってしまった部分が地球の重力場をあらわしています。F、Rの矢印はベクトルであることを、つまり方向性があることをあらわしています。「m」をたとえば人間の質量(人間の質量というのは、体重を生じさせる原因のことです)とすれば、1G(イチジー)と読みます。グラムではありません)の重力加速度のある地球表面では、人間の質量と体重は同じ大きさになります。ちなみに1Gは、R // 地球の半径、としたときの地球の重力場の大きさです。

もう少しみてみましょう。今度は、右の式から地球の質量「M」を取ってしまうと、人間の重力場をあらわす式になります。つまり、人間も重力場を発生させているわけです。

どちらにしても、いずれか一方だけでは力は働きません。その場所と同じ種類の性質をもった「モノ」があるときに、その「モノ」に影響する力の働く可能性をあらわしたものが『場』です。もう少し違った言い方をすれば、空間の性質をあらわしたものが『場』であると言えるでしょう。

物質とは何か

今度は物質について、「物質とは何か」を考えてみたいと思います。普通、物質は形を変えてゆくけれども、なくならないものと考えられます。高校の物理などでも、『質量不変の法則』として、この考え方が出てきます。これはたしかに日常生活においては一〇〇パーセント正しいといつてよいでしょう。しかし本当は、次のとおりです。

「物質とは何か」を知ろうとすると、「物質の最小単位は何か」をみたほうが他のいろいろな複雑な現象を無視できるので都合がよいと思われま

す(図1)。

●物質は、その性質を決定する分子の集まり。

●分子は、原子が調和のとれる組合せから構成される。

●原子は、原子核のまわりを電子が取り巻いている太陽系に似た構造を持つ。

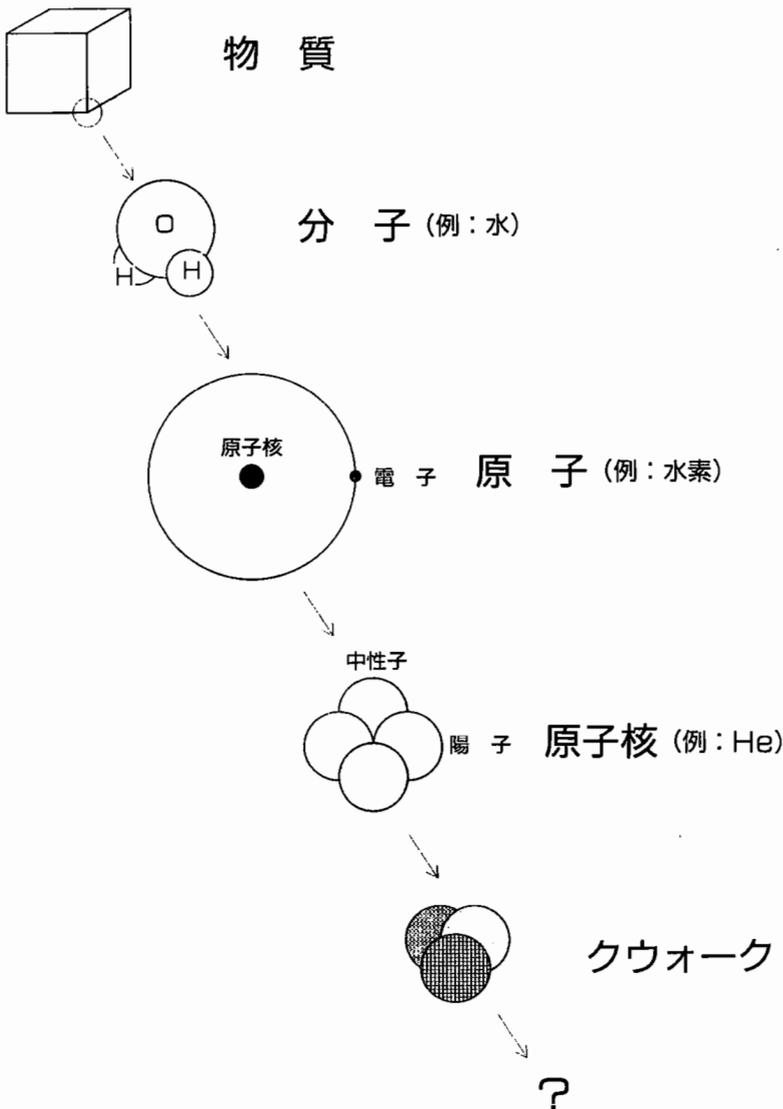
●原子核は、陽子と中性子からできている。

●陽子や中性子は、六種類のクォークからできている。

●最近、このクォークもさらに小さい粒子からできているらしいと言われている。つまりまだ物質は何からできているのか分からず、ミクロの世界の探検は続行中である。

ところで、原子レベル以下の世界で

図1



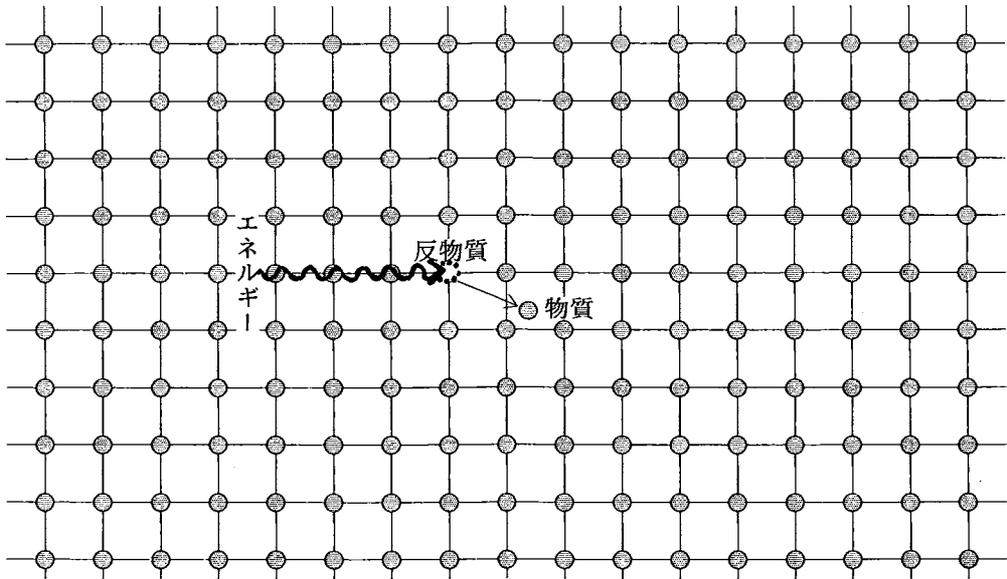
は「質量不変の法則」は成り立たない場合が出てきます。たとえば、物質が突然消えたり現れたりするのです。もちろん、アインシュタインの有名な式 ($E=MC^2$) に見合ったエネルギーのやりとりは必要です。この現象の説明としては、

「空間は構造を持っていて(何も無いのではない)、その構造がきちんとしているときには何も現れないが、高いエネルギーなどが通過すると、空間の構造が壊れて物質が出現する」と解釈されています。

物質は「空間の泡」のようなものだと考えるかもしれませんが、電子関係の知識のある方は、電子(電子)とホール(正孔)の事をイメージして頂ければ分かりやすいかと思えます。今、理解しやすいように(図2)のように空間の構造を格子状のようなものと考えます。ここを高エネルギーが通過すると、格子の角にあるものが通過すると、格子の角にあるものが(たとえば電子(物質)が弾き出され、後に出来た穴が陽電子(反物質)として出現することになります。物理学者のデリラックは、物質を「場」の特異解だ」と言っています。正確ではありませんが、「場」は特別な状態だと言いかえられるでしょう。

荒っぽい言い方ですけど、「場」は空間の性質のことですから、「場」と「空間」『物質』は同じものだと考えるのではないのでしょうか。ということばは、「物

図 2



質は無である」と言えるのかもしれませんが。「色即是空、空即是色」という仏教の一節が思い出されます。

生物にも『場』がある

最近、有名な生物学者ライアル・ワトソンの『スーパード・ネイチャー』という本を読みました。その中で「生物の周囲、皮膚から数センチ離れた所にも電磁気的な『場』が観測された」という記述がありました。そうすると、やはり、何らかの『場』が細胞の分化を支配している可能性は大だと言えるでしょう。

『場』を発生させているものが何かまでは断定できません。ここでも、やはり「なぜ『場』が発生するのか」が問題になってきます。それは宗教家の人達が言うところの『神』なのかもしれません。それはあまりにも安易な考えのように思えます。

しかしながら、私にはやはり何かの意志のようなものが感じられるのです。「何かの意志」というと宗教的な響きが出てきますが、たとえば「人格的な神の考えること」としてではなく、どちらかというところ、「まだ発見されていない宇宙の自己拡張および修正可能なプログラム」と考えたほうが私のイメージに近いと思います。おそらくそれがアダムスキーの言う『宇宙の意識』なのではないのでしょうか。

想念は遠隔力

残念ながら、現在の地球の科学では意識が何であるか物理的には判明していません。しかし、『異星訪問奇談』の中にある記述によると、スカウト・シップ(別な惑星から来る小型の宇宙船)の中では想念をスクリーンに図形としてあらわしていると記されています。(編注)『異星訪問奇談』はすでに絶版になって入手不可能だが、この内容は現在刊行中の久保田八郎著『UFO―遭遇と真実』の中に掲載されている。中央アート出版社刊)

これは、想念も物理現象の一つであって、物理的に測定できることを示しています。スペースビープル(友好的な異星人)は、この測定した想念の信号を利用して、(想念)―(物質)間のインターフェースを構成して、宇宙船のコントロールを行なっていることが推測されます。

また、この想念を表示するスクリーンについて「地上にいる人間の想念さえ表示できる」という内容の記述があることから考えて、このシステムは人間から働きかけるのではなく、主として機械の方が対象となる人間に対してアクセスしていると思われるので、想念は対象となる人間の体から漏れ出してくる、または放射されている何らかの現象であると考えられます。

対象の人間を特定できること、離れた場所からも測定できること、などを考え合わせると、想念は遠隔力であり、また方向性をもっていると考えられるので、おそらくは「場」のようなものと推測されます。

宇宙を運営する力は一つ

もう少し精神と物質の関係について考えてみましょう。意識とか意志とかいわれるものは、物質界の現象を引き起こす原因となっているように思われます。その意識または意志は、やはり何らかの法則に従ったものに違いありません。

物質界を支配している基本的な力は四つありますが、そのうちの三つまでは『大統一理論』で一つの現象の異なった現れ方にすぎないことが分かっています。残りの一つ(重力)も、いざれ同じ理論の中に統一されてゆくことが期待されています。結局、宇宙を運営している力は一つなのだということが解りつつあるのです。

私は精神(意志や意識など)界のことも、すべてが一つの理論の中に組み込まれてゆくのではないかと考えます。つまり物質界と精神界は一つのものの異なった側面にすぎないのではないかと考えるのです(図3)。

これは主観的で微妙な問題になってきますので、何も断言することはできません。

皆さんはどのように思われるでしょうか。

何が生命を吹き込むのか

ただし、現代の科学は今までの機械論的な表現だけでは不十分になってきていることだけは確かなようです。

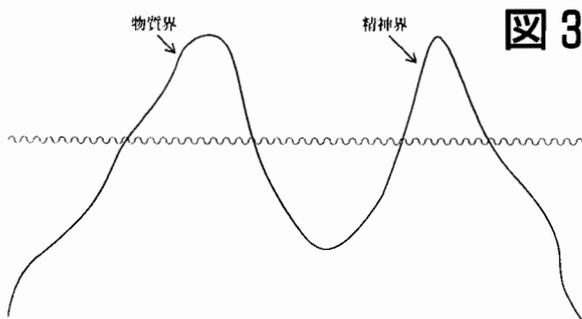
たとえば、機械論的な描像に従って発達してきた生物学は、コンピュータにたとえれば、ハードウェアに相当する部分のメカニズムを追求してきました。これは身体の各部分の機能と役割を解明するのに大きな成果を収めることができました。

しかし、生きている状態と死んでいる状態ではハードウェア的な違いは見られません。コンピュータも電気を入れただけでは全く役に立たないただの箱にすぎません。このことから問題になってくるのは、コンピュータに意味を持たせるソフトウェアの部分に相当する領域です。つまり「生命を吹き込むのは何か」ということが、これからの科学が入ってゆかなければならない領域であると思われるのです。

精神と物質との関係

この論説はあくまでも私論であることを再度確認した上で私の考えを述べてみます。

今まで心理学は臨床的な活用を目的



▶物質と精神は二つの氷山の山が水面に出ている部分のようなものか?

としたものが主流となってきました。それは現象論的な研究で、外部に現れてくる情報から人間の心、特に心の働きと状態を知ろうというものです。

しかしながら、心と物質現象のかかわりについては、ほとんど手付かずのまま現在に至っているように思われます。人間が考えたことが外部にどのような影響を与えるか。これを議論することは、物質と心は全く相容れない独

立事象的なものだという現代の西洋科学によりタブーとされてきたようです。

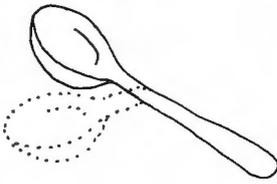
しかし我々の日常を考えただけでも、人間の心または意志が物質である身体に重大な影響を与えることは明らか事実です。たとえば、皆さんが読んでいるこの文章も、私が考えて「書こう」という意志を持つことによつて、その意志が私の手を動かし、文章を紡ぎ出していているわけです。

意志または意識は、確実に物質界に影響を与えます。それは、意識自体が物質と同質なものであることを示唆しているのかもしれない。そこにこそ、これから研究を始めるきっかけがあるように思われるのです。先に述べた細胞の分化にしても、始めに何かのプラン（またはプログラム）が存在している、そのプランに従つて「場」が発生するのでないかと考えられます。

イメージで物質現象を変え る原理

ここで意識や想念が「場」と同一の物であると仮定すれば、超能力（ここでは念力についてですが）のメカニズムの説明を次のようにすることもできます。たとえば、スプーンの曲がったイメージを「場」としてその周辺に発生させれば、物質は常に安定した状態になろうとする性質があるので、スプーンも安定した状態になろうとして曲がってしまうのだと（図4）。

図 4



▲イメージによって「場」が発生する。

また人間は自分の体型でさえも、強烈なイメージを描くことによつて、思いどおりに変えることも可能になるでしょう。さらに自分を取り巻く生活環境も広い意味では物質現象と言えるので、強いイメージを描けば良い状況を引き寄せることも可能になるに違いありません。

最近では、病気の治療に患者のいわゆる『思い込み』を利用する場合があります。『ファントム・リーフ』という通称で有名な、一部を切り取られた植物の葉のキルリアン写真（オーラを撮影したもの）が示しているように、私達生物の周辺には、形態を維持しようとする「場」が存在しているようです。

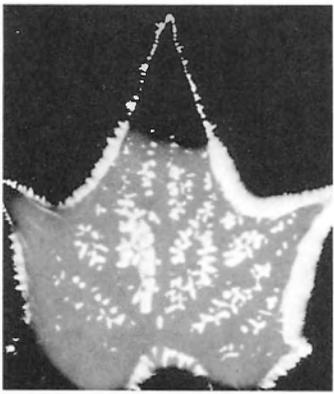
超能力は誰にでも潜在している

私は医学的知識はありませんけれども、この「形態形成場」と呼ぶことができるものが、傷ついた体を元どおりに修復してゆく自然治癒力そのものであるか、または少なくともその助けをしているのだと思います。体を半分に分かれてしまつても、残り半分を再生してしまつたらナリアという小さな生物は、この能力を最大限に発揮しているのかもしれない。

とすれば、この誰にでも内在している素晴らしい能力すなわち超能力のメカニズムの仮説に共通している事柄は、「超能力は、実は誰にでもある常能力である」

ことを示しているように思えます。あとは自分で自分の能力をコントロールするだけです。

▲キルリアン写真 高周波放電電界の中に置かれたカエデの葉。中央の葉の先端が切つてあるが、元の葉の形をした放電現象が見られる不思議な写真。



このように考えると、超能力の開発はやはり自分のコントロールに尽きるのだと言えそうです。

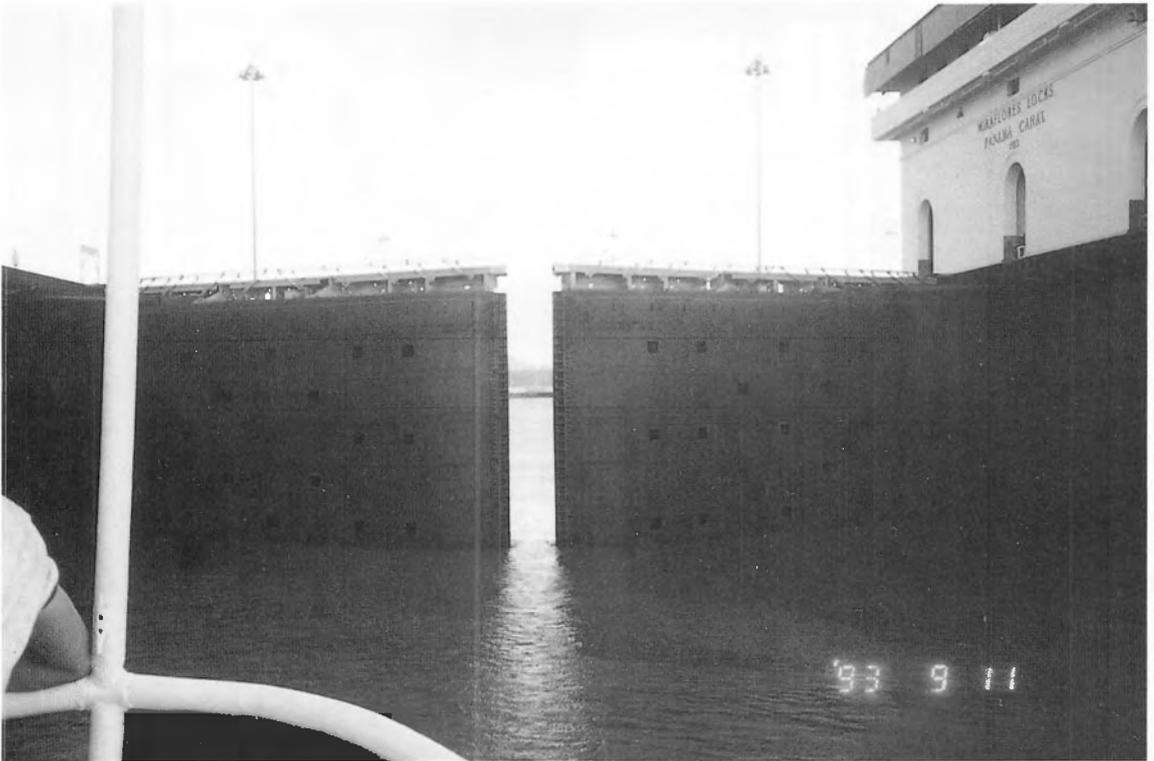
「意識」と「場」が同じものであるというには、確かに理論の飛躍がありすぎます。科学的な論議をするには根拠が乏しいことは明白です。

ただ、物質の基本粒子（素粒子）の研究者のあいだでは、理論で予見された粒子があまりにも次々に発見されるので（本当の基本粒子であれば観測することは理論的に不可能はずです）「その粒子を人間が考え出したときに、本当に粒子が出来てしまうのではないか」という考え方もあると聞いたことがあります。

科学と超能力のはざま

一般的に、UFOや超能力に興味をもつ人は地球の科学を軽視しがちになりやすく、また反対に科学に関心をもつ人はUFOや超能力のことに触れたがりません。宇宙の中で起こるすべての事は決してたために起こるのではなく、必ずある一定の法則に従っているはずですから。そして科学というのは、その法則を人間の言葉で表現し、知る方法であると思うのです。

したがって、前述の二つのことは分けて考えるべきではなく、常に比較検討して、対立するところや矛盾するところがなくなるように協力してゆくこ



▲パナマ運河の最後の水門。向こう側は太平洋。ここも物理の法則が応用されている。撮影／筆者

とが必要ではないでしょうか。

特に、前述のような理由で、超能力の科学的研究は、精神と物質のあいだに存在するギャップを埋めて、新しい宇宙像を描くきっかけを与えてくれるものだと私は期待しています。

うまく説明できませんが、お互いに拒否するのではなく、お互いを認め合い、情報を交換し合い、調和させてゆくことが宇宙を知る早道のように思われるのです。

〈追記〉

芋を洗う習慣をもつサルの数がある数(閾値)を超えたとき、その習慣が空間の障壁を飛び越えて一気に伝染したという「一〇〇匹目のサル」という現象は、生物の潜在意識下に存在する集団意識を説明する物として有名ですが、同じ現象が物質にも発生したことがある事実はそれほど知られていません。

グリセリンは以前はけっして結晶化しないものとして知られていました。科学者の健闘にもかかわらず、どんな条件のもとでも結晶化することはありませんでした。

ところが、ある研究室のサンプルが何の前ぶれもなく突然結晶化してしまったのです。と同時に世界中のグリセリンが結晶化するようになり、現在では簡単に結晶にすることができますようになっていきます。しかし、その条件は

以前に何度も試みられている条件なのか、以前はなぜ結晶とならなかったのか、いまだに謎のままです。

この現象は、もしかすると物質も集団意識もしくは集団のデータベースを持つていることを示しているのかもしれない。

これまでの説明では、英語というのは徹底して暗記することが大切だと述べました。これには異論があると思いますが、どのように突き詰めて考えても、外国語はまさに暗記することによって役に立つということでは絶対に否定できません。ただし、この講座の(1)で述べました「英会話書の英文をかたっぱしから丸暗記することは秀才型の人間がやることであって、「自分のような暗記力の悪い者には不向きだ」と言う人があるかもしれません。そこで、暗記するための方法として、今回は録音テープをのべつまくなしに聴くことが最良であるということについて詳細にお話ししましょう。

■暗記は「慣れ」によって可能になる

そもそも暗記することには「慣れ」の問題が深く関係してきます。私は80数年昔の子供の頃に近所の映画館で宣伝用に鳴らしていた流行歌の文句を今でもかなり覚えています。毎日同じ歌ばかり響いてくれば、いやでも覚えてしまうのです。この原理を応用するのにテープレコーダーに勝るものはありません。このことは前回で少し触れましたが、あとで詳しく話しましょう。大体にある言葉を覚えるということは、同じ言葉を毎日のように聞かされてこそ覚えるのです。私は仕事からバイリンガル(2カ国語を母国語にしている人)をかなり知っています。この人達は別段秀才や才女ではないのに日本語は日本人同様に話すし英語はアメリカ人同様に話します。この人達の共通点に両親のどちらかがアメリカ人で一方が日本人という実態があり、したがって幼児の頃から両方の言葉を聞かされて聞き慣れているために全身の細胞に2カ国語の言語が染みこんでしまうのです。つまり「慣れ」によって母国語が形成されるわけです。私の親類にはスリランカ人の女性を妻にしている男がいます。この女性は幼児からイギリスで暮らしたために完全なイギリス英語を話しますが(スリランカという国はイギリス英語が公用語です)、前夫も日本人であったために13歳になる混血の娘を連れ子として再婚してきました。問題はこの娘です。私がこの子に日本語で話しかければ全く普通の標準日本語で答えますし、英語で話しかければ実に無造作にイギリス英語で応答します。この女の子は啞然とするほどの完璧なバイリンガルであって、言葉の障壁というもの全く持たない人間翻訳機なのです。慣れによって両言語が身についた典型的見本といえるでしょう。つまりこの娘は家庭では日本人の父親から日本語を覚えさせられ、学校では友達と英語で話し合っただけで成長したために、「自然」に両方の言葉を覚えてしまったわけです。

■独習で英語をマスターする方法

ここで明確な事実が出てきます。外国語の習得は知能の相違によるものではなくて「慣れ」そのものによるのだと。こうなると学校で英文法を教えたりするのが間違っていないにしても、いかに時間の無駄使いをやっているかが分かります。極論すれば学校では本物の英語を録音したテープを聴かせて、その意味を先生が説明するだけでよいのです。この頃は全国の中学校が英米人の先生を採用して本物の英語を教えるシステムが確立しましたから、これは良いことですが、問題は年をとった人達が独習によって英語を習得する方法です。これについては英語録音テープが最良の教師であると断言しましょう。私は戦前の昔、小学生の頃から英語の参考書を読みながら英語の独学をしていました。しかし田舎のことで外国人を見たことはなく、ましてや正確な英語の発音は皆自分からず、フリガナを頼りにして、「これが英語の発音なのだろう」と思い込んで自己流の幻想

の英語をやっていたわけです。その頃、英語が録音された機械があって、いつでもそれを再生させて聴くことの出来るような装置があればよいがなあと、夢みたいなことを考えていました。当時、蓄音機というものがあって片面約3分間の78回転の音楽レコードはありましたが、英語教育のためのレコードはなかったようです。

■テープレコーダーこそ最大の武器

ところが戦後になってテープレコーダーという機械が出たのです！今は世界に冠たるソニーが、戦後トランジスターを用いた携帯用の小型テープレコーダーを出したときには飛びついて購入し、それを映画館に持ち込んでアメリカ映画をしきりに録音した思い出があります。以来テープレコーダーを次々と使い潰しては使用していますが、この文明の利器によって受けた恩恵は図り知れないものがあります。子供の頃に夢にまでみた外人のしゃべる本物の英語を、いながらにして何度も反復して聴けるのですから、これは外国語習得の最大の武器です。これを利用しないという手はありません。ウォークマンで音楽を聴くのもよいでしょうが、暇があれば英語のテープを繰り返して聴き続けると、それが慣れとなって、いやでも本物の英語を覚えるようになってくるのです。書物に書かれた「音声を発しない」英文を、ただ黙って読み流すだけでは絶対に英語は身につけません。その英文を口に出して反復し、暗記することが重要なのですが、間違った発音のまま覚えてはいけませんから、本物の英語のテープを聴きながら覚えることが肝要です。こうしてポケット用テープレコーダーを何台も使い潰すぐらいに聴いて聴いて聴きまくるのです。聴くだけでなく、聴いた英語を自分でしゃべってみることも重要です。そのための一つの方法として、安ホテルへ数日間こもって自分をカンプめし、毎日朝から夜寝るまでテープを聴きまくる、大声でしゃべりまくる、という練習もよいでしょう。

■究極の英語習得法

究極の英語習得法があります。現在は英米の映画がビデオで売られており、その会話を日英の対訳で収録した本まで出ていますから、これで学ぶのです。私などは往年のアメリカ名画「アパートの鍵貸します」や「エデンの東」その他の映画を対訳本で昔から勉強したのですが、東京へ出てからはそれらのビデオを入手して学習しましたね。若き日のシャーリー・マクレーンやジェームズ・ディーンの声がいまでも脳裏に流れてきます。映画には臨場感がありますし、日常の生きた英語を知るには絶好の教材です。ただし映画の中ではかなり汚い英語をしゃべる場合がありますから、その区別を知るために参考書を調べる必要はあります。この2月に出た馬場信浩著「留学ウォーズ」(講談社)という素晴らしい本の中に映画による学習法が究極の方法として推奨してあります。ただしこれは中級者以上向きです。

■要は信念の力、希望の力、絶対にあきらめない力

私のもう一つの肩書きは英語教育法研究者ですから、ここで熱意をこめて強調したいのは、信念の力の絶対的な重要性です。「自分は必ず英語をマスターするのだ！」という強烈な信念と、すでにマスターしてしまって外人と楽しく英語で語り合っている光景をイメージとして心中に明確に描きながら努力を続けるならば、いつかそのとおりに実現するでしょう。地球人には願望のイメージを描く力がほとんどないと聞いています。そしてすぐにあきらめてしまいます。これではいけません。こんなときこそ宇宙哲学を応用するのです。頑張ってください。(完)

異星人はなぜ地球へ来るのか

ジョージ・アダムスキー／久保田八郎訳 〈アダムスキー講演集 連載6〉

〈以下はカンザス市で行なわれた講演
 に続く質疑応答の記録〉

無人機の不思議な帰還

問 三時間分の燃料とともに基地を飛び立った訓練機や六時間後に戻ってきたという例の事件ですが、その訓練機の乗組員たちはどうなったのでしょうか？

アダムスキー その事件は一九五七年四月に発生したものです。今ちょうどここに、私宛に送られてきたその事件の情報を伝える手紙がありますので、読んで見まおまけしよう。

『スミス氏（公にできない人物のため仮名）と私は、ワシントン市の空軍基地において、訓練用ジェット戦闘機U S A F - T 30の奇妙な着陸を目撃しました。』

その訓練機は、二名の乗組員と三時間分の燃料とともに六時間前に同基地を飛び立ち、消息を絶っていたのですが、午後四時半ごろになって、何の連絡もないまま基地上空に現れ、着陸体

制に入ったのです。付近の上空にいた別の空軍機は、それとの衝突を避けるべく、突然の進路修正を強いられました。そのとき管制塔では、いちじるしい電波の乱れを確認しています。

そしてその訓練機は間もなく着陸したのですが、その後本来なら誘導路に向かうべきところを、そうはずれず滑走路の端に停止してしまいました。それでは他の航空機の発着ができません。

そこで、その機体を滑走路から移動すべく、地上作業員たちが急行したのですが、そのとき彼らは、驚くべき事実じじつに接することになりました。機内に入影がないのです。乗組員たちが消えてしまったのです。結局、その航空機は無人のまま着陸したことになります。

その後、燃料タンクを点検したところ、完全に空っぽでした。続く調査の結果、その航空機は六時間前に飛び立つて以来、途中でどこにも着陸していないことも判明しました。三時間分の燃料しかなかったのにです』

そして彼らは、私にこう質問してきました。

『乗組員たちにいったい何が起こったのでしょうか？ 燃料切れから三時間も経過した乗組員不在の飛行機が、どうやら基地に戻り、着陸までできるのでしょうか？ あの飛行機は、燃料が切れてから三時間もの間、どこにいたのでしょうか？』

そして彼らは、こう続けています。『我々（スミス氏と私）が知るかぎりにおいては、以上の問題は、いまだに未解決のまま放置されています。したがって我々が今下し得る結論は、あくまでも仮定です。しかし我々は、あの事件には、何らかの外部の機関が――』この外部の機関という言葉は注目値します。

『あるいは「力」が介在したと考えるのですが、いかがでしょうか？』

最後に、興味ある事実を一つ付け加えておきます。この種の事件は、本来ならば大きなニュースとして取り上げ

られてしかるべきです。ところが、我々がかかるかぎりでは、いかなる報道機関も、この事件について、いまだに一言も報じていないのです』

これで手紙は終わっています。この手紙を受け取って、私はさっそく返事を出し、彼らの質問に答えました。次のようになります。

『これまで、それと全く同じようにして戻ってきた飛行機はたくさんあります。乗組員たちが一緒に戻ってきたこともあれば、今回のように飛行機のみが戻ってきたこともあります。そして前者の場合、乗組員たちは帰還とともに速やかに調査の対象となり、精神科医たちによって気が狂ったと診断されました。今回の乗組員たちも、もし機体とともに戻ってきたならば、おそらく同じような扱いを受けたでしょう。質問の洪水を浴びせられ、精神異常者として放り出されることになったはずですが、そして、その災難は、彼らにばかりか、彼らの家族にも同じように降りかかることになりました。彼らの家族は、周囲から、あんな夫を持って、あんな父親を持って、あんな息子を持って、などと言われ続けるのです』

さらに私は言いました。

『今回の場合も、これまでの場合同様スペーススピール（異星人）は乗組員たちに次のように言ったはずで

「飛行機はリモート・コントロールで基地に戻りますが、あなた方はもし望む

なら、私たちの惑星に行き、この種の体験をした人々がより正しく扱われる日がくるまで、そこで生きることを選んでみますよ」——そう言ったはずで

さらに私は続けました。

◀ジョージ・アダムスキー



『そのときがきたら、飛行機で消息を絶つた多くの人々が、次々と姿を現してくるかもしれません。もしかしたら、アメリカ・エアハートもそのうちの一人かもしれません。あるいは、我々が自分たちの力でどこかの惑星に行くことになったら、そのとき我々は、その

惑星で、長い間消息を絶っていたブルーン氏やジェームズ飛行士たちと出会い、大いに驚かされることになるかもしれない」

私が書き送ったのは、以上のようなことでしたが、それに対して彼らが何と言ってきたと思いますか？『我々もそう考えていました』彼らはそう言うてきたのです。彼らは、かなり多くのことを知っています。

それから、スペース・ピプルは、消息を絶つた人々に対して、いかなる敵対的行為も行なっていない。彼らは単に、そういった人々を、何らかの飛行トラブルから救助するとともに、その後帰還することで受けることになる災難から救つただけなのです。

人間は新しい惑星に移住し続ける

問 金星人たちはどんな起源を持つのでしょうか？ 彼らはどこからやって来たのですか？

ア それはとても単純な質問です。我々はどんな起源を持つのでしょうか？

我々はどこからやって来たのでしょうか？ すべての惑星に住む人々が、どこかからやってきました。しかし我々はその起源に関しては知り得ません。我々は、いかなるものの起源も知り得ません。なぜならば、我々は、どんなに多くを知ったとしても、創造主

自身が知っていること以上のことは知ることができないのです。創造主は「私は始まりも終わりも知らない」と語っています。たとえ創造主がどこにいても、我々は創造主から教えられること以上のことは知ることができません。

ただ、一つだけ明確に言えることがあります。あらゆるものが常に変化を続けています。いかなる太陽系や惑星も常に変化を続けています。地球もそうです。そして、地球が人の居住に適した環境に変化したとき、あの一二の種族がやって来ました。どこかの惑星から一つの種族が訪れ、別の惑星からまた一つの種族が訪れ、というようにしてです。人間の居住に適した環境となるためには、あらゆるものがそれにふさわしく変化しなくてはなりません。

そしてそんな状況は、いまでも休みなく続いています。その理由で宇宙空間を移動している宇宙船が、いまでもこの宇宙にはたくさん存在しています。新しく居住に適した環境を手にした惑星群が次々と誕生しているのです。そして人々は、それらの新しい惑星に次々と移り住んでいます。ただし一般にそれは自主的な行動です。ほとんどの場合、いかなる人間もそれを強いられることはありません。

惑星を軌道番号で呼ぶ

問 火星や金星の人々は、自分たちをどう呼んでいるのでしょうか？ 火星、あるいは金星人などと呼んでいるのでしょうか？

ア いや、彼らはそんなふうには呼んでいません。彼らは自分たちを、単に同じ太陽系、あるいは宇宙のブラザーズ（兄弟たち）と呼ぶのみです。彼らは確かに、地球に来たときには自分たちを火星人あるいは金星人と呼んでいます。しかしそれは我々が彼らをそう呼んでいるからにすぎません。そもそも彼らの惑星に火星や金星という名前を付けたのは地球人なのです。我々はあらゆる天体を発見者の名前などを取って勝手に命名してきました。しかしそれら自体は、いかなる名前も持っていないのです。

彼らは概ね次のように認識しているだけです。たとえば、この太陽系内の惑星群に関しては彼らは軌道番号で認識しています。彼らの誰かに、もし私が「どこから来たんですか？」と尋ねたとしましょう。するとその人物は「軌道番号7からさ」といったように答えてくるわけです。水星が1で、金星が2、地球が3で、火星が4という具合に、彼らは各惑星を、太陽を中心とした軌道順に番号で呼んでいるのです。軌道番号で呼ぶかぎり間違いはほとんど

ど起こりません。しかし名前で呼ぶと我々はよく間違えてしまいます。

問 『宇宙船の内部(訳注)新アダムスキー全集第一巻』第二惑星からの地球訪問者『第二部』の中で、あなたは彼らの宇宙船内では写真が写らなかつたと書いていますが、彼らはそのため特別なフィルムでも開発しているのでしょうか？

ア 彼らが何らかのフィルムを開発したか否かに関しては、まだ聞いたことがありません。ただ、我々が持っている機械類の多くが彼らのそれとマツチしないということは言えると思います。それはちょうど初期の車の部品が今の車にマツチしないのと同じようなものです。

異星人の身分証明書入手法

問 地球上で生活している他の惑星の人々は、社会保証その他のために必要な身分証明書を、どうやって手に入れているのですか？

ア そんなことは、わけのないことです。この国の、あるいはこの世界の諸事情に通じているならば、あなたは、自分が欲しいと願ういかなる証明書でも、わけなく入手できます。特に、そのためにいくらかのお金を費やすつもりがあるならば、なおさらです。全く問題ありません。ほとんどの場合、あなたはただ『なくしてしまつたので最

交付してほしい』と言うだけでいいのです。

例えば、私はこの国に、一歳半のときによつてきました。そしてもう六十歳になつてしまいました。まあそれはいいとして、私に関する記録は全くと言っていいほど残っていません。どこかで生まれて、この国にやつて来た、ということしか分かつていません。そこで両親が亡くなつた後で私は独自の新しいパスポートを手にするために、ある調査を行なわねばなりませんでした。私はそれを行ないました。三十五ドルもかかりました。それで私は、パスポートを手に入れました。

今回も新しいパスポートを手にするために同じことをしなくてはなりませんでした。ただ、今回はとても簡単でしてははいられないと決意して、州当局に——その旅券課に、直接手紙を書いたのです。『私は自分の記録がほしい』『私の記録はないだろうか？』『それを手にするための費用は充分に支払うつもりだ』といった内容の手紙です。私は、もし私の記録が存在するならば、彼らはそれを必ず持つてくれることを知っていました。そして結局、私はそれを手にしました。彼らはそれを送つてくれました。幸いなことにお金は全くかかりませんでした。

宇宙船のスピード

問 彼らの宇宙船はどれほどのスピードで飛ぶのですか？

ア まず、たとえどんなに速く飛んだとしても、全く問題はありませぬ。我々はそれを我々自身で証明してきました。たとえば、むかし我々は時速八〇キロ、あるいは一〇〇キロメートルで走る車に乗つたりしたら到底生きてはいられないと考えました。しかし、いま我々はどうしているでしょうか？

いま我々はそれに乗つても生きていけるばかりか、それをこんなにも楽しんでいるのです。

彼らの宇宙船は光の速度で、さらにはそれ以上の速度で移動すると言われてきました。そこであなたは言うかもしれない。『でも、光より速いものなど存在しないだろうに！』と。でも存在するのは、磁力線や電磁気エネルギーを研究してみることです。その結果あなたは、電磁気エネルギーは秒速六十万キロメートル以上で移動することを知るでしょう。彼らの宇宙船は電磁気宇宙船です。したがつてそれは光よりもはるかに高速で移動できます。光の速度は電磁気エネルギーの産物です。そして電磁気エネルギーもまた他の何かの産物であるはずですが、その背後にそれを動かしている何かが存在しているはずですが。そしてそれは、電

磁気エネルギーよりもさらに速く移動すると思われませぬ。よつて、何が一番速いかを知れることは、いまの我々には不可能だと言えます。我々がいま知っていることは、我々が何かの速度を発見したならば、その背後に、それよりも速い何かが常に存在しているということのみです。

問 地球の人間同士はテレパシーによつて交信できますか？

ア 地球の人間同士はテレパシーによつて交信できるのか？ そうですね、中にはできる人もいます。いや、本当の話です。我々は世界中のあらゆる地域から手紙をもらいました。テレパシーをどうやつて用いるか、そして、自分が何をしているかを知っている人々は、なかなか良い成績を納めています。ただ、ほとんどの人々はそれに失敗しています。

アステロイドについて

問 ある天文学理論によると、火星と木星の間の軌道上に、別のもう一つの惑星が存在してしかるべきだということ。いまそこに存在している小惑星群は、かつてそこに存在して崩壊した惑星の破片群なのではないか？

ア 天文学理論によると——ですか？ 天文学は『そこにあつた』とは言つていません。天文学は『そこにあつたのではないか』と想像しているにすぎま

せん。さらに、いわゆる神秘主義者たちは、そこにはかつて『悪魔星』が存在したと言っています。しかし、そんな惑星などは決して存在しませんでしたし、これからも存在することはないでしょう。しかしまた、ひどい名前を付けたものです。自分の好みで物に名前をつけたりするのは、我々地球人のみです。いずれにせよ悪魔星はもとより、いかなる惑星もそこには存在したことがありませんし、今後も存在しません。

そこに存在しているのは、アステロイド帯と呼ばれるもので、同じようなものがこの太陽系に三つあります。そしてそれらは、太陽からのパワーを呼び込み、それを勢いをつけて外側に送り出す、いわばエネルギーの中継基地の役割を担っています。それらが存在するために、太陽系の端までも太陽のパワーが届くのです。

また、アステロイド帯内には、かなり大きく成長した惑星群も存在しています。直径一六〇万キロメートルほどのものさえあります。そしてもちろん、その帯内では、ほんの小さな粒子に到るまでの、実にさまざまなサイズの無数の天体が休むことなく動き続けています。

そして、たとえば、我々の月が自然の成り行きで崩壊することになった場合には、そのときまでに、その内部では月に取って変わり得る新しい天体が

成長しているはずですが、その新しい天体が、地球の、ひいてはこの太陽系のバランスをとるべく、月の崩壊とともにそこに飛んで行き、留まることになるのです！

我々の太陽系内には、そのような帯が三つ存在しています。天文学者たちも、いまではそのことについてかなりのことを知っています。

昨夜のミーティングで、我々はあるテープを聞きました。一時間から一時間半にも及ぶテープでして、残念ながら、いまここで皆さんにお聞かせすることはできませんが、実はそれには、ある火星人の声が録音されているのです。その声は霊媒や神秘主義者たちを通じてではなく、直接ここで録音されたものです。彼自身が直接にマイクの前にいたのです。その場には我々も一緒にいて彼と会話を交わしています。我々はたくさんの質問をしました。彼は答えました。そのとき我々はアステロイド帯についても語り合いました。そしていまのような話をしたわけです。

太陽の実態について

そのときに話題になったことをもう一つお話ししましょう。このこともやがては誰もが知るようになるはずです。それはスペーススピールの間で原子太陽として知られているものに関する話でした。

太陽は、いわば原子力発電所のようなものです。我々はこのことを少し前から知っていますが、一般の人々はまだ知っていません。太陽は、いわば放射線体なのです。外側に向けて放射線を常に放出しているわけです。当然、その放射線の一部は宇宙空間に接触していくうちに、何らかの障害物に接触します。そしてそのときに熱や光が発生するのです。

ブラックライト（訳注：黒光）紫外線、赤外線その他の不可視光線」という言葉を聞いたことがありますか？ ことからあの壁に向かって放たれたとしても、皆さんの目には全く見えない光線のことです。しかしあの壁に目をやると、皆さんは、そこにはつきりと光を見ることが出来ます。要するにそれと同じようなものが太陽から放射されて我々の方向にやってきているのです。我々はそれを、宇宙線、あるいはその他の名前と呼んでいます。そしてそれは、何かと接触してはじめて光や熱を発生することになります。スペースピールは、それを原子太陽と呼んでいるわけです。あの火星人も同じように語っています。

異星人は占星術を信じない

問 異星人や金星人は占星術を信じていますか？ 天体の動きによって彼ら

はどんな影響を受けているのですか？
ア 何の影響も受けていません。人間は、恐怖、あるいは自分が自分自身に影響を与えることを許しているものによってのみ影響を受けます。人間はあらゆる状況の主人なのです。万物が人間に任せています。人間が万物に任せているのではないのです。しかし我々はそのことをしっかりと学ばねばなりません。スペースピールは学びました。だから彼らは占星術などには全く興味を持っていません。

地球は崩壊しない

問 地球は、あとのどのくらいもつとご考えですか？

ア 現在の状況からして、おそらく、少なくともあと五〇〇万年は存在し続けるのではないのでしょうか。少なくともです。今の時点において地球がすぐに崩壊するような兆候は全くありません。ただし何らかの人為的な惨劇が発生した場合には話が違ってきます。たとえば私が常々語っているように、特定の地域で巨大な爆弾が破裂したりしたならば、それは一挙に崩壊に向かうでしょう。もし近い将来に崩壊するとするならば、それは何らかの人為的な圧力が加わったときです。それがないかぎり、この惑星自体はまだまだ延々と存在を続けるはずですが。

テレパシーを開発するには

問 人の心あるいは知能は、どのようにしてテレパシーによる交信を行なうのですか？ また人間はどのようなようにしたらそれを始められるのですか？

ア それは、この限られた時間内ではとても答えられない大問題です。人間はまず最初に自分自身の心について学ばねばなりません。それが何によつてできているのか、何がそれを動かしているのか、どうやって動くのか、といったことを知らねばなりません。ここでいま私が言えるのは次のことです。

我々地球人は地球に延々と住んできましたが、いまだに自分たち自身については二五パーセントも知っていません。地球人は、自分自身の内部のことではなく、外部のことを学ぶことに一生懸命です。もし我々が内部のことをもっと学んでいたら、我々ははるかに高度な進歩を遂げられたはずですが、一方、他の惑星の人々は内部に目を向けてきました。彼らは自分たち自身のことをたくさん学びました。なぜならば、彼らは自分たちが万物の主人であることを知っていたからです。彼らは、自分たち自身の敵でも味方でもありません。物事を扱うための下準備を整えれば整えるほど、人間はより良い結果を手にすることができます。

永遠の意味

問 今日の講演の中で、あなたは「永遠」という言葉を用いましたが、あれはどんな意味で用いたのですか。

ア 永遠？ この宇宙のどこを探しても、我々がその始まりを特定できるものは何一つ存在していません。また、終わりを特定できるものに関しても全く同様です。永遠は永遠です！ 永遠にはその文字通りの意味しかありません。そして我々は皆、その内部で生きています！ 我々はそれを死ぬまで待つ必要などありません。いまその中にいるのです。我々は、いかなる始まりも終わりも知らないあらゆるものの海の中にあるのです。

別の言い方をしましょうか。こう言えば分かりやすいでしょう。たとえば、私を一つの輪が取り囲んでいるとしましょう。そして、その輪を私は終わりと呼んでいるとします。しかし、その輪、あるいは終わりは、それをその外側で支える何かがあれば存在し得ないのです！ そしてその何かは、それが支えているものよりも、さらに大きなものでなくてはなりません。

異星の宇宙船のサイズ

問 彼らの宇宙船のサイズはどれほどなのでしょう？ ある人々は、長さ

八キロメートル、あるいはそれ以上だと言っていますか。

ア そうですね、その長さ八キロメートルというのは、かなり小さな宇宙船です。それよりも大きなものがいくつもあります。

ちなみに、地球はどれほど大きいでしょう？ 地球も宇宙船の一つなのです！ そんなばかな、などとは考えないでください。地球はいま一秒間に三〇キロメートルもの速度で宇宙空間を移動しています。そして我々は、いまその上にいるのです。したがって我々も、紛れもない宇宙人なのです。もしそうでなければ、我々は、地球の上にはなく地球の内側で生きていくてはなりません。

地球の表面は我々が大气と呼ぶ層に覆われています。我々はその大气の中で生きているのです。水の中で生きている魚のように。地殻の下側ではなく、その上で我々は生きているのです。

そして我々のはるか上空にはイオン層と呼ばれる層があります。それはちょうど卵の殻のようなものです。その内部のものはすべて、常に一緒に移動しています。そのため我々は、すごい速度で移動しているにもかかわらず、いかなる動きも感じないのです。

地球に来ている宇宙船の数

問 地球上空を飛んでいる他の惑星か

らの宇宙船は、どのくらいいるのでしょうか？ 五〇〇万から一億という話を聞いたことがありますか。

ア はっきりした数字は分かりませんが、その正確な数を言える人間はこの地球上には一人もいません。ただ、これまでの知識を基にしてあえて言うならば——これはあくまでも私の想像ですが——地球上空を飛んでいる彼らの宇宙船の数は、一日当たりせいぜい四〇〇機といったところででしょう。それは、はるか上空——地上二四〇〇〇メートルあたりの上空を飛行するものも含めた数字です。

異星人は転生を信ずるか

問 彼らは転生（生まれかわり）を信じていますか？

ア 生きている人間の誰もがそれを信じていないわけにはゆきません。転生とは再び誕生することです。あるいは戻ってくることです。我々の自然界は毎年春になると、それを見事に見せてくれます。我々は間違ひなく転生します。しかもそれを行なっているのは人間だけではありません。生命を持つあらゆるものがそれを行なっています。

ただ、もしかしたら、あなたがおっしゃった転生には別の意味が含まれていたのかも知れません。もしそれが、今良いことを行なったならば、次に、より良い肉体とより良い環境を手にし、

●グアテマラに出現したUFO

昨年8月、日本GAP主催第15回海外研修旅行でアメリカ、メキシコ、グアテマラを訪れた旅行団が、17日にグアテマラのティカルに眠る古代マヤ遺跡を見学した際、メンバーの一人、清水正氏（日本GAP横浜支部代表）が高さ70mの第4号神殿に登頂、遠方のジャングル地帯を撮影したところ、遙か彼方の山々に近い上空に不思議な物体が写っていた。本人は目撃していない。後日、秋山真人氏が鑑定した結果、正真正銘のUFOであるという。写真は一部分だけを大伸ばししたので画像が不鮮明になったが、撮影位置からの距離で推測すると巨大な物体らしい。

ニコンFE・135mm・コダクローム100



悪いことを行なったときには、次に、たとえばレタスなどになってしまい、誰かに食べられてしまうとといったような、インドの一部で信じられているような転生を意味しているとするならば、それは間違いです。我々が転生する容器（肉体）は決してその性質を後退させません。

ただし、食べるということ思い出しましたが、我々は自分たちの肉体をあまりにも過大評価しがちだと言えます。我々は一般にそれを、他に類を見ない特別に貴重なものだと考えています。しかしそれは思いがりというものです。

例えば、皆さんの家にもおそらくドライブウェー（訳注―屋敷内の車道）

があるでしょう。そこはとも固くて、いかなる草も生えていません。そこで私が今晩死んだとしましょう。そしてたとえば、一番前にいるあなたが、私をそのドライブウェーに穴を掘って埋めたとします。すると、どうなるでしょう？ 三〇日もしないうちに、そこには立派な草が生えてくるはずですよ。続いてそこに牛がやってきて、その草を食べます。間もなくあなたは、その牛の乳を搾り、それを飲みます。そのときあなたは私の一部を飲んだことになりません。またその牛を殺して食べたとしたら私の一部を食べたことになりません。なぜならばその牛はドライブウェーの草を食べたのです。そしてその

草は、私が土の下に埋められているから成長したのです。結局、我々の肉体もその程度のものでした。特別優れたものなどでは決まっています。

問 宇宙空間が核実験による汚染を吸収してくれるという情報がありますが、実際にはどうなのでしょう？

ア 宇宙空間には、確かにそれを吸収する能力があります。しかしそれも、その汚染物質がそこまで到達すればの話です。実際には、イオン層があるためにそれは宇宙空間に出ることができずに大気圏内に留まることとなります。

異星人はなぜ地球に来るのか

問 地球で暮らしているスペースブルー―たとえば先程お話しになった火星人は、なぜ地球に留まって、わざわざ不幸せを感じなくてはならないのですか？ それを彼らみずから選択したのでしょうか？ それとも他に理由があったのでしょうか？

ア 彼がそれを自分で選択したかどうかは尋ねたことがありません。彼はただそれを使命だと言っていました。それがみずからの選択なのか、あるいは誰かによる命令なのかといったことに関しては聞いたことがありません。ただ、地球で何かを学ぶ必要があるからここにいる、ということだけは確かなことです。我々はどこかで自分のさま

ざまな欠点を発見しなくてはなりません。そして、地球にすることが彼にとっては、それを発見するために好都合なのでしょう。それを発見して認識したならば、次に彼はそれを修正することができるようになります。そして、それによってより進歩した人間となつて、やってきたところに戻って行くというわけです。

我々は宇宙船をもつと見るか

問 近い将来、我々は宇宙船群をもつと頻繁に見るようになるのでしょうか？

ア 他の惑星群からのもののみならず、地球製の宇宙船群をも見るようになるでしょう。また、将来ばかりでなく、これまでにすでに地球の人々は実に頻繁にそれらを目撃してきました。過去一〇年間だけでも世界中で数百万回は目撃されてきたはずですよ。しかし、その事実ほとんど明らかにされていません。これまでに公になつて目撃例は、それを口にする勇氣のある人々のみによつて報告されたものです。おそらく、目撃はしたもののそれを公にしない人々の数は、それらを公にして人々の少なくとも一〇倍には達しているでしょう。ほとんどの人々は、それを口にするだけで自分に浴びせられるであろう非難を恐れ、口をつぐんでいるというのが現状なのです。それが地球の実態です。

天才はどのようにして出現するの

問 あなたの知性的進歩理論に関連した質問があります。この世界のいわゆる天才といわれる人たちの出現は、どのように説明できるのでしょうか？ 四歳にして音楽的才能を発揮したモーツアルトや、アインシュタインのような人々ですが、やはりこれも転生と関連があるのですか？

ア 必ずしもそうだとはいりません。そうであることもあれば、そうでないこともあります。二つの可能性があるので。まず、特定の知性が大人の肉体の中に入り込む場合です。ときおり人間の肉体には、その年令にかかわらず人生の途中で全く別の人格が入り込むことがあるのです。特定の知性が他の肉体に入り込み、以後そこに留まり続けるわけです。そして、それまでは全く所持していなかった才能を急に発揮するようになったりするので。また、もちろん、多くの天才たちが、一般的な転生すなわち生まれ変わりを通じて直接知性を持ち越しています。ただし、すでに宿っている知性に代わって新しい知性が入り込むことも、決して少なくはないのです。ただそれは、他人の肉体を奪い取るといった種類のものとは全く違います。それは言うなれば、ある家の住人が引っ越していった後で、その家を買って移り住む

ことと何ら変わるものではありません。これは「入れかわりの法則」と呼ばれるもので、実際にはとても素晴らしい法則です。しかし正しい理解をしていない人々には、とても恐ろしい法則として捉えられがちです。

地球の内部に人間がいるか

問 地球の内部に住んでいる人々はいらぬのでしょうか？

ア いまません。いいですか、すべての人間が生まれながらにして頭脳を所持しています。我々には用いるべき心があるのです。人間はそれを用いることができます。そして実際、それを用いて優れた探知用装置を開発しました。我々が自分たちの国を守るために用いているような装置類です。もし地球の内部に住んでいる人々がいたとしたら、彼らは何らかの機械的な動きをするはずですが。したがって、もし彼らが存在しているならば、我々はそれとつくづく探知してしかるべきです。

他の惑星の女性と子供について

問 他の惑星の女性と子供たちについて、もっとお話し願えますか？

ア 我々と全く変わらないということ以外には、あまり知りません。ただ、彼女たちは地球の女性たちよりも、子供たちをうまく育てているということ

は言えるかと思えます。男女を問わず彼らは我々よりも子供たちのことをはるかに良く知っています上に、子供たちをはるかに良く観察しています。そして子供たちが生まれながらに所持しているものを開発するための機会を100パーセント与えています。

彼らは、あらゆる生命体が特定の目的とともに生まれてくることをよく知っています。つまり特定の才能とともに生まれてくることをです。そして彼らは子供たちのその才能をよく観察します。両親たちはとてもよく教育されているために、自分たちの子供が生まれてから五分ほどの間にその才能を見抜きます。そして以後はそれにそって子供を導くのです。そういつたこと以外是我々と全く変わらないと言っているでしょう。

そう言えば、かつてある講演の後でこんな質問をされて面喰らったことがあります。その会場には四六〇〇人の聴衆がいたのですが、質疑応答が始まるや、シンガポール・ジムという名の男が、いきなり「彼らの性生活はどうなっているんですか？ 彼らも子供を作っているんですか？」と尋ねてきたのです。その瞬間、私はどう答えたらいいものかと真剣に悩んでしまいました。なにぶん会場はあらゆる種類の人々がいたのです。しかし幸運なことに、少しして名案が浮かび、私はこう答えてその場を乗り切りました。

「ジムさん、でしたね。私はあなたにあることを保証しましょう。あなたとは別な惑星に行っても新しいトリックの類は何一つ学ぶ必要がありません。明確に保証します。すべてが現実的なのです。あなたが好むと好まないにかかわらず、彼らの生活は実に現実的なのです」

異星人はなぜもつとコンタクトしないのか

問 もしスペースビープルがそんなに我々に協力的であるならば、彼らはなぜもつと多くの地球人とコンタクトしないのですか？ 彼らの存在を信じる地球人と、もつと頻繁にコンタクトすれば、よりいっそう我々を援助できるのではないのですか？

ア なるほど、もつともな質問です。近年行なわれてきた本物のコンタクトは二五〇〇件ほどです。一般に報告されているコンタクトは四〇〇〇件ほどに上っているのですが、その中で本物のコンタクトと認められるものは二五〇〇件しかありません。そして、その二五〇〇件の中でも、うまく機能したコンタクト、すなわち、望ましい結果につながったコンタクトは極めて少数です。異星人とコンタクトした地球人たちのほとんどが、しっかりと口をつぐんでしまっているのです。

結局、コンタクトしても、あまり良い結果は生まれません。我々は彼らに接触してほしいと願います。そして接触することができたとします。でも、その後で我々は、友人、家族、知り合い、その他誰でも、とにかく他の人々の嘲笑に一度晒されるや、ほとんどの場合黙ってしまうのです。そこに問題があるのです。さらに、それ以後は、「もう二度とコンタクトなどしたくない。こないやな思いをすることになるのが分かっていたら、コンタクトなどするんじゃないかとさえ考えるようになります。それと、他の人々からのその種の反応を予想して、最初から何も語ろうとしない人々も少なくありません。」

異星人の日常の仕事

問 火星の人々は、たとえば食べ物や衣料品などをどうやって手に入れてるのでしょうか？ 彼らは宇宙船で飛び回ること以外にも何かをしているのですか？ (笑い)

ア 彼らももちろん、しっかりと仕事をしています。ただ彼らはほとんどの仕事を機械にさせていると言えます。いわゆるロボット・システムが確立しているわけです。農業から何から、ほとんどの仕事はそうやって行なわれています。そして人々は、言うなれば、その仕事を監視しているわけです。それが彼らの仕事だということになります。

そして、地球的な感覚で言うなら、彼らが働く時間は一日当たり二時間ほどです。彼らが行なうべき仕事はそれで十分に達成されます。そうやって彼らのすべてが働いています。そして残りの二二時間は、彼らの個人的活動に向けられています。彼らはその時間を利用して自分が心からやりたいことをやっています。勉強もできますし宇宙船に乗ることもできます。何でも好きなことができます。

あ、それから、こんなシステムがあります。たとえば、彼らの総人口が三〇〇万人だったとした場合、そうですね、まず一〇〇万人ほどが——これもまた地球の時間的概念を当てはめた場合のことですが——一年の最初の三カ月間ほどの間、宇宙旅行に出ることが出来ます。それはいわば研究あるいは学習の旅です。各人が思い思いの課題を持ち、その研究、あるいは学習を遂行します。

そしてそのグループが帰還すると、今度は次の一〇〇万人のグループが同じようにして宇宙の旅に出掛けます。そのようにして誰もが宇宙の学習の旅を体験できるのです。男も女も子供もです。そしてそれにはお金など全くかかりません。もっとも彼らの惑星にはお金も、またそれに代わるものも一切存在していませんがね。そんなものは必要ないのです。

かつてフランクリン・デラノ・ルー

ズベルトは、あの大不況の最中にNRI A（全国復興産業法）を制定することで、このアメリカにかなり彼らのシステムに近いものを導入したと言えます。当時彼は利益追求を目的としない工場群を作ったりもしました。そして彼のその試みは、最高裁判所がNRI Aを違憲だと判断するまでは、とてもうまく機能したのです。

人間の記憶力について

問 あなたはご自分の本の中で、他の惑星の子供たちは、前世で獲得した知識をとて早いうちから利用、あるいは拡大できる、と語っていますが、そのことについてもう少し詳しくお話し頂けませんでしょうか？

ア 人間としての進歩程度が高いために、前世の記憶が彼らの中では途切れることがないのです。この地球にも、そういった人々は存在しています。心がある程度以上の進歩を遂げると、誰でもそうなります。より優れた記憶力を手にできるためです。たとえば、私は三〇〇ページの本を読んで、六カ月たった後でも、その中に書かれてある一語一語を引用することができます。

ただしスペース・スピールの心は、我々のそれに比べてとてつもなく進歩しているというわけでは決してありません。わずか三パーセントほど進歩しているにすぎないのです。皆さんの記

憶力も、その進歩段階に到れば自然により優れた機能を発揮するようになります。特別な訓練などは何も必要ありません。聖書はそれを「いつの日か、記憶の書がすべての者の前に開かれるであろう」と語っています。いつの日か、自分の心がその段階まで進歩したとき、皆さんは自分の記憶力がはるかに優れたものとなっていることに気づくでしょう。そのときがくれば自然にそうなるのです。要するに、彼らはその段階まで進歩しているということなのです。

したがって彼らは前世の記憶をしかりと持ったまま新しい人生を開始します。その記憶が途切れることがないのです。そのため彼らは誕生時点ですでに我々よりもずっと先を行っているということが言えます。一方我々は、ほとんどの場合、過去の記憶が途切れてしまいます。したがって何を学ぶにせよ、最初はとても大変です。

一方、彼らはそれをとて容易に行ないます。ただ、我々もしばらくは遅々とした学習速度を維持しますが、一度そのことに親しんだならば、はるかに早いスピードで理解できるようになります。たとえば最初の頃には理解するのに一週間も二週間もかかったようなことでも、わずか二時間で理解できるようになる、といったようになります。

異星人が才能を発揮し始める時期、あるいは、彼らが成長し成熟する時期

が、我々のそれよりもずっと早いというの、そういう理由によるのです。皆さんの学習速度もいまはまだゆっくりかもしれませんが。しかし一度ある段階に達したならば、それは驚くほど速やかに展開することになります。

万物の相互関係

問 地球は月と結びついているという理論がありますが、それに関してはどうお考えですか？

ア もちろん、結びついています。互いに結びついていないものなど何一つ存在しません。

面白い例を紹介しましょう。ある講演の後の質疑応答に入ったときです。一番後ろにいた赤毛の男が尋ねてきました。「神は、海をなぜ海岸のすぐそばに創ったのでしょうか？」（笑い）彼はそう言ってきたのです。明らかに私をからかっていたのです。疑いようがありません！ 彼はその質問で、私から一本取りたかったのです。

その場にいたのはよく知った連中ばかりでしたので、私はその質問に次のように答えました。

ところで、あなたは海岸というものを定義できますか？ あなたが海岸と考えている場所にある水分は、地面の下を通ってずーっと内陸部にまで到っていることをご存じでしょうか？ さらにそれは川にも通じ、世界中のあら

ゆる海ともつながっています。そして何よりも、地球自体を通じてすべてのものにつながっているのではないですか？ だとしたら海岸とはいったいどこにあるのでしょうか？

とまあ、そんな説明を続けたわけですが、最後に彼は言ったのです。「いや、とても良いことを学びました」と。

とにかく、あらゆる物が他のすべての物と結びついています。すべてのものが互いにつながっているのです。我々はそれを相対の法則と呼んでいます。

問 人類の救い主であったイエス・キリストは、いったいどのような世界に適應し得たのでしょうか？

ア 前にもお答えしたはずですが、いいでしょう。もう一度お話ししましょう。

イエスは人間でした。そしてキリストは原理です。イエスは自分自身をキリストなどとは一度も主張していません。そう主張したのはペテロでした。イエスはただそれを認めただけです。彼は決してそれを自分からは言いませんでした。彼は、自身が、我々がいま考えているほどに偉大な存在ではないということを明言してさえます。「あなたがたは、私が行なったことよりも偉大なことを行なうだろう」と彼はそう語っているではありませんか。そしてそのとき、彼の達成よりも偉大な達成がすでに存在していることを証明す

ることまでしています。

さらに彼は弟子たちに向かつてこう言っています。「私はあなたがたを、肉ではなく乳で養う。なぜならば、あなたがたはキリストの中の子供たちだからだ」そして、彼がそう語ったのは、皆さんや私のような人間たちに対してなのです。

キリストは普遍的なものです。キリストという言葉は『宇宙の意識』(Cosmic Consciousness) から発しています。そしてそれは『至高なる存在』そのものだと言えます。我々は、原因と結果をブレンドしているその存在の中の一本の光線です。しかしながら、今日私たちは、宗教界ともども結果のみを生きています。私が見たところ、この世界のいかなる宗教組織も、その点に関しては過ちを犯しています。なぜならば、彼らは決して一体とはなり得ない分派を形成しているのです。

結果と原因が同等に崇められないかぎり、真の成長はあり得ません。母なる大地(すなわち地球)も、皆さんという存在をあらしめている父同様に神聖なものです。それなくして皆さんは決して肉体を持ってませんでした。父は原因であり、母なる大地は結果です。大地は目に見える存在です。しかし原因は目に見えない存在です。そしてそれは我々にやはり目に見えない「生命の息」を与えてくれています。それなくして我々は生きることができません。

そうしないと存在することはできません。そして、それらの二つを一つの単位として束ねないかぎり——スペース・ピールはそうしてきました——我々は何を行なってもむなししい結果に終わるでしょう！

異星人の万病治療器

問 あなたは先程、刃物を用いない手術その他、我々の健康に関する話をいくつかお話ししましたが、その点に関してもう少しお話し頂けませんか？

いい、それに関する——特にその手術に関する我々の学習、あるいは研究の助けとなるような本でもありましたら、それを教えて頂きたいのですが。

ア 私が知るかぎりでは、それに関する書物はまだ読むことも入手することもできないと思います。ただ、以前ニューヨークに行ったとき、私はNBCのある幹部の招待を受けました。私が出向いていくと、まず彼は、私の本の一つを持ち出して、その本に彼の息子のためにサインしてくれと言ってきました。その後、我々は親しく会話を交わしたのですが、その中で例の高周波装置の話が話題に上りました。

彼が言うには、すでに地球でもその種の装置が開発されていて、いわゆる人体実験まで行なわれているということです。彼はその装置の写真まで持っていました。そこで私は、その人々、

つまり被験者たちですが、彼らは実に幸運な人々である旨を語りました。その結果彼らは、おそらく寿命を一〇年から一五年は延ばしたはずだからです。そこで、たとえば、私が手首の骨を折ってしまったとしましょう。そして、その高周波装置を用いてその手術をする、こういうことになります。その目的は、もちろん、この部分の肉を開いて折れた骨を元通りにくつつけることです。

その装置から出るある高周波がこの手首に当てられると、まず、この部分の肉がきれいに開かれます。各細胞同士のプラスとマイナスが引き合うことで密着しているわけですから、そこにある高周波を当てると、それらはあつと言う間に離れるのです。

さて、そうやって肉を開いた状態にしたなら、次は別の高周波を当てることになります。折れた骨を元通りに修復するためのものです。これもあつと言う間に元通りになります。折れていたことなどまるで嘘のようにきれいに修復されます。そして最後に装置が患部から離されると、開いていた肉があつと言う間にくつつきます。いかなる傷も残さずです。地球人はすでにその種の装置を持っています。ただし一般的に用いられるようになるまでには、まだしばらくかかるかもしれません。あと五年ほどはかかるかもしれません。

(この項、完。以下次号)

おめでとよう!

日本GAP東京本部役員に加藤純一氏と同じく役員の越崎裕子さんは、かねてからGAP活動に専念するうちに愛が芽生えて去る三月一日にめでたく結婚した。この結婚式と披露宴は、久保田会長の指導のもとに東京本部役員団が結集協力して開催し、素晴らしい式典となった。

会場は都内中央区銀座八丁目の名門「資生堂パラー」の四階宴会場。午後一時三〇分より六七名の出席者の見守る中をGAP方式によって実施。モーツァルトの「フルートとハープのための協奏曲・第一楽章」の典雅な名曲が流れる中を、優美なブライダル衣装の新郎新婦とご親族の方々が入場。

まず司式として正面に立つ高梨十光氏（日本GAP伊豆支部代表）の結婚確認の儀と激励の辞があり、新郎新婦の誓いの言葉と指輪の交換を行ない、熱い頬の触れ合いで式を終了。

二時から同宴会場で華やかな披露宴を立食形式で開催。新郎新婦のケーキカットと久保田会長の挨拶が続き、会員・秋山和広氏の音頭によって全員乾杯の音が高らかに響くと同時に男声合唱の陽気なメキシコ民謡が鳴り渡る。開宴中、新郎新婦は優雅に会場を歩き回って祝福の言葉を浴びたり一語に写真撮影に入ったりして交歓。これは立食形式のメリット。

宴たけなわの頃、秋田支部から駆け付けた民謡の大家で会員の佐藤春雄氏

▲盛大な披露宴



▲佐藤春雄氏の民謡



▲津田バンドに新郎も参加



▲最後のアーチくぐり



が秋田民謡を美声で披露。これは新郎が秋田市出身のための友情出演。続いてコントラバスのプロ津田篤孝氏とギターの西川太氏によるバンド演奏で興趣を添える。最後は軽快なラテン音楽が響くなか、参加者全員が作った長い人間アーチの中を新郎新婦がくぐり抜けて一斉に拍手を浴びるとともにクラッカーによる轟音が鳴り響く。こうして新夫婦はめでたく人生の新たな旅へ出発した。多数の方から祝電を頂いて、夫婦にかわり深謝致す次第。

この結婚式と披露宴は一律会費制によって運営されたため新郎新婦は無料であった。

▲新郎新婦の入場



▲高梨氏の結婚司式



▲久保田会長の挨拶



第二回 横浜支部大会

三月二〇日／横浜市・港の見える丘公園「ポートヒル横浜」／出席者七三名

横浜支部代表 清水 正

梅の花咲く連休初日、懸案であった第一回目の横浜支部大会を久保田先生をお迎えしてついに開催した。会場は外人墓地や高級住宅地として有名な港の見える丘公園内にある総合結婚式場「ポートヒル横浜」である。ここはベイブリッジと港の眺望絶佳の高台で、この日はあいにく曇空のため見通しはいまいちだったが、会場内は真剣な探求精神の熱気に満ち溢れていた。予想をはるかに上回る参加者に恵まれて支部役員一同は驚喜していた。

一時よりまず支部会員でフリーエネルギー研究者として知られる杉山敏樹氏が登壇。「学びのプロセス」と題するお話で、願望実現の手段として中心にイメージを描くことの重要さを説かれた。

続いてメインである久保田先生が登場。「宇宙哲学で奇跡を起こす方法」と題して素晴らしいお話を展開された。連日の激務にもかかわらず、しかも風邪をひいておられるのに、怒涛のパワーを発揮して講演される姿に圧倒される。

まず三月一三日の加藤純一氏と越崎裕子さんの結婚式について言及され、あのような席で発する祝福の想念を常

に誰に対しても発するようにしておれば、きわめて良きカルマを形成することになるかと力説される。そして元・山形支部会員で現在は青年海外協力隊員としてパナマに在住中の伊藤睦史氏の記事を引用しながら、氏の仮説である人間が描くイメージによって「場」(フォースフィールド)の形成が起り、その結果、病気や環境がイメージ通りに変化するのではないかという理論を展開された。そして各種の奇跡発生の実例を列挙されたが、これは私達に絶大な勇氣と希望を起こさせる素晴らしい解説となった。

夕食会も同館四階の富士の間で多数が参集してなごやかに開かれ、秋田支部から駆け付けてこられた佐藤藤雄氏が祝福に満ちた民謡を披露された。

翌日の観光は快晴に恵まれて二一名が大型観光バスで周遊。東洋一の高さを誇るランドマークタワー、山下公園、中華街、三溪園等を見学散策してベイブリッジを最後に終了した。第一回の大会ながら大成功裏に終了して、遠路をご参加頂いた多数の方々々に心から感謝致します。

※

第一回ながら素晴らしい大会であった。清水正代表以下支部会員の皆さんが一致協力して立派に運営され、きわめて楽しい雰囲気になった二日間が経過し、これぞ横浜支部だと感嘆した次第。衷心より深謝したい。久保田八郎

▼大盛況の横浜支部大会。中央左寄り赤いリボンが久保田会長。その右は清水正代表。



第5回・秋田支部大会

〈4月30日〉

新緑の田沢湖畔で歓喜の波動!

●今年も久しぶりに東北の地へ久保田先生をお招きして雄大な講演をお聞きすることになりました。支部会員一同歓喜に燃えています。田沢湖は秋田県最大の観光地。またUFOの出現も多い土地です。風光明媚、清澄な空気に包まれた湖畔で、お互いに宇宙的な精神波動を高めようではありませんか。昼の大会、夜の夕食会、宿泊のすべてを同一の建物内で行ないますからきわめて便利です。翌日は車で田沢湖周辺や新緑萌える名高い八幡平高原を周遊。途中で空を見上げてテレパシーで送信すれば、UFOの祝福の出現があるかも?東北地方の会員の皆様、この絶好の機会をお見逃しなく万障お繰り合わせのうえ多数ご参加下さい。支部会員一同心からお待ちしております。宿泊申し込みは早いほど有利です。 支部代表 伊藤正治

▼上は支部大会会場「田沢湖ハイツ」



田沢湖高原
Tazawako
HEIGHTS
Heights

日 時 4月30日(土・飛び連休の中日)
1:00—5:00
会 場 ホテル「田沢湖ハイツ」中会議室
秋田県仙北郡田沢湖町生保内
駒ヶ岳 ☎0187-46-2201
交通=大曲・盛岡間JR田沢湖線
「田沢湖駅」下車、乳頭温泉行きバ
ス約40分。「保養所団地前」バス停
下車、徒歩3分。
会 費 ¥2500(全員記念写真代¥1000は
別途)

—プログラム—

司会 佐々木京子
1:00 支部代表挨拶 伊藤正治
1:05 会員講演 佐藤忠義
1:35 講演「アダムスキー問題の意義
と奇跡発生法」久保田先生
3:00 全員記念撮影・休憩
3:20 全員自己紹介・質疑応答
5:00 閉会

夕食会 6:00—8:00 同ホテル別室に
て。

会 費 ¥6000
宿 泊 ¥6000(朝食込み)シングルがな
いので相部屋になります。

観 光 5月1日(日)田沢湖周辺と八幡
平を車で周遊。JR田沢湖駅到着
予定は3:00 秋田駅・秋田空港到
着予定時刻は4:30。

参加費 ¥1500
申 込 夕食会、ホテル宿泊、観光参加希
望者はハガキで下記へ4月28日ま
で(必着)にお申し込み下さい。
あらためて詳細案内書をお送りし
ます。

〒010 秋田市山王新町15-4
伊藤正治 ☎0188-62-2831

※4月10日の月例セミナーは通常
どおり開催します。



本誌バックナンバー掲載記事目録

★下記の他に101号と105号以降最近号まであります。代金後払い可。ハガキでご注文の場合は号数・住所・氏名・電話番号を明記して下さい。バックナンバーに限り送料は当方でサービスします。ご注文は日本GAPへ気軽にどうぞ。

No.124 平成6年1月25日発行 ¥900

信念の力、希望の力、絶対に諦めない力を起こす方法——久保田八郎
 今世紀末、大変動発生なし！——秋山真人
 私を助けてくれる異星人達——上原則子
 アダムスキー型円盤、長時間出現——石井佳子
 浅草上空に出現したUFO——堀江健一
 UFO・宇宙・人間——G・アダムスキー

No.123 平成5年10月25日発行 ¥900

凄い超能力者のUFO目撃と遠隔透視——編集部
 私を助けてくれる異星人(1)——上原則子
 山梨県に出現した巨大UFO——編集部
 エゼキエルはUFOを見た？——久保田八郎
 私はアダムスキー型円盤を見た——海瀬宏子
 UFOと異星人の実態——G・アダムスキー
 謎の古代マヤ遺跡とUFO——久保田八郎

No.122 平成5年7月25日発行 ¥900

金星文字を解読してUFOの推進原理を解明！——バシル・パン・デン・バーク
 星々への切符——遠藤昭則
 オメ教授が発見した金星？文字——久保田八郎
 不思議な体験連続の人生——千葉福造
 オーラで異星人を見分ける——紙屋光孝
 私だけが見るUFO——須山有美子/宮本浩子
 万物は人間の想念に感応する——塩谷信男
 四感・生命の息・転生——G・アダムスキー

No.121 平成5年1月25日発行 ¥900

パロマ山にUFO出現——久保田八郎
 宇宙ポータルはUFO——久保田八郎
 アダムスキー型円盤、超低空で東京をかすめる！——久保田八郎
 江戸川堤防の怪光体——鈴木 武
 不思議な筒状の雲——沼倉孝彦
 人間・イメージ・波動——佐々木八郎
 驚異の超小型円盤と宇宙の永遠の活動——G・アダムスキー

No.120 平成5年1月25日発行 ¥900

宇宙的な信念と勇気を起こす方法——久保田八郎
 二人の異星人からの忠告——辻 俊昭
 テレバシーで植物を動かす方法——遠藤昭則
 人間は生来テレバシー能力を持つ——堀江健一
 夜空の不思議な“映像”——田辺優子
 重力と宇宙の自然のパワー——G・アダムスキー
 モアイとUFOの島へ——伊東芳和

No.119 平成4年10月25日発行 ¥900

夜空に不思議な「U」の文字が出現——久保田八郎
 私の超能力開発体験と異星人女性との出会い——佐々木八郎
 瀕死の妻が宇宙哲学で奇跡的に全快——口ノ町一男
 ミコミラクルワールドとイメージ法で腰痛が急速に治る——久保田八郎
 穴原美智子
 神室山上空のUFO——沼倉 孝彦
 UFO・異星人・地球人——G・アダムスキー

No.118 平成4年7月25日発行 ¥900

イエスの実像と転生の法則——久保田八郎
 計り知れぬ影響力をもつアダムスキー——中村省三
 宇宙の意識とともに願望を実現させる方法——高梨十光
 私のUFO目撃と不思議な体験——川野晶子
 音楽は生命エネルギーを運ぶ——鷺見 弘
 UFO・異星人・地球人(1)——G・アダムスキー
 天地万物との一体化で長寿——塩屋信男

No.117 平成4年4月25日発行 ¥900

巨大宇宙船、デザートセンター上空に出現！——久保田八郎
 地球救済活動を続ける異星人(2)——秋山真人
 飛行機を助けた謎のUFO——久保田八郎
 奇跡を起こす反復思念とイメージ法——久保田八郎
 善だけを探し求めてテレバシーが発現——小川隆志
 ひとりで物品が動く現象——大嶋順子
 思いどおりに出現するUFO——中島直仁
 ジョージ・アダムスキーと異星人(完)——アリス・ポマロイ

No.116 平成4年1月25日発行 ¥900

地球救済活動を続ける異星人——秋山真人
 南フランスの不思議なコンタクト事件——中村省三
 奇跡的に願望を実現させる方法——テッド・オーウェン
 病氣治療の宇宙哲学的応用——高梨十光
 ミラクル・ワードとミラクル・イメージ——久保田八郎
 江東区上空のUFO——森田久恵
 南九州支部からの声——曾我部勇人
 プラズマに助けられた？——藤沢清則
 ジョージ・アダムスキーと異星人——アリス・ポマロイ

No.115 平成3年10月25日発行 ¥900

アダムスキーとUFO問題の真相——ハンス・ピーターセン
 金星表面に超長大な水路を発見！——久保田八郎
 20年ぶり宇宙からの帰還！？——久保田八郎
 突然消滅した10人の少年少女！——久保田八郎
 暗闇から現れた不思議な人々——久保田八郎
 円筒型の奇妙な物体を見る——服部哲雄
 謎の飛行物体、米子に出現——久保田八郎
 UFOの色彩についての考察——斎藤俊徳
 UFOと古代マヤの謎——久保田八郎

No.114 平成3年7月25日発行 ¥900

日本GAP 全国ネットワークテレバシーコール UFO観測会、大成功
 北海道上空の物凄い光景——松村芳之
 尽きぬ宇宙へのロマン——高木 澤
 奇跡を起こす想念の力——遠藤昭則
 私は巨大な円盤を見た！——松浦義教
 タバノイの謎の大爆発——ジャン・バジャック博士

No.113 平成3年4月25日発行 ¥900

ファティマの大円盤出現事件——久保田八郎
 奇跡のペンダントと転生の法則——ハンス・ピーターセン
 ティモシー・グッドのアダムスキー体験——中村省三
 オーラ透視力開発法——遠藤昭則
 壁面の奇跡——永山稔恭
 江戸川区上空の巨大UFO——北館博子
 クリスマス前のUFO出現——伊藤芳和
 私のUFO目撃体験——平井沙織
 UFO-宇宙からの完全な証拠(完)——ダニエル・ロス

アメリカ・メキシコ・コスタリカ 宇宙ロードの旅

●1994年度(平成6年)日本GAP企画第16回海外研修旅行



写真上=デザートセンターのコンタクト地点(矢印)。下左=テオティワカンの太陽のピラミッド。右=パレンケの碑銘の神殿ピラミッド。
撮影3点共、久保田八郎

◆日本GAP海外研修旅行は今回で16回目になります。今度はアメリカの大都市ロサンゼルス市内見学を皮切りに、1952年11月20日にアダムスキーが金星人と会見した歴史的な場所であるデザートセンターを訪れてコンタクト地点を視察します。GAP会員必見の感動の地域です。そのあと中米の美しい国コスタリカへ飛び、首都サンホセに2泊して市内見学、名高い避暑地のアウフェラや花の都エレティアを周遊。次にメキシコへ入り、首都の近くのテオティワカン大遺跡を見学。太陽のピラミッドや月のピラミッドに登頂。首都の市内見学。翌日はメキシコの田舎へ専用バスで行きます。ここはUFOが着陸して特殊な放射線を浴びせたために水質が変化して、これを飲めばどんな難病でも治るといわれる奇跡の水が湧き出る所です。自由に飲んだりビンにつめて持ち帰ることもできます。首都のメキシコ市には2泊して、滞在中はユカタン半島の古代マヤ遺跡中最も壮麗典雅な風格をもつパレンケの遺跡を訪問(希望者のみ)。その後メキシコ市から米サンフランシスコを經由して帰国の途につきます。

◆日本GAP独特の温かい家庭的な雰囲気満ちた手作りの楽しい旅を満喫して下さい。旅行中はベテランの田中正(ワールドセプトラベル社より添乗。日本GAP東京本部役員)と久保田八郎日本GAP会長が親身のお世話を致します。訪問地のいずれも治安は良好ですから安心して多数ご参加下さい。

日程

1994年(平成6年)8月12日より10日間。
12日(金)成田16:00発。米ユナイテッド航空890便で出発。同日朝ロサンゼルス着。着後半日市内見学。同夜ロサンゼルス泊。
13日(土)朝専用バスで出発、デザートセンター行き(片道4時間)、夕方市内へ帰着。夜ロサンゼルス発。(機内泊)。
14日(日)朝コスタリカの首都サンホセ着。国立博物館、黄金博物館その他、半日市内見学。同夜サンホセ泊。
15日(月)朝専用バスで首都より20kmの避暑地アラフェラと花の都エレティアを周遊。同夜サンホセ泊。
16日(火)早朝サンホセ発、約3時間後メキシコ市へ引き返す。そのままテオティワカンの大遺跡へ専用バスで行き、太陽のピラミッド等に登頂。同夜メキシコ市泊。
17日(水)専用バスで奇跡の水が出る所へ行き、水を飲み、採取して、同夜はその土地のホテルに宿泊。
18日(木)専用バスでメキシコ市へ帰る。同夜はメキシコ市泊。
19日(金)メキシコ市滞在。希望者のみ古代マヤの遺跡パレンケへ飛び(要別途料金)。見学後メキシコ市へ帰り、同夜市内泊。
20日(土)早朝メキシコ市発、米サンフランシスコへ10:16発。13:40ユナイテッド航空837便で出発。
21日(日)成田へ16:25着。

- ★期間 1994年8月12日(金)より21日(日)まで10日間
- ★費用 59万5千円(1カ所別途料金)
- ★定員 20名
- ★航空機 ユナイテッド航空
- ★ローン 費用は24か月払いも利用できます。詳細は案内書をごらん下さい。
- ★参加資格 日本GAP会員と会員に同行する家族に限ります。
- ★案内書 下記へハガキでお申し込み下さい。〒150東京都渋谷区東3-24-3 サンイーストビル2F ワールドセプトラベル株式会社 田中正 ☎03-3499-2461 (夜間は田中宅0475-89-2039へ)
- ★説明会 第1回目 平成6年5月22日(日)
第2回目 " 7月24日(日)
会場・時間等については案内書申込者に後日お知らせします。
- ※ご注意 8月は1年を通じて航空運賃が最高値になる時期ですから、1~2月頃の最低運賃と比較しても無意味です。この費用は他社と比べて高くはありません。多数参加見込につき早目にお申し込み下さい。
- ★企画 日本GAP
- ★主催 株式会社 日本旅行
(運輸大臣登録一般旅行業第2号)
- ★取扱い旅行代理店 ワールドセプトラベル株式会社(運輸大臣登録旅行代理店業第1957号)

Letters

ユーコン広場



宇宙時代へ向って

栃木県 沖山 洋

先日に行なわれました「久保田先生と語ろう会」はGAP会員の若い人達に大変響きました。心からお礼を申し上げます。今日、宇宙時代への移行期に地球のために何かをしようと、若い人達(私も含めまして)は自覚しております。これからも日本GAPのもと、宇宙の意識に従って頑張りたいと思います。本当にありがとうございます。

素晴らしかった「語ろう会」

神奈川県 岡田 茂

こんにちは。一月二〇日のセミナーに参加した者です。先生の素晴らしいお話を聴けて、とても興奮し、また感動しました。夕食会も素晴らしい楽しくて、あの日のことは、けっして忘れないと思います。本当にありがとうございます。

二月の月例セミナーもとても楽しみにしています。いつも、学校の授業がこんなんだったらなあと思ひながら聴いています。これからも頑張りたいと思います。宜しくお願ひします。

それでは益々の御発展と御健康を心からお祈り申し上げます。さようなら。

投稿歓迎! 字数を問わず。匿名発表可なるも住所氏名明記のこと。

正解だったアダムスキー

埼玉県 柿沼直子

私は一月二〇日の「久保田先生と語ろう会」に参加させて頂いた者で、GAPに入ってから三年半たちます。先日のお礼を兼ねてお手紙を差し上げます。二〇名弱という少数の中での質問に熱心にお答え下さっている先生の姿に大変感激致しました。二時間という時間があっという間に過ぎたようでした。あの企画をして下さった加藤君にも大変感謝しております。これからも先生のお声を励みにアダムスキー哲学を学んでいくつもりです。

ところでUFOのことですが、私がアダムスキーの本に出会った頃(四年程前)よくそれらしきものを見ました。確かなものではなかったのですが、部屋の一角にミステリーゾーンと思われるほどいろいろ本が集まっています。そんなとき、アダムスキー全集第四巻を手にした私は「これだ!」と思ひ、夢中になって読みました。すぐに第一巻を買ひに行き、読み始めましたら、確かなUFOを見る事ができました。自分の要求するように動いてくれたり、すぐ近くまで降りてきてくれました。「そうだよ。その本が正解だよ」というデモンストレーションだったの

だなと思ひます。あの経験がその後の私の心の支えになっています。私のやるべきことはこれからまだまだいっぱいありますが、楽しんで生活していこうと思ひています。

やがて来る二世紀の新しい時代を支えていく今の子供達にとって良き指導者になれるよう絶対に頑張っていくつもりです。

アダムスキー哲学と出会う

東京都 星川桂子

前略、初めてお便りさせて頂きました。先日行なわれた「久保田先生と語ろう会」に参加させて頂きました。本当にどうもありがとうございます。少数の輪の中で、いろいろな質問にとっても熱心にお答えして下さい、とても興味深く勉強になる時間を過ごさせて頂きました。

姉の柿沼直子がアダムスキー哲学と出会いまして、それによつて私も深い感銘を受けてから、三年半ほどたちますが、その間に学ばせて頂いた事柄は数知れません。久保田先生には言葉や文字には表しきれないほど感謝の気持ちでいっぱいです。弛みない御指導でいつも導いて下さつて、本当にどうもありがとうございます。とはいえ、恥ずかしいくらいに未熟な私は、しょつちゅう何かやらかしたり、コントロールのできな自分になつたりしています。自分の子供っぽさを自覚するのも一苦労で、忍耐と勇気の重要性が深められていくように感じます。とても緩慢な歩みですが、絶えず努力していきたいと思ひます。今後共、どうぞ宜しくお願い致します。

久保田先生の御指導のもと、壮大で美しい宇宙計画が日に日に開花することを心からお祈りしています。

まだ駆け出しですが、アダムスキー哲学を生かして、人を幸福にする音楽を表現していきたいと思ひっております。

大阪 福井真子

この度のコスミック・エイジ・プロジェクト主催の「久保田八郎先生と語ろう会」では大変お世話になり、ありがとうございます。

日頃お尋ねしたいと思ひておりましたことをたたくさんのエピソードを交えながら分かりやすく答えて下さいました。月例会ではなかなかお聞きできなかったことを質問できる機会を得ることができました。心より感謝しております。ここで得られた知識を日々の生活に生かしたいと思ひます。

いつも見守つていて下さるスペーシブールの方々や、同世代の心強い仲間と共に、明るい宇宙時代の始まる二世紀に向かって前進してゆける喜びを感じています。

人を幸福にする音楽を

神奈川県 上藤末佳

日増しに寒さも身にしみるこの頃ですが、お元気で過ごさうと思ひます。

先日の若い会員の集いにおいて、先生から普段の月例会ではあまり聞くことのできない内容に接することができて、大変感謝致しております。本当にどうもありがとうございます。

また、個人的なことですが、私のささやかなサロンコンサートに遠くから足をお運び下さり、なんとお礼を申したらよいのやらわかりません。

男の中の男

静岡県 高梨十光

前略、久保田先生いつもありがとうございます。先日の東京月例セミナーでは、素晴らしい宇宙的な御公演で、ありがたく存じました。中でも、先生が上京され出版社を経営されたお話は、氣宇拡大なるフィリッパが湧き出し、先生の偉大な決意が感じられ、敬服致しました。「男の中の男」という言葉を思い出しました。久方ぶりに高揚した気分でありました。誠に先生の思召しには感謝致します。

人に伝える難しさ

埼玉県 熊谷美千代

近頃益々寒さが厳しくなつておりますが如何お過ごしでしょうか。先日は未熟な私に会員講演という重要な機会を与えて頂きましてありがとうございます。何かを人に伝える難しさを実感し、とても良い勉強になりました。

また先月の「語ろう会」という特別な場での細やかな質疑応答では新たな発見が多く、とても感謝致しました。どうもありがとうございます。これからも宇宙哲学に対する理解がもっと深まるよう努力していきたいと思ひますので、御指導のほど宜しくお願い致します。それでは良いクリスマスをお過ごし

理想タイプの人間になる

茨城県 大根田匡史

拝啓、寒さも厳しくなり、今年も残り少なくなってきました。私はこの時期に改めて私自身とスペースラザーズの方々、そしてGAPとの関係についてや、私はこれからどう生活すべきかを考えています。先生はどのようにお過ごしでしょうか。

「久保田先生と語る会」ではいろいろな貴重なお話をさせて頂き本当にありがとうございます。普段の月例会ではできないような質問などができ、あのパーティーでもお話しをすることができたことを出席者全員が喜んでいました。最後に先生が私達に「理想タイプの人間になることの大切さ」を力強く話されましたが、それは幼い頃から感受力の強かった私にはとても印象深い内容でした。私のあの時の先生の姿を見ながら、何故か、アダムスキー氏がデトロイトで行なった講演「スペースブラザーズはなぜ来るのか」を聞いた時の感じを強烈に思い出しました。今でもそれが印象に残っています。

ところで、私は先生に謝らねばなりません。二一日の期はホテルに先生をお迎えに伺いますと言っておきながら、そのことが守れなかったからです。それに必要以上に緊張して充分におもてなしすることができませんでした。そして、何よりもお礼の手紙を真つ先に書くべきなのにこのように遅くなり、先生に余計な心配をおかけしてしまいました。本当に申し訳ありませんでした。日頃の私のだらしなさが出てしまったよう

で、深く反省しています。これから、このようなことを繰り返すことのないようにしたいと思います。

次号のUコンが待ち遠しくてたまりません。毎回、その内容そして構成が素晴らしいのには、驚いてばかりです。先生がGAP活動にお持ちになっている信念と、先生を援助されている方々の波動が、あのような素晴らしい内容となって現れているのだらうと感じています。

月例セミナーに参加して

千葉県 林 寛子

初めてお便りします。私は今年の五月から東京月例セミナーに参加させて頂いております。アダムスキー全集に出会い、そして今年思い切つて月例セミナーに出席した御蔭で充実した毎日をおすごしております。また先日は「久保田八郎先生と語る会」にも出席できまして、貴重なお話を聞けましたことを感謝しております。

今年もあとわずかとなりましたが、一月からまた先生の御講演を聞けることを楽しみにしております。本の執筆、GAP活動と御多忙のことと思いますが、お体にはお気を付けてお過ごし下さい。

子供達の超能力

神奈川県 奥津邦男

朝夕の寒気には身が引き締まる思いがするこの頃ですが、早くも道端のたんぽぽの花が春のおとづれの近

いことを感じさせてくれます。

久保田会長始め、東京本部役員スタッフの皆様にはUコン一二四号の発行を無事終えられ、ホッと一息という御気分と拝察致します。私は去年の一月に入会させて頂き、一月のセミナーに初めて会長にお目通りがなかった、まだ新参の会員ですが、以来、朝に夕にUコン誌及び会長のお言葉の一言一言に深く感動する毎日をお過ごししております。本当に感謝に絶えません。

ところで私は篠氏と同じ養野市の在任にて厚木市の公立小学校に在勤するものでございますが、担当する小二の男女三四名を相手に余暇活動を利用してESP訓練を行なっております。今までに二回行ないましたが、ある女子が一〇回中八回の中という好成绩をとり、一同歓声をあげ、大いにこれからも頑張りたいという気になりました。

一二四号によりますと、横浜大会、秋田大会、伊豆大会と次々と大イベントが続きますね。横浜大会ではぜひお手伝いをさせて頂きたいと思っております。担当者各位の御健闘を心より祈り、筆を置かせていただきます。

同志を求む

広島県 西川真澄

数カ月前から毎晩眠る前に少しづつ「生命の科学」を読んでいます。でもあまり記憶に残らないので、最近各ページの要点を数行にまとめ書き取るようにしています。そのせいか、今では内容が深く、すんなりと自分の中に入ってくるようです。数年前に参加させて頂いた広島で

の月例セミナーのことを時々懐かしく思い出します。僅か二度でしたが、その雰囲気は穏やかで楽しいものでした。その後私は引つ越し、広島でのセミナーもなくなったので寂しく思っています。近くの福山あたりでもUFO、宇宙、アダムスキーについて話し合える場ができたらと願っています。どなたか一緒にされませんか？ 連絡を待っています。

大宇宙瞑想のパワー

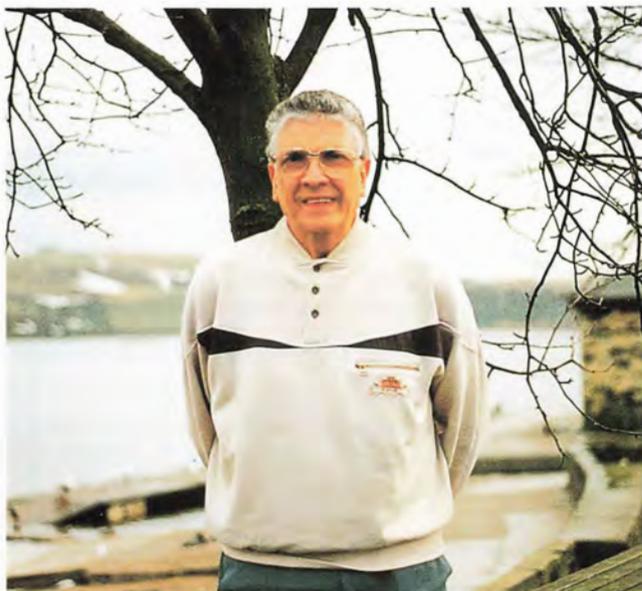
北海道 岸田博樹

久保田先生、初めまして。いつも御指導誠にありがとうございます。私は今年二月二〇日で二一歳になる専門学校生です。就職先も決つて無

事に卒業するはずだったのですが、昨年八月に内定を頂いた会社から不況のため一二月末に内定取消の知らせがありました。すごくショックでしたが、悪いことが起こると逆に良いことが起こるのではないかと信じておりました。

すると一月下旬に夢のような会社から求人案内が来まして、面接までの期間、毎日イメージ法と大宇宙瞑想を実施しました。すると見事に内定を頂くことができました。これも信念の力、希望の力、絶対に諦めない力によるものから実感致しました。

就職先は東京ですので、本部での月例セミナーには毎月参加したいと思っております。



▲イギリス北西部のランカシア一州に住む日本GAP会員エリック・オグデン氏。英文版Uコン誌を熟読する一種不思議な人物。

絶賛発売中

※新アダムスキー全集全巻をまとめてご注文頂きますと定価の10%引き+送料がサービスとなります。

新アダムスキー全集

—— 全面改訂・改訳 全10巻 ——

久保田八郎・訳／各四六判



中央アート出版社・発行 ①104 東京都中央区京橋3-7-13 三成ビル5F ☎03(3561)7017 ●郵便振替 東京8-66324

超絶した大文明を持つ、太陽系の他の惑星群の人々とコンタクトしたアダムスキーを米政府機関は密かにマークしていた / UFOや惑星群の驚異的実態と深遠な宇宙思想を伝える本全集は、地球人類に宇宙の覚醒の必要性と真の生き方を示す永遠の古典。UFOと宇宙哲学の研究者にとって必読の名著。旧全集を全面改訂した最新決定版。世界に類書なき金字塔 /

アダムスキー

① 第2惑星からの地球訪問者 352頁・定価1980円

UFO研究者として世界的に著名なジョージ・アダムスキーの、1952年11月20日、米カリフォルニア州の砂漠に着陸した円盤から出てきた金星人との会見から始まる驚異的なコンタクト実録。著者みずから円盤や母船に乗り組み、他の惑星の超絶的大文明の実態を明かにする、本全集の中心の書。写真多数収録。

アダムスキー

② 超能力開発法 (テレパシー、遠隔透視その他) 192頁・定価1300円

世間に氾濫する通俗的な超能力開発法とは根本から異なる宇宙的能力の発現法を説いたもの。目、耳、鼻、口、の四官をコントロールして、肉体内部の宇宙の意識から来るメッセージを感じ、真の意味でのテレパシー、遠隔透視その他の超能力を身につける方法を具体的に詳述。類書皆無の重要文献。

アダムスキー

③ 21世紀/生命の科学 208頁・定価1300円

アダムスキーが他界する前年に出した12冊分の講座を一冊にまとめたもの。アダムスキー宇宙哲学の総括的な大金字塔。特に人体細胞の実態と真実のテレパシー、及び惑星通信の誤り等を科学的に解説した超能力開発指導書。心霊現象への接近を警告する画期的な理論を明快に説く、第5巻の続編として必読のテキスト。

アダムスキー

④ UFO問答100 216頁・定価1300円

1958年にアダムスキーは、世界中から来る質問の洪水を分類して質疑応答集を出した。全部で100問のUFO関係の質問に懇切な回答を与えている。現在の混乱した世界のUFO研究界に的確な示唆と回答を示すものとして、内容は今も驚くほど新鮮で有用である。UFO研究者の素晴らしいガイドブック。

アダムスキー

⑤ 金星・土星探訪記 380頁・定価2400円

アダムスキーが母船に乗せられて、想像を絶する進歩をとげた金星と木星を訪れた体験記。特に金星人の少女として生まれかわったじき基メリーとの劇的な対面が圧巻。第2部には1958年以来、日本におけるアダムスキーの代理人として啓蒙活動に専念している久保田八郎宛の多数の書簡を収録。

アダムスキー

⑥ UFOの謎 262頁・定価1980円

UFOの推進原理をはじめ、聖書とUFOとの関連などを詳述して様々なミステリーを解明した重要な文献。第2部はアダムスキーの世界講演旅行記で、各国GAP網の活動状況が克明に描き出されていて1960年代のUFO研究界の実情と一般人の宇宙観がよく理解できる。第1巻の続編。

アダムスキー

⑦ 21世紀の宇宙哲学 148頁・定価1030円

地球人が真に宇宙的な成長をとげるための基本的思想として、マインド(心)と肉体内部に宿る宇宙の意識との一体化を説いた書。既成のあらゆる宗教や哲学では理解し得なかった人間の意識と万物との関係を説いて21世紀の思想を先取りした。第5巻、6巻と合わせてアダムスキー哲学の3部作をなす。

アダムスキー

⑧ UFO・人間・宇宙 370頁・定価2400円

アダムスキー支持活動団体として世界のトップクラスをゆく日本GAPの機関誌に掲載された、アダムスキーのUFOと宇宙哲学関係の論文、講演録等を編集。他界する直前の最後の講演が圧巻。第2部には訳者・久保田八郎が再三渡米してアダムスキーの今はじき高弟たちと接したインタビュー記事を収録。

アダムスキー

⑨ UFOの真相 320頁・定価1980円 1991年4月刊 /

アダムスキーの薫陶を受けた人達の論議・講演録等を収録。宇宙の実像と人間味豊かな庶民性をあわせもつ偉人の素顔を多角的に描写。ア氏の高弟アリス・ボマロイ、キース・フリットクロフト、ハンズ・ピーターセン、金星文字を解説して画期的な永久モーターを開発したバシル・バン・ダン・バーグらの証言が圧巻。「サンビストロ大寺院の異星人」と題する久保田八郎の体験記も興味深い。

アダムスキー

⑩ 超人ジョージ・アダムスキー 232頁・定価1300円

最大の新アダムスキー全集の最後をしめくくる完結篇。アダムスキーの宇宙的な活動と深遠な哲学を集約して伝えるとともに、彼の伝記をも加えてこの1冊の人間像を克明に描写。これ1冊でアダムスキー問題の何たるかが理解できる全集のコンパクト版。豊富な写真入り。国際的なアダムスキー研究者・久保田八郎が書き下ろし執筆。

UFO—宇宙からの完全な証拠 480頁・定価2800円

ダニエル・ロス著／久保田八郎訳

アメリカの気鋭UFO研究者ダニエル・ロス氏が全力で展開したUFO問題の真相。月・惑星探査結果に関するNASA(米航空宇宙局)の隠蔽工作を暴露し、アダムスキーの体験の真実性を科学的に実証した画期的な内容の本書は、UFOの研究者のみならず、宇宙科学に関心ある人にもきわめて有益な知識情報の源泉となる。写真多数掲載。

UFO・遭遇と真実 —日本編—

★久保田八郎著 ￥1500 送料￥250 四六判・246頁 美麗カバー付

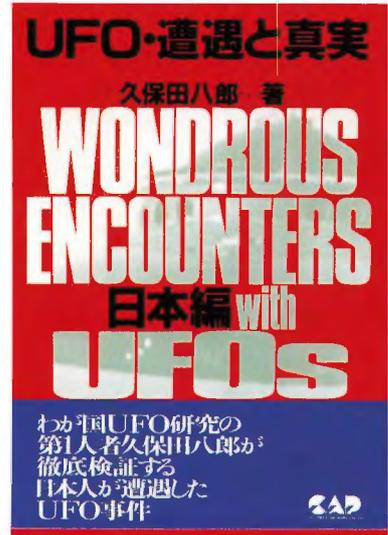
日本で発生した驚異的なUFO事件を8件選び、わが国UFO研究界の第一人者・久保田八郎が新たに書き下ろして読みやすく編集した本書は、類書がないほどに不可思議な事件に満ちています。実証主義をつらぬく著者が各事件現場を検証、体験者や証人達に直接会って徹底的に調査した結果、真実そのものであると確認した事件のみを流麗な筆致で活写。豊富な写真・イラストとあいまって読者を大気圏外の世界へ誘う稀有の保存資料です。

■書店で品切れの節は下記へ郵便振替か現金書留でご注文下さい。
中央アート出版社 〒104 東京都中央区京橋3-7-13
振替・東京8-66324

※上記の書籍は日本GAPでも取扱います。著者の署名捺印入り。
ハガキでご注文下されば代金後払いで直送します。

(内容)

- ①関東大震災中に横浜で人々を救出した円盤
- ②東京タワーから少年が円盤と塔乗員を目撃
- ③高松市に超低空で降下した円盤と手を振る少年
- ④旭川市郊外の夜空に展開した物凄い光景
- ⑤UFOに乗せられてエジプトまで飛んだ少年
- ⑥熱烈な願いに応じて出現したUFOを撮影
- ⑦尾道市に出現したアダムスキー型円盤と母船
- ⑧円盤や母船に乗って別な惑星に行ってきた秋山真人氏



英文版「UFO contactee」No.9 発行 日本GAP

日5版/12頁/コート紙使用/￥500 送料￥190/5冊まで￥270/6冊以上￥390 (NO.1～3は品切れ)

日本GAP発行英文版ユーコン誌は理想主義的なUFO専門誌として、世界各国のUFO研究団体や個人研究者から絶賛を浴びています。多くのUFO研究誌がオバケ宇宙人、誘拐事件、その他恐怖心を煽るような記事に終始しているなか、日本GAPは日本語版・英語版とも地球の未来に大いなる希望を持ち、人間の飛躍の可能性を引き出すための指針に満ちた記事を掲載しています。英文版第9号には日本語版117号に掲載された「巨大宇宙船、デザートセンター上空に出現!」を英訳。カラー写真入り。他にも新アダムスキー全集第4巻掲載の質疑応答の原文、日本GAPの活動状況を伝えた記事等が流麗な英文で掲載されています。もとの日本語記事と対照して読めば英語学習にも最適です。

編集集後記 SSSSS

★UFOの出現は相変わらず続いています。特にアダムスキー型円盤といわれるUFOを見たという人は意外に多く、本号の大野義和氏の場合も素晴らしい体験の一つです。
★「UFOを頻繁に見る私のカルマ」は、ご本人の精神と目撃とに何らかの関連があることをうかがわせる重要な記事です。次回で完結します。
★上原則子さんの連載記事「私を助けてくれる異星人達」は都合により本号では休載し次号に掲載します。
★「生命と物質と超能力」は筆者がバナマで書いた力作です。さわめて啓発的な内容で、画期的な理論を展開しています。今後、第二次、第三次の記事が楽しみです。
★白眉はアダムスキーの「異星人はなぜ地球へ来るのか」ですね。これを読みますと彼の情報には首尾一貫して錯誤がないことが分かります。あの膨大なアダムスキー全集の中にもなかった新しい情報が含まれていることも分かり、今読んで興味深いものを感じます。次号ではさらに興味深い情報が展開しますので、ご期待下さい。
★UFO目撃報告、UFO写真、超能力開発体験、宇宙哲学研究実践、宇宙科学等の原稿や資料を募集しています。原稿書きの苦手な方には面談して取材します。ふるってご応募下さい。
★本誌は多数のヴォランティアにより全国の主要書店に卸されています。この活動に参加希望の方はハガキでお申し込み下さい。説明書をお送りします。(K)

日本GAP専門誌・季刊 夏月号
UFO contactee 125号
編集発行人 久保田八郎
発行所 日本GAP
〒133東京都江戸川区本一色1-12-1111
TEL 03-3651-0958
振替 00140-2-35912
定価九二七円(本体九〇〇円・送料240円)
※本誌掲載の全記事写真共、他の印刷物への無断転載を禁じます。

1994年度

日本GAP全国月例セミナー案内

支部名	日 時	会 場	会 費	プログラム・テキスト
東京本部	毎月第1日曜日 午後1:00→5:00 ※5月のみは第2日曜日の8日に変更。	港区芝公園3丁目5-8「機械振興会館」地下3F第2研修室。 ☎03-3434-8216。JR浜松町駅下車。東京タワーの正面前。 浜松町駅から東京タワー行きバスで約8分。 連絡先=日本GAP本部 ☎03-3651-0958 ※日曜日は正面玄関が閉じられているので、右へ回って建物の右側面の入口から入る。	会場費 ¥1000 セミナー受講料 ¥1500 計¥2500	1:00→1:30 会員による講演。 1:30→3:00 久保田会長による講演。 ※平成6年1月よりテキストを新ア全集2巻「超能力開発法」に変更。 3:10→5:00 超能力開発練習/近況報告/質疑応答。
大阪支部	毎月第3日曜日 午後1:00→5:00	大阪府吹田市出口町4丁目「吹田市民会館」 ☎388-7351。JRまたは阪急電車吹田駅下車。 連絡先=平塚和義 ☎06-436-3478 平成4年1~10月=「尼崎市立産業郷土会館」兵庫県尼崎市東大物町1-1-2	¥500	東京月例会における久保田会長の講義録音テープを公開。 テキストその他=東京本部に同じ。
新潟支部	毎月第4日曜日 午後1:00→5:00	新潟市東万代町9「新潟市青年の家」(万代市民会館と同じ建物) ☎025-246-7711。JR新潟駅より徒歩5分。 連絡先=星 富治夫 ☎02579-2-5562	¥500	同 上
名古屋支部	毎月第2日曜日 午後1:00→4:30	名古屋市中区金山1丁目5番1号「名古屋市民会館」特別会議室。 ☎052-331-2141代。 JR東海・名鉄・地下鉄の金山橋より徒歩5分。 連絡先=林 園宣 ☎0586-45-6468	¥300	同 上
仙台支部	毎月第3日曜日 午後1:10→4:20 ※当分の間、セミナーは中止。	仙台市青葉区米ヶ袋1-1-35「仙台市片平市民センター」会議室。 ☎022-227-5333。仙台駅からお豊橋経由動物公園方面バスで約7~10分。東北大正門前下車、真向かいの建物。 連絡先=笠原弘可 ☎022-284-2910	¥300	同 上
山形支部	毎月第1日曜日 午後1:00→5:00 ※日時に変更があるため、毎月事前に柴田宛電話で問い合わせること。	山形県天童市老野森1丁目1-1「天童市中央公民館」 ☎0236-54-1511。天童駅から徒歩10分、タクシー4分。天童市役所の裏側。 連絡先=柴田光明 ☎0233-25-3261	¥300	同 上
札幌支部	毎月第1日曜日 午後1:00→4:30 ※日時・会場は不定につき、事前に高野宛問い合わせること。	中央区北一条西13丁目「札幌市教育文化会館」会議室。 ☎011-271-5821。 連絡先=高野省志 ☎011-783-6393	¥500	同 上
旭川支部	毎月第4日曜日 午後1:00→5:00	旭川市五条4丁目「旭川ときわ市民ホール」3F 302研修室 ☎0166-23-5577 連絡先=川上三秀 ☎0166-61-0044	¥500	同 上
沖縄支部	毎月第4日曜日 午後1:00→4:30	具志川市栄野比1213-1「具志川市野外レクセンター」会議室。 ☎09897-2-7722 連絡先=里 孝人 ☎098-869-9964	¥500	同 上
秋田支部	毎月第2日曜日 午後1:00→5:00	秋田市八橋運動公園1-2「中央公民館」趣味の間。 ☎0188-24-5377。 連絡先=伊藤正治 ☎0188-62-2831	¥500	同 上
横浜支部	毎月第3日曜日 午後1:00→5:00	横浜市中区万代町2-4-7「横浜市技能文化会館」7F 703号室。 ☎045-681-6511。JR 関内駅、地下鉄・伊勢崎長者町駅より徒歩3分。 連絡先=清水 正 ☎03-5951-3518	¥500	同 上
茨城支部	毎月第4日曜日 午後1:20→5:00	水戸市梅香1-2「三の丸公民館」小集会室。 ☎0292-24-6600。水戸駅北口より徒歩10分。 連絡先=清水勝一 ☎0292-73-1903	¥300	同 上
長野支部	毎月第4日曜日 午後1:00→5:00	塩尻市大門7番町「塩尻総合文化センター」第1会議室。 ☎0263-54-1253。 連絡先=博田文喜 ☎0263-58-8510	¥500	同 上
紀南会	毎月第3日曜日 午後1:00→5:00 ※日時と会場については小川宛事前に問い合わせること。	和歌山県新宮市新宮6682-1「新宮市福祉センター」1F相談室。 ☎0735-21-2760。JR 西日本新宮駅下車、徒歩5分。 連絡先=(副代表)小川隆志 ☎0735-32-2834	¥300	同 上
栃木支部	毎月第3日曜日 午後1:00→5:00	鹿沼市市役所裏「御殿山会館」1F小会議室。 ☎0289-64-4334。JR 鹿沼駅から西へ1.5km。東武新鹿沼駅から北へ1.5km。市内行きのバスに乗り天神町下車。徒歩5分。 連絡先=渡辺克明 ☎0289-62-3319	¥500	同 上
南九州支部	毎月第4日曜日 午後1:00→5:00	指宿市東方12000番地「指宿市民会館」 ☎0993-22-4105 連絡先=鶴田清則 ☎0993-25-3252	¥500	同 上
高松支部	毎月第3日曜日 午後1:30→4:30	香川県坂出市寿町1-3-5「坂出勤労福祉センター」 ☎0877-46-2463 JR 坂出駅より徒歩10分。 連絡先=関 高明 ☎0875-72-2698	¥500	同 上
伊豆支部	毎月第1日曜日 午後1:00→4:30 ※日時に変更があるため事前に高梨宛電話。 ※5月は支部大会のため月例セミナーは中止。	静岡県三島市一番町20-5「三島市民文化会館」第3会議室。 ☎0559-76-4455。三島駅より徒歩3分。 連絡先=高梨十光 ☎0558-72-7832	¥500	同 上



オーゾン肖像写真

1952年11月20日、アダムスキーがカリフォルニア州のデザートセンターで会見した金星人を、目撃者の一人アリス・ウエルズ女史が双眼鏡で観察しながら描いたスケッチをもとにして女流画家ゲイ・ベッツが油絵に仕上げた絵画の写真。10.5cm×17cm(不許複製転載)

¥1,000 送料¥130

金星のシンボルマーク

中央の眼は万物を見透す宇宙の意識、つまり人体を生かす生命パワーと叡知をあらわし、周囲の4層の放射状ゾーンは人間のマインド(心)の発達状態をあらわしています。人間のマインド(心)は眼・耳・鼻・口の四つから形成されるので4層になっているのです。



¥500 送料¥80



ESPカード〈超能力開発用〉

テレビシー、遠隔透視等の能力開発用としてアメリカのテューク大学で開発されたカード。5種類の図形カードが各5枚ずつあり、計25枚のセット。堅牢な厚紙製。重さ40g、5.7cm×8.9cm。携帯に便利なポケット用。どこでも気軽に練習できます。使用説明書付き。

¥900 送料¥130 (2~5個)¥190

テレフォンカード

日本GAP特製テレフォンカードの第6弾。1952年11月20日、カリフォルニア州デザートセンターでアダムスキーがコンタクトした金星人が地面に残した靴の裏の不思議な図形が採用されています。これは今も謎のままになっています。



¥1,500 送料10枚まで¥80



GAPキーホルダー

日本GAPがデザインして製作したオリジナル・キーホルダー。シンボルマークの周囲を「WITH COSMIC CONSCIOUSNESS(宇宙の意識とともに)」の金文字が取り巻く優雅なデザイン。円形部分は直径3.2cm。鎖とも全長9cm。非常に堅牢に出来ています。

¥1,900 送料130

会員バッジ

金星のシンボルマークが金色に輝く優雅なデザイン。表面の透明樹脂がキズを防ぎ、光を反射してキラキラ輝きます。男性用は裏の留め金が心棒ネジ留め式。女性用は安全ピン式。ご注文の際は、いずれかを明記して下さい。実物の直径は1.7cm。



¥2,000 送料4個まで130



ブックカバー

主として新アダムスキー全集用に作られたカバーですが、同じ大きさの四六判の書籍ならどれにも使用できます。表側の中央にシンボルマークと「宇宙の意識とともに」を意味する英文が金色で箔押しされた濃紺色の優雅なデザインです。人造皮革製。

¥1,200 送料¥190 5枚まで¥270

GAPシール

シンボルマークを「宇宙の意識とともに」の英文が取り巻く優雅なデザインのシールです。カバンその他の持ち物に最適。

1枚に大小5個1組 ¥200 送料10枚まで¥80



新アダムスキー全集 訳・著者 久保田八郎の署名捺印入り

中央アート出版社刊「新アダムスキー全集」を日本GAPでも取り扱っています。各巻とも扉に久保田八郎の署名と捺印を入れてお届けします。詳細については本誌の広告を参照して下さい。全巻注文の際の定価割引はありません。送料は1冊310、7冊まで¥660、10冊まで¥900。ハガキでご注文下されば代金後払いでお届け致します。

上記各商品のご注文の際は住所・氏名・品名・個数・電話番号をご記入の上、郵便振替が現金書留でご注文下さい。代金後払いも承ります。その場合はハガキに上記のとおりにご記入の上お送り下さい。商品の中に郵便振替用紙を同封しておきますから、現品到着後、最寄り郵便局からご送金下さい。消費税は無関係です。

〒113 東京都江戸川区本一色1-12-1-511

日本GAP 振替 00140-2-35912

※旧振替番号「東京4-35912」 ☎03-3651-0958
と旧振替用紙も当分の間、使用可能。

申込先

日本GAP能力開発カセットテープ

★日本GAP東京本部月例セミナー

毎月開催される日本GAP東京本部月例セミナーから、久保田会長の「超能力開発法」解説講義と質疑応答その他を録音したテープ。これを聴けば絶大な信念と勇気がわきあがり、あらゆる障害を超えて成功に到達できます。

- テープ① ¥1500
〈内容〉久保田会長による新アダムスキー全集第2巻「超能力開発法」の講義。近況報告。
- テープ② ¥1200
〈内容〉会員による講演、超能力開発練習、質疑応答。
- 1993年度日本GAP総会 2巻セット ¥2700
〈内容〉久保田会長講演「信念と希望と絶対に諦めない力を引き出す方法と成功の秘訣」質疑応答。※総会テープのバックナンバーあり。往復ハガキでお問い合わせください。送料テープ1本 ¥190、2~3本 ¥270、4~6本 ¥390

品名、〇年〇月分、個数、氏名、住所、電話番号をご明記の上、郵便振替でご注文下さい。(テープの代金後払い不可) ※旧振替番号「東京0-1626 〒113 東京都江戸川区本一色1-24-3-202 44」と旧振替用紙も当分の間、使用可能。
松村芳之 振替 001001-2-162644 ☎03-3653-9387

申込先

日本GAPビデオ

臨場感溢れる画像があなたを会場に引き込み、宇宙的な一体感を起こします。全巻VHS。

- 東京本部月例セミナー 全1巻 ¥3000
〈内容〉久保田会長の解説講義、他、約120分。
- 日本GAP総会 全2巻各¥3000
〈内容〉毎年開催される日本GAP総会を完全収録。(1989年度分から在庫あり)。
- 日本GAP海外研修旅行 全1巻 ¥3000
〈内容〉旅行のハイライトをまとめた楽しいビデオ。(1989年度分から在庫あり)。
- 1992年度デザートセンター調査行 全1巻 ¥3000
〈内容〉1952年11月20日、アダムスキーが金星人とコンタクトした地点その他を調査した記録。送料はビデオ1本¥900、2本以上3本まで¥700、4本以上7本までは距離に応じて変わります。

※旧振替番号「東京4-13811」と旧振替用紙も当分の間、使用可能。



申込先

ご注文の際は品名、〇年〇月分、上下巻の区別、個数、住所氏名、電話番号をご明記の上、郵便振替でお申し込み下さい。(ビデオの代金後払い不可) 〒162 東京都新宿区富久町36-18 富久マンション103
伊東芳和 振替 00140-8-13811 ☎03-3351-9526

UFO contactee

125号

一九九四年四月二五日発行

発行所

日本GAP

〒133東京都江戸川区本一色1-12-1-511

定価九二七円(本体九〇〇円)

送料二四〇円